

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 キリスト教概論		教員名 近藤愛哉	
科目時間数： 30時間		1 5 限 授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年： 年次	開講時期： ☒ 前期 ☒ 後期 ☐ 集中	
【授業の目的・ねらい】 紀元前（旧約聖書）、紀元1世紀（新約聖書）に書かれた「古典」でありながら、現代においても世界中で読み継がれ、多くの人々に生きる指針を与え続けている聖書に触れ、この世界、人間という存在を理解するための一つの糸口を見出す。キリスト教の世界観を知ることにより、学生たちの世界観、人間観の構築の一助とする。			
【ディプロマポリシーとの関連】 （当該科目が最も関連するDPに○） 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. ☒ あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 イエス・キリストという人物、その教え、生き方に触れる。旧約聖書の世界観、人間観に触れる。			
【授業における達成課題】 キリスト教の思想や哲学が社会福祉に与えた影響を理解できる			
【使用教材・テキスト等】 「聖書」 日本聖書協会			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. ☒ PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】			
【備考】 中部学院大学通信教育部の成績評価基準に準ずる			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 教会牧師			

科目名 キリスト教概論		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 近藤愛哉
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	イントロダクション	授業計画の確認。「キリスト教概論」を学ぶ意義を知る。	
2限 3時間 4時間	聖書という書物	聖書66巻の構成／世界中で読まれ続けている聖書／その成り立ちを知る。	
3限 5時間 6時間	イエス・キリストと新約聖書（福音書）	イエスの人物像／その生涯を記録した「福音書」について	
4限 7時間 8時間	マルコによる福音書を読む	小グループに分かれて、聖書に記録されている内容についてディスカッションをする。	
5限 9時間 10時間	イエスの生き方/視点／教えに触れる	イエスの教えが現代に生きる私たちにとってどのような意味を持つのか考える。	
6限 11時間 12時間	同上	同上	
7限 13時間 14時間	立体的に聖書を捉える	映画「サンオブゴッド」鑑賞	
8限 15時間 16時間	同上	同上	
9限 17時間 18時間	世界を変えた十字架	イエス・キリストの十字架が世界に及ぼしている影響・その意味について考える。 ※ネルソン・マンデラの人生	
10限 19時間 20時間	旧約聖書に見る世界観	旧約聖書「創世記」から、この世界について考える。	
11限 21時間 22時間	旧約聖書に見る人間観	旧約聖書「創世記」から、人間の存在について考える。	
12限 23時間 24時間	同上	同上	
13限 25時間 26時間	旧約聖書の人物	旧約聖書の人物「ノア」「アブラハム」「モーセ」らの生き方について考える。	
14限 27時間 28時間	世界の問題・課題と聖書	聖書が世界の問題・課題に対してどのように解決の糸口をもたらすことが出来るのか。	
15限 29時間 30時間	まとめ	振り返って、それぞれが聖書とどのように向き合い、その内容を受け取ったのかをまとめる。	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名		情報リテラシー入門		教員名		梅木 美喜子	
科目時間数 :		15時間		8 限		授業の種類 :	
必修・選択 の 別 :		必修・選択		配当学年 :		1 年次	
				開講時期 :		前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 情報の意味と情報機器の発達過程とトータルな情報機器の理解、ワープロ、表計算、プレゼンテーションの基本操作の習得 【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する 【授業全体の内容の概要】 WORD (ワープロ) の基本的な操作方法と実用的なドキュメントの作成 【授業における達成課題】 当該科目について、心理福祉専門職として福祉実践に必要な知識を習得する							
		使用教材			出版社		
		Word 2016			FOM出版		
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()							
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()							
【備考】 評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA (80点以上)、B (79～70点)、C (69～60点)、D (59点以下) の4段階で評価する。							
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無							
【内容】 一般企業におけるエンジニア							

科目名 情報リテラシー入門		総時限数 15時間 7, 5限	教員名 梅木 美喜子
時限数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 2時間	タイピング	パソコンの基本操作・用語、タッチメソッドの確認	
2限 4時間	WORDの基礎知識	現在のビジネス環境とネットワーク、WORDの概要説明	
3限 6時間	文字入力	タッチメソッドの練習色々な方法での日本語変換	
4限 8時間	〃	〃	
5限 10時間	文書の作成	タッチメソッド、ページの設定	
6限 12時間	〃	セキュリティ対策とトラブルシューティング	
7限 14時間	〃	〃	
7.5限 15時間	確認試験	実技・知識的要素の確認	

授業計画表

心理福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名		身体による表現活動（スポーツ実技）		教員名		高橋裕貴子	
科目時間数：		15時間		7.5限		授業の種類：	
必修・選択の別：		必修・選択		配当学年：		1年	
				開講時期：		前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 スポーツは様々な分野でレクリエーションやリラクゼーションの手法となっており、老若男女問わず楽しめるものから、競技性を重視したものまで幅広く扱われている。各種スポーツのルールを通し、団体競技の目的を理解するとともに、スポーツ実技における基本的な姿勢や目的、価値を学ぶ。 【ディプロマポリシーとの関連】（当該科目が最も関連するDPに○） 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する 【授業全体の内容の概要】 ・レクリエーションやスポーツの役割を学ぶ。 ・スポーツのルールの意義を学び、団体競技の楽しさを知る ・スポーツが福祉支援に与える影響を学ぶ。 【授業における達成課題】 ・各種スポーツのルールを理解する。 ・団体競技の特性を知り、チームプレーの重要性を理解する。 ・自ら主体的に協議に参加する姿勢を身に着ける。							
		使用教材				出版社	
		※実技のため、その都度提示					
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（体育館等）							
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）							
【備考】 評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。							
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無							
【内容】 公立学校の体育講師等							

科目名		科目時間総数	教員名
身体による表現活動		15時間 7.5限	高橋 裕貴子
時限数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1. 2時間	レクリエーション ↓	筋力トレーニング・ダンスの展開 ↓	
2限 3. 4時間			
3限 5. 6時間			
4限 7. 8時間			
5限 9. 10時間			
6限 11. 12時間			
7限 13. 14時間			
8限 15. 16時間			

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名		言語による表現活動（コミュニケーション英語）		教員名		川村 繭子	
科目時間数：		30時間		15限		授業の種類：	
必修・選択の別：		必修・選択		配当学年：		1年次	
				開講時期：		前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 英語を主体とするコミュニケーション能力を身につける							
【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する							
【授業全体の内容の概要】 自分のことを英語で表現できるようになる。また、英語でコミュニケーションを取りながらクラス名を知り、より発話しやすい環境を作る。簡単な英単語がとっさに言える瞬発力を高め、色々な場面での英会話表現を知り、実際に発話できるように導く。							
【授業における達成課題】 - 積極的に英語でコミュニケーションをとる意欲を育て、わからないことを抵抗なく質問したり、考えたり、答えたり、反応したりすることができるようになる。 - 場面に応じた英会話表現をとっさに表現できるようになる。							
		使用教材			出版社		
		Passport1 secomd edition			Oxford Press		
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）							
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）							
【備考】 評価について：試験、レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。							
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無							
【内容】 英会話教室講師							

科目名 言語による表現活動（コミュニケーション英語）		科目時間総数 30時間 15限	教員名 川村 繭子
時限数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 2時間	オリエンテーション 英語で自己紹介する	英語で自己紹介、英語でクラスメイトの紹介をする	
2限 4時間	簡単な英会話表現 機内で質問する	How do you say_____in English?の表現ができる	
3限 6時間	〃	Unit1 : Would you kile chicken of fish?	
4限 8時間	簡単な英会話表現 入国審査に挑む	What's color is_____?の表現ができる	
5限 10時間	〃	Unit2 : Can I have your passport, please?	
6限 12時間	簡単な英会話表現 食べ物を注文する	IN which month is___?の表現ができる	
7限 14時間	〃	Unit5:Are you ready to order?	
8限 16時間	簡単な英会話表現 家族について話す	What's _____?の表現ができる	
9限 18時間	〃	Unit3:My mother has her own buisiness.	
10限 20時間	簡単な英会話表現 道をたずねる	How many____are there in ____?の表現ができる	
11限 22時間	〃	Unit6:Where's the station?	
12限 24時間	簡単な英会話表現 病状を話す	What's the first letter of_____?の表現ができる	
13限 26時間	〃	Unit9:I have a stomackache.	
14限 28時間	簡単な英会話表現 地元について話す	What does_____say in English?の表現ができる	
15限 30時間	〃	Unit10:I'm from Japan.	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 日本国憲法		教員名 吉田 友哉	
科目時間数： 60時間 (30限)		授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別：	☒ 必修・選択	配当学年： 4年次	開講時期： ☒ 前期・ ☒ 後期・集中
【授業の目的・ねらい】 日本国憲法の学習を通じて、基本的人権の尊重や国家の制度について理解を深め、社会人としての一般教養を身につけることを目的とする。			
【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) ☒ 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 「基本的人権の尊重」については、その理念と社会での実現について、判例を用いて学ぶことで理解を深める。また「国家制度」については、歴史を振り返りながら条文を学ぶことで理解を深める。			
【授業における達成課題】 憲法及び法律の学習に必要な用語とその定義・考え方について理解を深め、説明できるようになる。また、憲法に関する社会問題について考察し、自らの考えを説明できるようになる。			
【使用教材・テキスト等】 「スタート憲法」 (成文堂)			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 レポート及び筆記試験			
【備 考】 中部学院大学の評価方法による。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ☒ 無			
【内 容】			

科目名 日本国憲法		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 吉田 友哉
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	日本国憲法の基本原理 〃	日本国憲法の成立とその基本原理について説明できる。 〃	
2限 3時間 4時間	日本国憲法の基本原理 〃	日本国憲法の成立とその基本原理について説明できる。 〃	
3限 5時間 6時間	人権の享有主体 〃	人権の享有主体とそれにかかわる代表的な判例について説明できる。 〃	
4限 7時間 8時間	人権の享有主体 〃	人権の享有主体とその代表的な判例について説明できる。 〃	
5限 9時間 10時間	幸福追求権 〃	幸福追求権とその代表的な判例について説明できる。 〃	
6限 11時間 12時間	幸福追求権 〃	幸福追求権とその代表的な判例について説明できる。 〃	
7限 13時間 14時間	法の下での平等 〃	法の下での平等とその代表的な判例について説明できる。 〃	
8限 15時間 16時間	法の下での平等 〃	法の下での平等とその代表的な判例について説明できる。 〃	
9限 17時間 18時間	精神的自由 〃	精神的自由権とその代表的な判例について説明できる。 〃	
10限 19時間 20時間	精神的自由 〃	精神的自由権とその代表的な判例について説明できる。 〃	
11限 21時間 22時間	精神的自由 〃	精神的自由権とその代表的な判例について説明できる。 〃	
12限 23時間 24時間	精神的自由 〃	精神的自由権とその代表的な判例について説明できる。 〃	
13限 25時間 26時間	精神的自由 〃	精神的自由権とその代表的な判例について説明できる。 〃	
14限 27時間 28時間	精神的自由 〃	精神的自由権とその代表的な判例について説明できる。 〃	
15限 29時間 30時間	経済的自由 〃	経済的自由権とその代表的な判例について説明できる。 〃	
16限 31時間 32時間	経済的自由 〃	経済的自由権とその代表的な判例について説明できる。 〃	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
17限 33時間 34時間	人身の自由 〃	人身の自由とその代表的な判例について説明できる。 〃
18限 35時間 36時間	人身の自由 〃	人身の自由とその代表的な判例について説明できる。 〃
19限 37時間 38時間	社会権 〃	社会権とその代表的な判例について説明できる。 〃
20限 39時間 40時間	社会権 〃	社会権とその代表的な判例について説明できる。 〃
21限 41時間 42時間	基本的人権のまとめ 〃	基本的人権について振り返り、用語や判例について説明できる。 〃
22限 43時間 44時間	国民主権と選挙 〃	国民主権と各選挙の制度について説明できる。 〃
23限 45時間 46時間	国会 〃	国会の役割とその働きについて説明できる。 〃
24限 47時間 48時間	国会 〃	国会の役割とその働きについて説明できる。 〃
25限 49時間 50時間	内閣 〃	内閣の役割とその働きについて説明できる。 〃
26限 51時間 52時間	内閣 〃	内閣の役割とその働きについて説明できる。 〃
27限 53時間 54時間	裁判所 〃	裁判所の役割とその働きについて説明できる。 〃
28限 55時間 56時間	裁判所 〃	裁判所の役割とその働きについて説明できる。 〃
29限 57時間 58時間	平和主義 〃	平和主義についてその歴史を振り返り説明できる。 〃
30限 59時間 60時間	まとめ 〃	日本国憲法の学習を振り返り、説明できる。 〃

授業計画表

心理福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名		法学入門		教員名		高橋 秀憲	
科目時間数：		21時間		授業の種類		10.5限 講義・演習・実習	
必修・選択の別：		必修・選択		配当学年		1年 開講時期：前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 法律は難しく裁判所は敷居が高いというのが普通の人の感覚だろう。しかし、その大筋を知り実際に行ってみると、社会に発生する各種トラブル解決のためのなくてはならない道具であることがわかる。が、道具は使えよう。正しく用いるために、その用途と限界をわきまえておきたい。まずは法学的思考の世界を体感してみることである。 【授業全体の内容の概要】 六法をてはじめに法学の基本的概念とその体系性を把握したうえで、憲法・民法・刑法等の基本概念を習得しながら、身近なトピックで照合・確認しつつ応用を試す形で講義を行う。 【授業における達成課題】 新聞・テレビ等マスコミに報道される事件・問題あるいは自分の身近な問題を法学的側面から考察し、論点を整理したうえで自分なりの判断ができるようにすること。これを教養ベースにして、専門分野に挑戦し、一人前の社会人としてあるいは裁判員として活躍すること。							
		使用教材				出版社	
		エッセンシャル法学				成文堂	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）							
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）							
【備考】 評価について：試験、レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。							
【担当教員の実務経験の有無】 有・無							
【内容】							

科目名		科目時限総数	教員名
法学入門		21時間 (10.5限)	高橋 秀憲
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	はじめに	礼に始まって例に終わる意味を理解する	
2限	六法と法令秩序	六法を手掛かりに公法・私法・社会法他様々な基本概念を習得する	
3限	〃	近代法の原則と現代法の原則、法は生き物であることを理解する	
4限	裁判所に行ってみよう	裁判の仕組みと裁判所の組織・三審制を理解する	
5限	国民の要件	憲法10条と国際法の関連法令条文のつながりを理解する	
6限	車社会と法	民事・刑事・行政責任、服部君事件を振り返りその関係を知る	
7限	〃	不法行為、原状回復義務と損害賠償責任の内容を知る	
8限	消費生活と法	契約の自由と公序良俗、契約の無効と取り消しを理解する	
9限	勤労生活と法	勤労の権利及び義務、労働三権と労働三法を理解する	
10限	家族生活と法	親子・夫婦・親族、生活保持の義務と扶養の義務を理解する	
10.5限	おわりに	国法だけでなく各地域のルールである条例を理解する	

授業計画表

心理福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名		スポーツ科学論		教員名		伊藤 優太	
科目時間数：		30時間		授業の種類		15限 講義・演習・実習	
必修・選択の別：		必修・選択		配当学年		3年次	
				開講時期：		前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 中部学院大学の科目の一つとして、スポーツの歴史から発育発達などを知る。テーピングは座学だけではなく実技として取り入れ、よりスポーツに関する知識を知る。 【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する 【授業全体の内容の概要】 座学を中心に、筋肉などはトレーニング室を使用しながら進めていく。スポーツ選手を中心に、各スポーツや自分自身が体験してきた実際を紹介しながら進めていく。 【授業における達成課題】 中部学院大学レポート合格はもちろん、スポーツに興味を持ち自分自身の体づくりまでできるようにする。生涯スポーツを通しより健康に過ごせるきっかけを作る。							
		使用教材		出版社			
		スポーツ科学論		株式会社みらい			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()							
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()							
【備考】 評価について：試験、レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。							
【担当教員の実務経験の有無】 有・無							
【内容】							

科目名		科目時限総数	教員名
スポーツ科学論		30時間（15限）	伊藤 優太
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	スポーツの変遷	古代～近代スポーツの移行を理解する	
2限	〃	アマチュアスポーツ、プロスポーツの役割を理解する	
3限	人体の発育と発達	身体の発育と発達・形態の理解	
4限	〃	発育・発達に影響を及ぼす因子・加齢	
5限	運動と筋肉	筋肉の構成、骨格筋の構造、運動エネルギーを理解する	
6限	〃	無酸素運動、有酸素運動の効果を理解する	
7限	トレーニングの種類	サーキットトレーニングの効果を理解する	
8限	〃	サーキットトレーニングの効果	
9限	スポーツ医学	テーピングの効果を理解する（足首）	
10限	〃	テーピングの効果を理解する（足首）	
11限	〃	テーピングの効果を理解する（手首）	
12限	〃	テーピングの効果を理解する（手首）	
13限	スポーツと栄養	運動と栄養補給の関係を理解する	
14限	〃	喫煙や飲酒が及ぼす影響を理解する	
15限	〃	ディスカッション（スポーツと健康）	

授業計画表

心理福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名		生命倫理		教員名		近藤 愛哉	
科目時間数：				60時間（30限）			
授業の種類：				講義・演習・実習			
必修・選択の別：		必修・選択		配当学年		2 年次	
				開講時期：		前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 生命に関する諸問題について、その内容を概観しつつ生きるということ、人間の生命について考えつつそのような視点を培っていく。 【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する 【授業全体の内容の概要】 生命倫理の諸問題に関する講義とディスカッションを通じ、倫理学の視点や他人の考えに触れつつ、自分がどのような視点を持って判断するのかを考える。 【授業における達成課題】 毎回のディスカッションを通して、他人の考えを聞きつつ、自分の視点を持つためのヒントを得る。							
		使用教材		出版社			
学生用		生命倫理を学ぶ人のために		世界思想社			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）							
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）							
【備考】 評価について：試験、レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。							
【担当教員の実務経験の有無】 有 無							
【内容】 教会牧師							

科目名		科目時間総数	教員名
生命倫理		60時間（30限）	近藤 愛哉
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	イントロダクション	科目説明・授業の狙い	
2限	インフォームドコンセント	病の告知・自分と家族、それぞれの場合	
3限	パターナリズム	パターナリズムの実例	
4限	パーソン論	人工妊娠中絶・障害者・脳死	
5限	〃		
6限	生命の申請里生命の質	安楽死について	
7限	医療資源の配分	医療資源をどう配分するか	
8限	生きるとは何か	映画鑑賞	
9限	安楽死	安楽死賛成？反対？	
10限	〃	映画鑑賞	
11限	〃	ディスカッション	
12限	〃	映画鑑賞	
13限	〃	ディスカッション	
14限	〃	安楽死まとめ	
15限	生殖医療	生殖医療の発展の中で生じた問題・見失われたもの	
16限	〃	胎児に障害、その時あなたは？	
17限	〃	映画鑑賞	
18限	〃	ディスカッション	
19限	〃	まとめ	
20限	臓器移植	臓器移植技術の発達によって生じた問題	
21限	〃	映画鑑賞	
22限	〃	ディスカッション	
23限	〃	ディスカッション	
24限	〃	ディスカッション	
25限	人生の最後に向けた備え	映画鑑賞	
26限	〃	ディスカッション	
27限	〃	ディスカッション	
28限	〃	ディスカッション	
29限	〃	講義のまとめ	
30限	〃	レポート作成	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名		ターミナルケア論		教員名		菊池 要子	
科目時間数：		30時間（15限）		授業の種類：		講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別：		必修・選択		配当学年：		3 年次	
				開講時期：		前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 これまで福祉の関心は生きることの援助に向けられてきたが、現在は死についての援助が求められている。この両者は不可分のものであり、死についての深い認識があって初めて生に関する援助に対する確固たる根拠を持つことができる。介護はもちろんのこと、メンタル側面や家族に対する支えを含む広いケアを学ぶことを目的とする。 【ディプロマポリシーとの関連】（当該科目が最も関連するDPに○） 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する 【授業全体の内容の概要】 - 福祉のターミナルケアの定義を理解する。 - ソーシャルワーカーがターミナルケアに果たす役割を理解する。 - 市の受容過程を理解し、ターミナル期の支援方法を知る。 【授業における達成課題】 - ターミナルケアの概念と宗教的価値観の理解 - 生命との向き合いと倫理観の理解 - ソーシャルワークとターミナルケアの関連性の理解							
		使用教材		出版社			
		「ケアを問い直す」		筑摩書房			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）							
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）							
【備考】 評価について：筆記試験、レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。							
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無							
【内容】福祉施設における施設長							

科目名		科目時限総数	教員名
ターミナルケア論		30時間（15限）	菊池 要子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 2時間	オリエンテーション	講義のアウトラインを理解する	
2限 4時間	ターミナルケアへの接近	医療・福祉現場におけるケアの意味を理解する	
3限 6時間	福祉のターミナルケア	ターミナルケアの位置づけと展開方法を学ぶ	
4限 8時間	医療現場のターミナルケア	〃	
5限 10時間	政策としてのターミナルケア	ターミナルケアが政策としてどのようにかかわっているのか理解する	
6限 12時間	死の恐怖について	〃	
7限 14時間	医療現場のターミナルケア	医療現場におけるターミナルケアの位置づけを理解する	
8限 16時間	否認と孤立	〃	
9限 18時間	怒り	疾患を告知された後の行動の変容とその根拠を理解する	
10限 20時間	否認と孤立	疾患の告知の場面にて、適切な説明と同意について考察できる	
11限 22時間	取引	「治りたい」願望がどのような行動となって表現されるかを理解する	
12限 24時間	抑うつ	死期が迫りゆく患者に対し、「価値ある生」への転換の過程を理解する	
13限 26時間	受容	終活に代表される死を受容した患者の行動変容を理解する	
14限 28時間	患者の家族	ターミナルケアに参加する患者のストレスや心理状況を把握し、家族への適切なケアを理解する	
15限 30時間	ライフステージと死	家族、親族、友人それぞれの立場から死をとらえる価値観の相違を理解する	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ボランティア活動論		教員名 中村 英治	
科目時間数： 60時間 30限		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： 必修	配当学年： 3年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 ボランティア活動を、共に生きる社会参加の方法としてとらえ、現代社会のボランティア活動の意義と役割について考察する。及び専門職としてのボランティアコーディネーターの役割と基礎的な知識の習得を目標とする。			
【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 1 ボランティア活動と現代社会 2 ボランティア活動が生み出す「人と人とのつながり」 3 ボランティア活動の広がり 4 ボランティア活動をとらえて現代社会を展望する。 *課題発表、グループワークを通して、ボランティアという「人間や環境を大切にする活動」と企業の経済的な利益を優先する経済」と共生できる社会的視点を育てたい。			
【授業における達成課題】 ○「ボランティア」という言葉の意味、その思想と意味、その思想と活動、ボランティア活動の性格と役割を理解し、この活動が期待される背景を理解する。 ○ボランティア活動の意義、社会での役割、行政、企業との相違、パートナーシップ、活動上の課題、有償活動の議論等への自分の問題意識を明確にしていく。			
【使用教材・テキスト等】 ボランティア論 「広がり」から「深まり」へ (株) みらい 2010			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 中部学院大学通信教育部の評価基準に準ずる			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 児童相談所 特別支援学校 日本人学校 福祉サービス事業所 (精神障害、発達障害)			

科目名 ボランティア活動論		科目時間総数 60時間 (30限)	教員名 中村 英治
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	①授業の位置づけを知る。自分の夢や希望とボランティアとの関わりを考える。 ②アイスブレイクを实践する。 ③K J法を实践する。	
2限 3時間 4時間	〃	④S S Tを知る。 ⑤ボランティアーもう一つの情報社会 (試験)	
3限 5時間 6時間	1ボランティアとは何か	1 なぜボランティアをするのか。 ①ボランティアの性格を4項目挙げる事ができる。 ②ボランティアの語源を説明できる。 ③ボランティアの意義を知る。 2 なぜ「相手や世の中のため」に動くのか ①利他主義とその類似のことばをあげる事ができる。 ②バーネット夫妻について出身地や業績を説明できる。	
4限 7時間 8時間	〃	3 「私のため」もボランティアーボランティアの目的と成果 ①あなたのためのボランティアの側面を説明できる。 ②私もいただくボランティアの側面を説明できる。 ③ボランティアの成果を説明できる。 4 ボランティアは「お互いのため」ー互酬と関係性 ①自分のためのボランティアは何かを説明できる。 ②互酬の考え方を説明できる。 ③ボランティアにおける他人と自分の関係性を説明できる。	
5限 9時間 10時間	2ボランティア活動の現状と課題	1 ボランティア活動の現状と広がり ①社協が把握しているボランティアの人数と団体数を言える。 ②NPO法人数の全国の数と自分の出身県の数と言える。 ③NPO法人の活動分野の代表的な分野を3個以上言える ④ソーシャルキャピタルについて、説明できる。	
6限 11時間 12時間	〃	2 ボランティア活動の課題と動向 ①地縁型組織とテーマ型組織の相互関係を説明できる。 ②活動への参加希望と実際の活動参加の数を推測できる。 ③活動支援の地方自治体施策の動向を説明できる。 ④企業の社会貢献活動の意義を説明できる。	
7限 13時間 14時間	3ボランティアと現代社会	1 ボランティアと現代社会を読み解く ①市民社会と共生文化の価値を説明できる。 ②生涯学習の歩みの基本と価値を説明できる。 ③NPO法、QOL、介護保険制度について説明できる。 ④ボランティア活動の構造化の基本ワードを言える。 2 ボランティア活動と社会福祉協議会 ①善意銀行がいつ、どこで、誰がはじめたかを説明できる。 ②ボランティアセンターの広がり行政施策の関係を大まかに説明できる。 ③全社協のボランティア活動支援の歩みを大まかに言える。 ④各地のボランティアセンターの主要施策を言える。	
8限 15時間 16時間	〃	3 ボランティア元年の意味すること ボランティア元年のうまれた契機を説明できる。 4 「広がれボランティアの輪」連絡会議の意義 「いつでも、どこでも、誰でも、楽しく」を主張した団体について説明できる。	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
9限 17時間 18時間	4日本におけるボランティアの普及・推進の歩み	1 大阪ボランティア協会の「想い」 大阪ボランティアの基本要綱の「民主主義」と「住民自治」について説明できる。 2 民間ボランティア活動推進機関の胎動 ①さかえ隣保館、方面委員制度について説明できる。 ②ワークショップの由来と内容を説明できる。 ③参加システム、プロジェクトチームの目的を説明できる。 ④ワークキャンプ、VYS、BBS、ポラントピアのながれについて説明できる。
10限 19時間 20時間	〃	3 新しい市民社会創出に向けて ①阪神・淡路大震災の残したものについて説明できる。 ②ボランティアコーディネートについて説明できる。 CCC、経団連1%クラブ、インターミディアリー、NPOの略語について説明できる。 ③企業社会貢献活動について、その意義を説明できる。 サステイナブル、コンプライアンス、フィンランソロピー、CSRについて説明できる。 ④ボランティア団体とNPO制度の関わりについて説明できる。
11限 21時間 22時間	5人と人とのかかわりー 児童・障害者・高齢者ー	1 人生を変える出会い ①社会環境の変化の具体例を3個以上あげることができる。 体験的学びとは何かを説明できる。 ②ソーシャルワーカーとは何かを説明できる。 ③施設の社会化について、バリアフリー、ノーマライゼーションについて説明できる。 2 人生を豊かにする ①ボランティアと自己実現の関係を説明できる。 ②ボランティアと年齢制限について、自分の意見を言える。 ③自己有用感と社会貢献意識について説明できる。 ④権利擁護とソーシャルアクションについて説明できる。
12限 23時間 24時間	〃	3 ボランティア活動に期待される社会的役割 社会生活の7つの基本的要求（①家族的安定②職業的安定③経済的安定④保健・医療の保証⑤教育の保証⑥社会参加の機会⑦文化・娯楽の機会）についてのべることができる。
13限 25時間 26時間	6地域社会のボランティア	1 地域福祉の推進の必要性が高まる中で ①身近な支え合いの内容として自助共助公助があり、それについて説明できる。 ②地域社会のボランティアセンターについて説明できる。 ③社会福祉協議会と専門職について述べることができる。 ④町内会、教育・学習、文化・伝承、自然環境保全、地域福祉について身近な取組をあげることができる。
14限 27時間 28時間	〃	2 地域社会を豊かにするボランティア活動事例 ①サロン活動と自治会活動について説明できる。 ②一人の思いをどう発展させるか、自分の考えを述べることができる。 ③住民のネットワークとミニボランティアセンターについて自分の考えを述べることができる。 3 これからの社会に必要なとされる地域社会のボランティア ①集う場づくり ②仲間とネットワークづくり ③つなぐ力について 自分の意見を言うことができる。
15限 29時間 30時間	7環境とボランティア	1 個人から組織へ ヒト、もの、金、情報の必要性について、述べることができる。 2 グループ活動事始め 会合の定例化、機関紙、会費について、その意義と組織運営のコツを述べることができる。

科目名 ボランティア活動論		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 中村 英治
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
31時間 16限 32時間	7環境とボランティア	3 テーマ型組織の運営 水平型運営、リスクの解決法、当事者との関係について述べること できる。 4 エリア型組織の運営 住民アンケート、地元購入、住民代表と共有について、その重要性 を述べることができる。 5 人材育成 ① OJT, OFF-JT, SD について説明できる。 ② 啓発、人材養成、スキルアップの3つについて、その受講者数 も含め説明できる。	
33時間 17限 34時間	8災害ボランティア	1 なぜ？いつから？どのように？災害ボランティア ① 災害ボランティアの用語が生まれたきっかけを述べること ができる。 ② 災害ボランティアの多様な活動の内容を5個以上あげることが できる。 ③ 地域特性による活動を2個以上あげることができる。 ④ 後方支援について説明できる。	
35時間 18限 36時間	〃	2 誰のため？何のため？災害ボランティアセンター ① 被災者本位の重要性を説明できる。 ② 心得を3個以上あげることができる。 ③ ボランティアセンターとコーディネーターの関係を説明できる。	
37時間 19限 38時間	9 国際ボランティア	1 国際ボランティアとは？ ① 世界に向けたボランティアの意義を自分のことばで説明できる。 ② NGO についてその概要を説明できる。 ③ 「地球市民」の意義を述べることができる。 2 日本における国際ボランティアの背景と歴史 ① 日本の大まかな歩みを述べることができる。 ② 主な国際組織を3個以上挙げることができる。 3 国際ボランティア活動の中でのジレンマや問題 ① ジレンマ、問題について、2個以上説明ができる。 ② シンパシーとエンパシーの違いを述べることができる。 4 海外でのボランティア実践から 当たり前、発想、視野、次世代がキースードになる理由を説明 できる。 5 国際ボランティアの醍醐味 ① 喜び、充実感、醍醐味が実感できることを知る。 ② 楽しむためのアラカルトのを2～3個言える。	
39時間 20限 40時間	〃	6 国際交流 同じ学園内で学ぶ中国、ベトナム、インドネシア等の留学生と交流 し、社会、文化、生活習慣について、話し合い、物の見方考え方の違いを 知り、違う文化の中でのボランティア活動の意義と役割を考察する。	
41時間 21限 42時間	10ボランティア学習	1 ボランティア学習の不確定性と豊かさ ボランティア学習の定義の概要を述べることができる。 2 教育力の低下が危ぶまれる時代において期待される役割 ① FE, NFE, IFE について説明できる。 ② JYVA, CSV, SL について説明できる。 ③ デューイ、フレイレについてその業績を述べることができる。 3 新しい社会づくりに資するボランティア学習 エンパワメントについて、説明し、その意義を述べること ができる。	
43時間 22限 44時間	〃	4 ボランティア学習の成立環境・条件 ① イリイチの業績とオンブズパーソンについて説明できる。 ② 正統的周辺参加の3条件を述べることができる。 5 持続可能な開発のための教育としての総合化の可能性 ESD の3条件について説明できる。	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
45時間 23限 46時間	11ボランティア活動支援	1 ボランティア活動の支援とは何か ①意欲と行動のギャップについて推測し、自分の考えを述べることができる。 ②想いと出会いをどのようにセットするか自分の考えを述べることができる。
47時間 24限 48時間	〃	2 ボランティアセンターとボランティアコーディネーター ①ボランティアセンターの活動支援の内容を6項目述べるができる。 ②コーディネーターの業務の類型を3項目述べるができる。
49時間 25限 50時間	12ボランティア組織の運営	1 個人から組織へ ヒト、もの、金、情報の必要性について、述べるができる。 2 グループ活動事始め 会合の定例化、機関紙、会費について、その意義と組織運営のコツを述べるができる。 3 テーマ型組織の運営 水平型運営、リスクの解決法、当事者との関係について述べることができる。
51時間 26限 52時間	〃	4 エリア型組織の運営 住民アンケート、地元購入、住民代表と共有について、その重要性を述べるができる。 5 人材育成 ①OJT, OFF-JT, SDについて説明できる。 ②啓発、人材養成、スキルアップの3つについて、その受講者数も含め説明できる。
53時間 27限 54時間	〃	NPO組織の立ち上げ 定款の作成
55時間 28限 56時間	〃	福祉サービス事業所の運営規程作成 就労系事業所の運営規定の作成
57時間 29限 58時間	13ボランティアの可能性	1 ボランティアの可能性と展望 かわり、出会い、つながりについて、自分のことばで説明できる。 2 福祉の原点としてのボランティア 制度的保障と直接的市民参加の関係を説明できる。
59時間 30限 60時間	14先人から学ぶボランティア	1 連帯性と「事故にとっての不利益の選択」を問い直す 連帯と共生について、自分なりの考えを説明できる。 2 日本における「主体性」と互酬、双方向性 日本社会の特質、互酬、共同について、自分の考えを述べるができる。 3 現代社会における「社会性」とボランティアの役割 その質、役割、公共性について自分の考えを述べるができる 4 まとめ

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 情報活用論A・B		教員名 梅木 美喜子	
科目時間数：		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年： 年次	開講時期： ☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 集中	
〔授業の目的・ねらい〕 情報の意味と情報機器の発達過程とトータルな情報機器の理解、ワープロ、表計算、プレゼンテーションの基本操作の習得			
〔ディプロマポリシーとの関連〕 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する ☒ 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
〔授業全体の内容の概要〕 ・WORD (ワープロ) 基本的な操作方法と実用的なドキュメントの作成			
〔授業における達成課題〕 当該科目について、心理福祉専門職として福祉実践に必要な知識を身に付けられるようになる			
〔使用教材・テキスト等〕			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 出席率、授業態度、作成物で評価をつける			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 一般企業におけるエンジニア			

科目名 情報活用論A・B		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 梅木 美喜子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	第2章 文字の入力	タッチメソッド、文字や文章入力と日本語変換	
2限 3時間 4時間	〃	〃	
3限 5時間 6時間	第3章 文書の作成	タイピング練習、ビジネス文書の作成、文字を揃える、修飾する	
4限 7時間 8時間	〃	〃	
5限 9時間 10時間	第4章 表の作成	表の構造を変更、セルの結合と分割 表の書式の設定、表のプロパティの設定	
6限 11時間 12時間	〃	〃	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	〃	〃	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	第5章 文書の編集	色々な書式の設定、スタイルの登録、ヘッダー・フッターの作成	
11限 21時間 22時間	〃	〃	
12限 23時間 24時間	第6章 表現力をアップ	図形の作成と書式の設定、図表の挿入、複数図形の組合せ	
13限 25時間 26時間	〃	〃	
14限 27時間 28時間	文書作成練習	各種書式の組み込み、図形、写真等を挿入した文書作成	
15限 29時間 30時間	確認試験	実技・知識的要素の確認	

科目名 情報活用論A・B		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 梅木 美喜子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
16限 31時間 32時間	データの入力	Excelの概要、データの種類、演算記号	
17限 33時間 34時間	〃	データの種類、演算記号、基本操作	
18限 35時間 36時間	表の作成	関数（オートΣ）、罫線の設定、表示形式、配置、書式の設定	
19限 37時間 38時間	〃	〃	
20限 39時間 40時間	数式の入力	関数オートΣ（MAX、MIN……）、相対・絶対参照	
21限 41時間 42時間	〃	関数（phonetic関数）、ふりがなの設定、ユーザ定義の表示形式	
22限 43時間 44時間	表の印刷	ページ設定、印刷様式の設定、改ページ箇所の変更	
23限 45時間 46時間	複数シートの操作	作業グループの設定、3D集計	
24限 47時間 48時間	〃	〃	
25限 49時間 50時間	グラフの作成	グラフ機能の概要、円グラフと棒グラフの作成	
26限 51時間 52時間	〃	〃	
27限 53時間 54時間	データベース	並べ替えと抽出	
28限 55時間 56時間	〃	〃	
29限 57時間 58時間	ピボットテーブル 差し込み印刷	ピボットテーブルとピボットグラフの作成 差し込み印刷の設定と印刷	
30限 59時間 60時間	確認試験	実技・知識的要素の確認	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 心理学		教員名 會津 真子									
科目時間数： 60時間（30 限）		授業の種類： 講義・演習・実習									
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 1年次	開講時期： 前期・後期・集中									
【授業の目的・ねらい】 心理学における基本的な知識を身につけ、心理的支援についての学びを深める 【心理福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する 【授業全体の内容の概要】 心理学の基本的な知識を理解した上で、 現場で活用することができるような心理的支援のスキルを取得することを目指す 【授業における達成課題】 ・心理学の歴史や、科学としての心理学とその研究法について理解できる ・人の心の仕組みや機能について理解できる ・心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本を身につける ・様々なことへ興味を持つ姿勢を身につける ・自分自身のことについて理解できる											
【使用教材・テキスト等】 中央法規 心理学と心理的支援											
【使用教室】 <table border="0"> <tr> <td>1. HR</td> <td>2. 介護実習室</td> <td>3. 家政実習室</td> <td>4. 視聴覚室</td> </tr> <tr> <td>5. PC実習室</td> <td>6. 接遇実習室</td> <td>7. その他（</td> <td>）</td> </tr> </table>				1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室	5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他（	）
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室								
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他（	）								
【評価方法】 レポート・科目修了試験・出席率・授業態度等にて評価											
【備考】											
【担当教員の実務経験の有無】 有・無 スクールカウンセラーとしての 実務経験											

科目名		科目時間総数 60 時間 (30 限)		教員名 會津 真子	
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と達成目標	
1	限	1 時間	オリエンテーション	授業の位置づけについて理解する	
		2 時間			
2	限	3 時間	日常生活と心の健康	ストレスの代表的な理論や理解のしかたを学ぶ	
		4 時間			
3	限	5 時間	〃	心の健康の維持や増進、回復について学ぶ	
		6 時間			
4	限	7 時間	心の生物学的基盤	ニューロンの電氣的活動や神経系について学ぶ	
		8 時間			
5	限	9 時間	〃	感情の全体像やそのメカニズムについて学ぶ	
		10 時間			
6	限	11 時間	〃	動機づけが起こる過程や、動機づけの強さに影響を与える要因について理解する	
		12 時間			
7	限	13 時間	〃	感覚・知覚の基本的な仕組みを学ぶ	
		14 時間			
8	限	15 時間	〃	学習の概要について学ぶ（古典的条件づけ・オペラント条件づけ）	
		16 時間			
9	限	17 時間	〃	記憶の基本的特性と記憶の種類について学ぶ	
		18 時間			
10	限	19 時間	〃	知能の概要、知能検査の仕組みを理解する	
		20 時間			
11	限	21 時間	〃	自己の成り立ちや自己に影響する要因について学ぶ	
		22 時間			
12	限	23 時間	人の心の発達過程	発達段階と発達課題について理解する	
		24 時間			
13	限	25 時間	〃	認知と道徳性の発達について理解する	
		26 時間			
14	限	27 時間	心理学の歴史と心理学の対象	心理学の発展の歴史を理解する	
		28 時間			
15	限	29 時間	前期のまとめ	予備日（レポート対策、国試問題チャレンジ）とする	
		30 時間			

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16	限	オリエンテーション	後期の授業の内容の概要を理解する 前期の内容についての疑問を解消する
	31時間 限 32時間		
17	限	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本	面接および心理検査によるアセスメントについて学ぶ
	33時間 限 34時間		
18	限	ソーシャルワークにおける心理的支援	各種心理療法について基本的な知識を学ぶ
	35時間 限 36時間		
19	限	〃	心理療法の、ソーシャルワーク場面への適用について理解する
	37時間 限 38時間		
20	限	〃	心理職の代表的な資格と業務および専門性について理解する
	39時間 限 40時間		
21	限	ソーシャルワークと心理学	子ども・家庭福祉の分野での心理的援助について学びを深める
	41時間 限 42時間		
22	限	〃	高齢者福祉の分野での心理的援助について学びを深める
	43時間 限 44時間		
23	限	〃	障害児・者福祉の分野での心理的援助について学びを深める
	45時間 限 46時間		
24	限	〃	精神保健福祉領域の個別支援の実際を理解する
	47時間 限 48時間		
25	限	〃	支援者支援に関する基本概念について理解する
	49時間 限 50時間		
26	限	〃	事例を通じて支援制度の導入の仕方について理解を深める
	51時間 限 52時間		
27	限	まとめ	予備日（レポート対策、国試問題チャレンジ）とする
	53時間 限 54時間		
28	限	〃	〃
	55時間 限 56時間		
29	限	〃	〃
	57時間 限 58時間		
30	限	テスト実施	テストを行う
	59時間 限 60時間		

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 社会学と社会システム		教員名 菊池 裕生	
科目時間数： 45時間 22.5限		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修 選択	配当学年： 年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 多様なまなざしで社会事象をとらえる目を養い、かつ、とらえどころの難しい「社会」をとらえる視点を身につけることで、多様で多層的な理解のもと様々な可能性を想定してニーズに対応できるソーシャルワーカーとなることを目指す。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 ①社会学的なものの見方を理解する ②社会を「システム」として理解することを学ぶ ③現代のコミュニティの特性を理解する ④ジェンダーについて学び、性差別について理解する ⑤カゾクとは何かをあらためて問い、その現代における実態を把握する ⑥少子高齢化にともなう人口減社会の実態とその影響について理解する			
【授業における達成課題】 ・多層的・多面的に社会を捉えられるようになる。 ・社会集団としてのコミュニティの現代的特性について説明できるようになる。 ・ジェンダーが問いかける社会的・現代的な意味について自分なりの意見を持つ。 ・多様化する家族について視野を広げ、多角的に家族を支援できるようになる。 ・少子高齢化の要因を理解し、未来社会を思い描くことができる。			
【使用教材・テキスト等】 社会学と社会システム 中央法規出版			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 大学等での非常勤講師経験。			

科目名 社会学と社会システム		科目時間総数 45時間 (22.5限)	教員名 菊池 裕生
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	第1回 社会学とは何か？	・「目明性」を疑うことによって、どんな利点があるのかを理解できるようになる。 ・演習を通し、自明性を疑うことの重要性を理解できるようになる。	
2限 3時間 4時間	第2回 社会学の分析対象	・社会学が、社会（集団）、自己、相互行為を具体的分析対象としていることを理解する。	
3限 5時間 6時間	〃	・「社会」とはなにかを説明できるようになる。 ・理念型としての社会集団が備えている3つの特性を挙げられるようになる。 ・ウェーバーの行為の四類型をそれぞれ説明できるようになる。 ・社会、集団とは何かを説明できるようになる。 ・クーリー、テンニース、マッキーバーの集団類型をそれぞれ説明できるようになる。 ・現代のコミュニティの特性について説明できるようになる。 ・コミュニティ変容をめぐる3つの理論的立場をそれぞれ理解できるようになる。	
4限 7時間 8時間	〃	・自己とは何か、一言で説明できるようになる。 ・社会化とは何か、説明できるようになると同時に、その重要性を理解できるようになる。 ・なぜ社会を「システム」としてとらえるのか、その理由を説明できるようになる。 ・達成度チェックテストにより、知識を定着させる。	
5限 9時間 10時間	第3回 現代社会はどのように成立したのか	・科学革命により、科学的・合理的思考へと変化していった過程を理解できるようになる。 ・市民革命により、民主主義国家が成立していった経緯を理解できるようになる。 ・産業革命により、第三次産業、資本家中心、の社会が形成されていったことを理解できるようになる。	
6限 11時間 12時間	〃	・都市化した社会の特徴を一つ以上説明できるようになる。 ・コント、スペンサーの社会変動論をすべて列挙できるようになる。 ・デュルケームの社会変動論の類型を列挙し、その内容を説明できるようになる。 ・社会学者の唱える社会変動論の共通点を説明できるようになる。 ・達成度チェックテストにより、知識を定着させる。	
7限 13時間 14時間	第4回 ジェンダーとは何か	・ジェンダーの定義を暗唱できるようになる。 ・性差別の現状を、演習を通じ実感する。 ・性差別とは何かを説明できるようになる。 ・性差別が生じる要因を説明できるようになる。	
8限 15時間 16時間	〃	・性的マイノリティをめぐる問題について、一つ以上説明できるようになる。 ・性を分ける（「性別」を定める）ことが困難な社会になっていることを理解できるようになる。	
9限 17時間 18時間	〃	・現代社会におけるジェンダーの意味について自分なりの意見を持てるようになる。 ・達成度チェックテストにより、知識を定着させる。	
10限 19時間 20時間	第6回 現代社会の特徴	・現在の日本が人口減少社会であることを、データから理解できるようになる。 ・現在多くの道府県が「少産多死＋流出超過」社会となっていることを、データから理解できるようになる。	
11限 21時間 22時間	〃	・少子化の現状をデータから理解した上で、少子化の原因を説明できるようになる。	
12限 23時間 24時間	〃	・達成度チェックテストにより、知識を定着させる。	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
13限 25時間 26時間	第5回 家族とは何か	・演習を通じ、「カゾク」を定義づける困難さに気づく。
14限 27時間 28時間	〃	・「家族」と「世帯」の違いを説明できるようになる。 ・家族を「世帯」と捉えることによって見えてくる、日本の家族の現代的特徴を数値とともに説明できるようになる。 ・現代の家族のはらむ危険性について、世帯構成の変化から説明できるようになる。
15限 29時間 30時間	〃	〃
16限 31時間 32時間	〃	〃
17限 33時間 34時間	〃	・「近代家族」の特徴三つを説明できるようになる。 ・現代家族の源流と言える「近代家族」以前の家族の様子を想像できるようになる。 ・家族の対社会的機能を説明できるようになる。
18限 35時間 36時間	〃	〃
19限 37時間 38時間	〃	〃
20限 39時間 40時間	〃	・家族の対個人的機能4つをすべて挙げられるようになる。 ・家族が必要とされている理由を、対社会的側面、及び対個人的側面からそれぞれ説明できるようになる。 ・単婚家族に限定されない新しい家族の形について、自分なりの意見を持つ。 ・達成度チェックテストにより、知識を定着させる。
21限 41時間 42時間	〃	〃
22限 43時間 44時間	〃	〃
22.5限 45時間	達成度テスト	・筆記試験の実施

授業計画表

心理福祉 学科

30時間（15限）

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 医学知識		教員名 藤原 基子	
科目時間数：30時間（15限）		授業の種類：講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 年次	開講時期：前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 精神保健福祉士としてソーシャルワーク、ケアマネジメント、地域ケアのコーディネートにより医療職種との連携を強めるために医学に関する基本的知識を身に着ける。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ① 相手の立場に立てる感受性が身につく、豊かな人間性と心を備えている。 ② 人間と生活を総合的に理解し、個別性を尊重した生活支援を実践できる能力が身につく。 ③ 基本的な生活習慣とマナーが身につく、社会に協調し責任ある言動が取れる			
【授業全体の内容の概要】 人の成長・発達と老化を学び身体的精神的な変化の特徴を理解できる。また、身体構造と人体の解剖学・生理学が理解できる。			
【授業における達成課題】 疾病や心身の不自由さを持ちながら生活している方々をアセスメントでき、地域包括ケアシステムを活用した支援ができる。			
【使用教材・テキスト等】 共通科目 使用教材：最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士 医学概論 出版社：中央法規			
【使用教室】 ① HR ② 介護実習室 ③ 家政実習室 ④ 視聴覚室 ⑤ PC実習室 ⑥ 接遇実習室 ⑦ その他（ ）			
【評価方法】 授業態度（リアクションペーパー等）20% 出席率20% レポート30% 小テスト30%			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】			

科目名		科目時間総数	教員名
医学知識		30時間（15限）	藤原 基子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 1時間 2時間	オリエンテーション ライフステージ心身の特徴	乳児期から成人期の成長と心身の特徴について理解できる	
2 3時間 4時間	心身の加齢・老化 ライフステージ健康課題	加齢と老化の違いと臓器の加齢変化、老年症候群の概念を理解できる 胎生期から高齢者の健康について理解できる	
3 5時間 6時間	健康・疾病の捉え方 身体構造と心身機能	WHOの健康の定義、ICFの概要、健康寿命の概念を学び理解できる 人体部位の名所と器官系と臓器の役割を学び理解できる	
4 7時間 8時間	〃 疾病と障害成り立ち回復	〃 疾病の発生の原因、病変の成立基準について学び理解できる	
5 9時間 10時間	リハビリの概要と範囲	リハビリテーション概要と目的を学び、ADLとQOLについても理解できる	
6 11時間 12時間	疾病障害予防治療予後リ 〃	主な感染症の概要を学び、感染対策を理解できる 中枢神経系を学び神経難病の特徴、障害を理解できる	
7 13時間 14時間	〃 〃	脳血管疾患を学び脳血管疾患後遺症による介護と発症予防が理解できる 心臓の解剖を学び心疾患と高血圧症について理解できる	
8 15時間 16時間	〃 〃	糖尿病と脂質異常、甲状腺機能を学び理解できる 肺の解剖を学び呼吸器疾患について理解できる	
9 17時間 18時間	〃 〃	腎臓・泌尿器系の解剖を学び疾患について理解できる 消化器の解剖を学び肝胆膵疾患、消化器疾患について理解できる	
10 19時間 20時間	〃 〃	骨の解剖を学び骨粗鬆症、関節疾患について学ぶ 血液疾患・膠原病・アレルギー疾患について理解できる	
11 21時間 22時間	〃 〃	眼科疾患、視覚障害を学び理解できる 耳鼻咽喉疾患、聴覚障害、平衡機能障害について理解できる	
12 23時間 24時間	〃 〃	主な歯・口腔の疾患、歯科保健の状況について理解できる 婦人科・産科について理解できる	
13 25時間 26時間	〃 〃	精神疾患、精神保健福祉法について理解できる 小児疾患、肢体不自由について理解できる	
14 27時間 28時間	〃 〃	高齢者に多い疾患について理解できる 生活習慣病について理解できる	
15 29時間 30時間	〃 公衆衛生	悪性腫瘍と緩和ケアについて理解できる 公衆衛生と予防医学、保健医療対策について理解できる	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 行政学		教員名 細田 重憲	
科目時間数： 30時間 15限		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修 選択	配当学年： 年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 高等学校で学ぶ歴史、とりわけ日本史で取り上げられる事柄を活用しながら、日本の行政について理解を深める。そして、現代社会で求められるコミュニケーション力の涵養に向け、本科目で学んだ行政や官僚の知識を活用することが期待される。また、法の形成や執行、憲法や社会福祉の法などに見える法的解釈について基礎的理解を深めていくことを目的とする。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 ・日本の行政の胴体について、官僚の視点から整理を試みる。 ・明治維新後の日本行政について理解する。 ・衛生行政や警察行政等、各論の行政領域について理解する。			
【授業における達成課題】 ・医学等学術の「政務的運用」の基礎的な概念を理解できる ・高等文官試験など官僚のための制度を説明できる ・官僚の活動を支える人的資源や人材育成の過程を理解できる			
【使用教材・テキスト等】 「長与専斎」 長崎文献社			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 福祉行政職員			

科目名 行政学		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 細田 重憲
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	講義のアウトラインを理解する	
2限 3時間 4時間	長与専斎の衛生行政	明治維新後の衛生行政について理解する	
3限 5時間 6時間	長与専斎の衛生行政	明治維新後の衛生行政について理解する	
4限 7時間 8時間	健康保護事業	殖産興業時代の健康保護事業を理解する	
5限 9時間 10時間	健康保護事業	殖産興業時代の健康保護事業を理解する	
6限 11時間 12時間	コレラの流行と対策	世界的な感染症に対し、限られた資源の中での対策の難しさを理解する	
7限 13時間 14時間	健康保護事業拡張	近代日本の健康保護事業の拡充の過程を理解する	
8限 15時間 16時間	住民との連携	自由放任主義における住民の健康問題と官民連携を理解する	
9限 17時間 18時間	健康保護事業拡張	近代日本の健康保護事業の拡充の過程を理解する	
10限 19時間 20時間	官民協調論	日本官僚論に基づき、医療や衛生の仕組みがいかにして形成されたのかを理解する	
11限 21時間 22時間	官民協調論	日本官僚論に基づき、医療や衛生の仕組みがいかにして形成されたのかを理解する	
12限 23時間 24時間	官民協調論	日本官僚論に基づき、医療や衛生の仕組みがいかにして形成されたのかを理解する	
13限 25時間 26時間	専斎と西洋医学	専斎が岩倉遣外使節団に随行して得られた学びを理解する	
14限 27時間 28時間	専斎とその家族	家族が専斎の衛生事業の拡大を後押しした背景を理解し、支援者を支える家族の心理を理解する	
15限 29時間 30時間	専斎と西洋医学	専斎が岩倉遣外使節団に随行して得られた学びを理解する	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 課題研究 I		教員名 菊池 裕生	
科目時間数 : 30時間 15限		授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別 : 必修	配当学年 : 1年次	開講時期 : 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 テキスト・サブテキストの熟読を通し、各自研究テーマを設定しレポート作成の土台となる論文を作り上げることを目的とする。			
【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 1冊のメインテキスト、3冊のサブテキストを熟読し、仮説を立て検証する思考過程を重要視する。また、基本的な読解力を養っていくため、文献を読むことに慣れることからスタートとなる。			
【授業における達成課題】 自らが立てた仮説を筋道立てて検証できているか			
【使用教材・テキスト等】 適宜指示する			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 レポート・出席率・授業態度で評価をする			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 大学の非常勤講師			

科目名 課題研究Ⅰ		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 菊池 裕生
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	ガイダンス	講義の進め方	
2限 3時間 4時間	文献選択	自ら興味のあるテーマに対し、適切に文献を選択できる	
3限 5時間 6時間	〃	〃	
4限 7時間 8時間	仮説	テーマに対する仮説を立て、実証するための見立てを持つことができる	
5限 9時間 10時間	〃	〃	
6限 11時間 12時間	序論	序論の作成方法を理解する	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	本論	本論の作成方法を理解する	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	結論	結論の作成方法を理解する	
11限 21時間 22時間	〃	〃	
12限 23時間 24時間	製本	レポートを製本する	
13限 25時間 26時間	〃	〃	
14限 27時間 28時間	添削	最終添削を受け、課題研究Ⅱへの課題を抽出できる	
15限 29時間 30時間	提出	レポート提出・フィードバック	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 課題研究Ⅱ		教員名 菊池 裕生	
科目時間数：		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年： 1 年次	開講時期： ☒ 前期・後期 ☐ 集中	
【授業の目的・ねらい】 課題研究Ⅰで取り上げた課題をもとに、テキスト・サブテキストの熟読を通し、課題解決型のレポート土台となる論文を作り上げることを目的とする。			
【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する ☒ 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 1冊のメインテキスト、3冊のサブテキストを熟読し、仮説を立て検証する思考過程を重要視する。また、基本的な読解力を養っていくため、文献を読むことに慣れることからスタートとなる。			
【授業における達成課題】 自らが立てた仮説を筋道立てて検証できているか			
【使用教材・テキスト等】 適宜指示する			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 レポート・出席率・授業態度にて評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 大学の非常勤講師			

科目名 課題研究Ⅱ		科目時間総数 30時間（15時間）	教員名 菊池 裕生
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	ガイダンス	課題研究Ⅱ	
2限 3時間 4時間	文献選択	自ら興味のあるテーマに対し、適切に文献を選択できる	
3限 5時間 6時間	〃	〃	
4限 7時間 8時間	仮説	テーマに対する仮説を立て、実証するための見立てを持つことができる	
5限 9時間 10時間	〃	〃	
6限 11時間 12時間	序論	序論の作成方法を理解する	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	本論	本論の作成方法を理解する	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	結論	結論の作成方法を理解する	
11限 21時間 22時間	〃	〃	
12限 23時間 24時間	製本	レポートを製本する	
13限 25時間 26時間	〃	〃	
14限 27時間 28時間	添削	最終添削を受け、課題研究Ⅱへの課題を抽出できる	
15限 29時間 30時間	提出	レポート提出・フィードバック	

授業計画表

心理福祉

学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 社会福祉概論		教員名 菊池 伸哉									
科目時間数： 60 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習									
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 1年次	開講時期： 前期 後期 ・ 集中									
【授業の目的・ねらい】 社会福祉の概要、仕組み、役割、制度について理解する。そして歴史的流れから社会福祉の必要性を学ぶ。 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する 【授業全体の内容の概要】 社会福祉の歴史・制度・社会保障との関連をテキストと講師の実体験を織り交ぜながら解説する。 【授業における達成課題】 ・ 福祉政策とその背景にある思想・哲学を理解する ・ 現代社会における福祉政策の意義を理解する ・ 社会福祉の発展と現在の動向を理解する											
	使用教材	出版社									
学生用	社会福祉の原理と政策	弘文堂									
【使用教室】 <table border="0"> <tr> <td>1. HR</td> <td>2. 介護実習室</td> <td>3. 家政実習室</td> <td>4. 視聴覚室</td> </tr> <tr> <td>5. PC実習室</td> <td>6. 接遇実習室</td> <td colspan="2">7. その他 ()</td> </tr> </table>				1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室	5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室								
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()									
【評価方法】 <table border="0"> <tr> <td>1. 筆記試験</td> <td>2. レポート</td> <td>3. 出席</td> <td>4. 授業態度</td> </tr> <tr> <td colspan="4">5. 実技試験 6. その他 ()</td> </tr> </table>				1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度	5. 実技試験 6. その他 ()			
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度								
5. 実技試験 6. その他 ()											
【備考】 評価について：試験、レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。											
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 社会福祉協議会での相談支援業務、研修講師等											

科目名 社会福祉概論		科目時間総数 60時間 (30限)	教員名 菊池 伸哉
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間 2時間	社会福祉の視点と枠組み	社会福祉・福祉政策・社会政策の位置づけを学ぶ	
2限 3時間 4時間	社会の変化と福祉	伝統社会から近代社会への歴史的変遷を学ぶ	
3限 5時間 6時間		福祉国家体制の成立までの流れを学ぶ	
4限 7時間 8時間		現代社会の人口、労働、家族の変化を理解する	
5限 9時間 10時間		福祉政策の現代的課題を理解する	
6限 11時間 12時間	福祉の思想と哲学	市場の倫理と論理について理解する	
7限 13時間 14時間	社会福祉と社会政策	慈善事業の発展過程を理解する	
8限 15時間 16時間		社会事業の発展過程を理解する	
9限 17時間 18時間		社会福祉の発展過程を理解する	
10限 19時間 20時間		雇用と所得保障について理解する	
11限 21時間 22時間		社会サービスについて理解する	
12限 23時間 24時間		戦後改革と高度経済成長期の福祉政策を学ぶ	
13限 25時間 26時間		福祉三法から福祉六法体制への変化を理解する	
14限 27時間 28時間		1970年代の福祉政策について理解する	
15限 29時間 30時間		少子高齢化時代の福祉政策を理解する	
		社会福祉基礎構造改革について理解する	
		社会資源と福祉政策資源の配分システムを学ぶ	
		政策評価過程と政策評価について学ぶ	
	まとめ	スクーリングに向けた準備	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
16限 31時間 32時間	中部学院大学スクーリング	現代社会の様相 福祉と社会福祉
17限 33時間 34時間		福祉と社会福祉 社会政策と社会福祉 社会福祉原理と市場主義
18限 35時間 36時間		社会福祉におけるニーズとは何か 福祉レジームの視点
19限 37時間 38時間		社会福祉の歴史（イギリスを中心に） 社会福祉の歴史
20限 39時間 40時間		福祉政策の構成要素 普遍主義と選別主義 福祉政策の構成要素 公私（公民）関係
21限 41時間 42時間		社会福祉基礎構造改革は何をめざしたのか 社会福祉基礎構造改革がもたらした新しい「問題」
22限 43時間 44時間		社会福祉専門職と援助活動 社会福祉援助の基礎知識 国際比較の視点から日本の社会を捉える
23限 45時間 46時間		
24限 47時間 48時間		
25限 49時間 50時間		
26限 51時間 52時間		
27限 53時間 54時間		
28限 55時間 56時間		
29限 57時間 58時間		
30限 59時間 60時間		スクーリング修了試験

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 社会保障論		教員名 熊谷 雅順	
科目時間数： 61時間 30.5限		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： 必修	配当学年： 年次	開講時期： 前期・後期・集中	
〔授業の目的・ねらい〕 現代社会における社会保障制度の課題を明確にし、社会保障の概念や田尾翔、及びその理念等について発達過程も含めて理解する。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 〔ディプロマポリシーとの関連〕 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
〔授業全体の内容の概要〕 現代社会における社会保障制度の課題をや概念を学び、社会保障の財源と費用、社会扶助との関係や介護保険制度をはじめとした我が国の社会保障について概観する。			
〔授業における達成課題〕 当該科目について精神保健福祉士が行う相談援助に必要な知識と技術を習得する			
〔使用教材・テキスト等〕			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 中部学院大学通信教育部の評価基準に準ずる			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 社会福祉士事務所におけるソーシャルワーカー			

科目名		科目時間総数	教員名
社会保障論		61時間 (30.5限)	熊谷 雅順
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	社会保障の視点と枠組み	社会保障と社会福祉の関連性を理解する	
2限 3時間 4時間	〃	〃	
3限 5時間 6時間	社会保障とライフサイクル	乳幼児期のライフサイクルと社会保障の関連性を理解する	
4限 7時間 8時間	〃	学童期におけるライフサイクルの課題と社会保障の関連性を理解する	
5限 9時間 10時間	〃	青年期・成人期におけるライフサイクルの課題と社会保障の関連性を理解する	
6限 11時間 12時間	〃	壮年期・老年期におけるライフサイクルの課題と社会保障の関連性を理解する	
7限 13時間 14時間	〃	障害基礎年金は当事者が社会生活を営む上でどのような役割を果たしているのかを知る	
8限 15時間 16時間	〃	雇用保険と労働者の関連性を理解する	
9限 17時間 18時間	〃	生活保護制度を理解し、セーフティネットが果たす役割を理解する	
10限 19時間 20時間	〃	公的年金制度を理解し、少子高齢化時代の社会保障の課題を理解する	
11限 21時間 22時間	〃	事例検討（生活保護制度）	
12限 23時間 24時間	〃	事例検討（障害基礎年金・障害厚生年金）	
13限 25時間 26時間	〃	事例検討（介護保険サービスを利用した支援）	
14限 27時間 28時間	諸外国の社会保障制度	アメリカやイギリスの社会保障制度を概観し、各国のセーフティネットを理解する	
15限 29時間 30時間	〃	〃	
16限 31時間 32時間	社会保障と政策	社会保障費と政策の関連性を理解する	
17限 33時間 34時間	〃	〃	

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
18限	35時間 36時間	社会保障の発展過程	戦前から現在まで、どのような意図のもとに社会保障制度が発展したのか理解する
19限	37時間 38時間	//	//
20限	39時間 40時間	まとめ	スクーリングへの準備
21限	41時間 42時間	中部学院大学スクーリング	社会福祉の発展過程と成立
22限	43時間 44時間		
23限	45時間 46時間		
24限	47時間 48時間		
25限	49時間 50時間		
26限	51時間 52時間		
27限	53時間 54時間		
28限	55時間 56時間		
29限	57時間 58時間		
30限	59時間 60時間		
30, 5 限	61時間	↓	↓

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 障害福祉制度論		教員名 中部学院大学講師	
科目時間数：30時間 15限		授業の種類：講義・演習・実習	
必修・選択の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年：3年次	開講時期： ☒ 前期 ☒ 後期 ☐ 集中	
【授業の目的・ねらい】 中部学院大学スクーリング科目のため、中部学院大学学習要綱に準拠 本科目は、中部学院大学講師が撮影した講義ビデオを閲覧する			
【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する ☒			
【授業全体の内容の概要】 中部学院大学スクーリング科目のため、中部学院大学学習要綱に準拠			
【授業における達成課題】 中部学院大学スクーリング科目のため、中部学院大学学習要綱に準拠			
【使用教材・テキスト等】 障害者福祉 中央法規出版			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 中部学院大学通信教育部の評価基準に準ずる			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 大学教授			

科目名 障害福祉制度論		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 中部学院大学講師
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	中部学院大学学習要綱に 準拠	中部学院大学学習要綱に準拠	
2限 3時間 4時間			
3限 5時間 6時間			
4限 7時間 8時間			
5限 9時間 10時間			
6限 11時間 12時間			
7限 13時間 14時間			
8限 15時間 16時間			
9限 17時間 18時間			
10限 19時間 20時間			
11限 21時間 22時間			
12限 23時間 24時間			
13限 25時間 26時間			
14限 27時間 28時間			
15限 29時間 30時間			

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 地域福祉論		教員名 坂口 繁治	
科目時間数： 61時間 30, 5限		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： 必修	配当学年： 2 年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 2000年の社会福祉法の制定により、地域福祉が社会福祉の中心に据えられ「地域福祉の主流化」が命題となっていることを学び、身近な生活圏で発生する孤独死や引きこもり、限界集落などの属性を超えた生活課題、施設・病院から地域移行への課題などにおいて、地域福祉の視点でとらえ考えることをねらう。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 地域福祉の歴史的な展開、イギリス、アメリカの理論と実践、今日の日本の行政と住民と住民が求める福祉サービスの評価の在り方について触れる。			
【授業における達成課題】 今日的な生活課題における地域福祉の理念・内容と意義、住民組織の種類と役割、住民における活動や地域におけるサポートネットワーク構築の意義を理解し、地域福祉推進のコミュニティソーシャルワーカーの役割を理解することができる			
【使用教材・テキスト等】 地域福祉と包括的支援体制 全国社会福祉協議会			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 中部学院大学通信教育部の評価基準に準ずる			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 社会福祉士事務所におけるソーシャルワーカー			

科目名		科目時間総数 61時間（30，5限）	教員名 坂口 繁治
地域福祉論		主な学習内容と達成目標	
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ		
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	授業の位置づけを理解する	
2限 3時間 4時間	福祉のメインストリーム	なぜ地域福祉を学ぶのか	
3限 5時間 6時間	新しい社会福祉システム	地域福祉の発展過程	
4限 7時間 8時間	〃	地域福祉の発展過程②	
5限 9時間 10時間	〃	行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉	
6限 11時間 12時間	〃	事例紹介「孤独死ゼロ」作戦	
7限 13時間 14時間	〃	新しい生活に対応する地域福祉	
8限 15時間 16時間	日本の地域福祉に影響を与えた外国の制度	イギリス・アメリカの地域福祉の考え方	
9限 17時間 18時間	地域福祉の基本的な考え方	地域福祉理論の展開と広がり	
10限 19時間 20時間	コミュニティソーシャルワークと専門職	コミュニティ・ソーシャルワークの考え方	
11限 21時間 22時間	〃	〃	
12限 23時間 24時間	〃	コミュニティ・ソーシャルワークの展開とシステム	
13限 25時間 26時間	住民の参加と方法	専門職と住民参加	
14限 27時間 28時間	〃	市町村社会福祉行政における住民参加	
15限 29時間 30時間	まとめ	住民の代表性と参加方法	
16限 31時間 32時間	中部学院大学スクーリング	地域福祉の理論と展開	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と達成目標	
17限 33時間 34時間				
18限 35時間 36時間				
19限 37時間 38時間				
20限 39時間 40時間				
21限 41時間 42時間				
22限 43時間 44時間				
23限 45時間 46時間				
24限 47時間 48時間				
25限 49時間 50時間				
26限 51時間 52時間				
27限 53時間 54時間				
28限 55時間 56時間				
29限 57時間 58時間				
30限 59時間 60時間				
30, 5限 61時間				

授業計画表

ソーシャルワーク学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ソーシャルワークの基盤と専門職		教員名 西山 直輝	
科目時間数 : 30 時間 (15 限)		授業の種類 : ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : ☒ 必修 ・ 選択	配当学年 : 1 年次	開講時期 : ☒ 前期 ・ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 多様化・複雑化・複合化されている今日の社会状況下において、人々の価値観や尊厳が尊重される社会を目指し、ソーシャルワーク専門職としての役割や倫理、理念について理解し、実践できるようにする。 (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する ☒ 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 多様化・複雑化している今日の社会状況下において、福祉専門職としての倫理や概念、基盤となる考え方の習得を目指す。 【授業における達成課題】 ・福祉専門職の役割や意義を学び、説明ができる。 ・ソーシャルワークの理念について理解し、実践できる。			
	使用教材	出版社	
学生用	ソーシャルワークの基盤と専門職	中央法規	
【使用教室】 ☒ 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 ☒ 1. 筆記試験 ☒ 2. レポート ☒ 3. 出席 ☒ 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】 レポート・科目修了試験・出席率・授業態度等にて評価			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 福祉施設での実務経験			

科目名 ソーシャルワークの基盤と専門職		科目時間総数 30時間 (15 限)	教員名 西山 直輝
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 限 1 時間 2 時間	オリエンテーション	身近にある福祉について学ぶ	
2 限 3 時間 4 時間	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ	社会福祉士・精神保健福祉士の意義と役割について学ぶ	
3 限 5 時間 6 時間	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ	社会福祉士・精神保健福祉士の意義と役割について学ぶ ソーシャルワークの理念・原理について学ぶ	
4 7 時間 8 時間	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ	社会福祉士・精神保健福祉士の意義と役割について学ぶ ソーシャルワークの理念・原理について学ぶ	
5 限 9 時間 10 時間	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ	社会福祉士・精神保健福祉士の意義と役割について学ぶ ソーシャルワークの理念・原理について学ぶ	
6 限 11 時間 12 時間	ソーシャルワークの概念	国際グローバル定義について学ぶ	
7 限 13 時間 14 時間	ソーシャルワークの概念	ソーシャルワークの倫理について学ぶ	
8 限 15 時間 16 時間	ソーシャルワークの概念	ソーシャルワークの形成過程について学ぶ	
9 限 17 時間 18 時間	ソーシャルワークの概念	ソーシャルワークの形成過程について学ぶ	
10 限 19 時間 20 時間	多職種連携について	多職種連携によるチームアプローチについて学ぶ	
11 限 21 時間 22 時間	多職種連携について	多職種連携によるチームアプローチについて学ぶ	
12 限 23 時間 24 時間	多職種連携について	多職種連携によるチームアプローチについて学ぶ 多職種連携についてグループワークにて体験する	
13 限 25 時間 26 時間	多職種連携について	多職種連携によるチームアプローチについて学ぶ 多職種連携についてグループワークにて体験する	
14 限 27 時間 28 時間	まとめ	授業の振り返りとまとめを行う	
15 限 29 時間 30 時間	まとめ	授業の振り返りとまとめを行う	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ソーシャルワークの理論と方法		教員名 高橋 勝	
科目時間数： 60時間（30限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修 ・ 選択	配当学年： 1年次	開講時期： ☒ 前期 ☒ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 本授業では、ソーシャルワーカーが行う相談援助について、人と環境の交互作用や援助関係の形成方法について、基礎能力を身に着けるための学習とする。 また、ソーシャルワークの実践方法と根拠となる理論について、事例を通して実践的な相談援助の一連の展開過程について学ぶことを目的とする。 【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 ソーシャルワークの概念構造と基礎理論についてテキストに基づき説明する。また、ソーシャルワーカーに必要な理念・価値・知識・技術等の基盤については具体的な事例に基づきイメージを持ってもらいながらの説明を行うとともに、学生にも主体的に考える機会を提供する。さらには、実践場面におけるミクロ、メゾ、マクロ視点を理解・意識できるよう身近な出来事と関連づけながらソーシャルワーカーとしての共通言語の習得を目指す。			
【授業における達成課題】 ・ ソーシャルワークの意義、構造と機能について理解し、説明できる。 ・ 対人援助技術としてのソーシャルワークの基礎的な技術を習得できる。 ・ 人と環境の交互作用について理解し、説明できる。 ・ 授業で学ぶ理論が実践場面でどのように活用されるか関連付けることができる。			
	使用教材	出版社	
学生・教員用	最新 社会福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法	中央法規	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 (リアクションペーパーの内容)			
【備考】 ・ 筆記試験（80％）、リアクションペーパー及び授業態度等（20％）による。 ・ 両方合わせて、60％以上の点数を取得することで合格とする。 ・ リアクションペーパー・授業態度については、記述内容及びルーブリック評価に基づいて評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内容】 障がい児、障がい者施設の支援員、発達障害者支援センター相談員、相談支援専門員等の実務経験			

科目名 ソーシャルワークの理論と方法（共通）		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 高橋 勝
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	オリエンテーション 相談援助とは	科目のねらいや学習の進め方について理解する。	
2限	ソーシャルワークの展開 過程について①「目標と 展開過程」	ソーシャルワークの目標を理解し、ソーシャルワークの展開過程の概要を理解する。	
3限	ソーシャルワークの展開過 程について②「ケースの発 見とエンゲージメント」	ケース発見のさまざまな形について学び、相談ケースのおかれている様々な状況を知る。	
4限	ソーシャルワークの展開 過程について③「エン ゲージメント」	エンゲージメント（インテーク）の意味と役割を学び、クライアントとの関係構築の留意点を理解する。	
5限	ソーシャルワークの展開 過程について④「アセス メント」	ソーシャルワークにおけるアセスメントの重要性を学び、個人と社会環境へのアセスメントについて理解する。	
6限	ソーシャルワークの展開 過程について⑤「プラン ニング」	プランニングの概要と具体的活用方法を理解する。	
7限	ソーシャルワークの展開 過程について⑥「支援の 実施とモニタリング」	相談援助における支援の流れとモニタリングの目的及び意義を理解する。	
8限	ソーシャルワークの展開 過程について⑦「支援の 終結と結果評価」	支援の終結が「過程」であることを理解するとともに、結果評価の意義・視点・方法を理解する。	
9限	ソーシャルワーカーが活 用する理論について	システム理論、生態学理論他、ソーシャルワーカーが学ぶ数種の理論を知り、それぞれの有効性を理解する。	
10限	バイオ・サイコ・ソー シャルモデルについて	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの内容と実践場面におけるそれぞれの関係性を理解する。	
11限	ミクロ・メゾ・マクロレ ベルにおけるソーシャル ワークについて	ミクロ・メゾ・マクロの視点の意味を知り、ソーシャルワーク場面における実際を知る。	
12限	ソーシャルワークの実践 モデルとアプローチにつ いて①	治療モデル、ストレングスモデル、生活モデル、心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチの内容を理解する。	
13限	ソーシャルワークの実践 モデルとアプローチにつ いて②	課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチ、危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、解決志向アプローチの内容を理解する。	
14限	ソーシャルワークの実践 モデルとアプローチにつ いて③	12限、13限で学ばなかった他のアプローチを知るとともに、これまで学んだアプローチの違いを再確認する。	
15限	前期のまとめと振り返り	期末試験に向けて、これまでの学びを振り返り、相談援助の展開過程を復習し、重要事項・キーワードについて説明できる。	

時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
16限	ソーシャルワークの面接と記録①「面接の意義と目的」	相談援助における面接の意義・目的を理解する。
17限	ソーシャルワークの面接と記録②「面接の方法」	相談援助における面接の具体的方法を理解する。
18限	ソーシャルワークの面接と記録③「記録の意義と目的」	相談援助における記録の意義と目的及び記録のポイントを理解する。
19限	ソーシャルワークの面接と記録④「記録の方法」	相談援助における具体的な記録の仕方を理解する。
20限	ケアマネジメント①「歴史と原則」	ケアマネジメントの歴史を知り、ケアマネジメントの基本的な原則を理解する。
21限	ケアマネジメント②「意義と方法」	ケアマネジメントの意義及びモデルの種類を知り、ケアマネジメントのプロセスを理解する。
22限	グループを活用した支援①「グループワークの意義と目的」	グループワークの意義・目的等、概要を理解する。
23限	グループを活用した支援②「グループワークの展開過程」	グループワークのプロセスとプロセスの各段階の内容を理解する。
24限	コミュニティワーク①「コミュニティワークの意義と目的」	コミュニティワークの内容や目的及び地域活動の意義と具体的活動内容を理解する。
25限	コミュニティワーク②「コミュニティワークの展開」	コミュニティワークの展開過程を理解する。
26限	ソーシャルアドミニストレーション	ソーシャルアドミニストレーションの概念、意義、定義を理解する。
27限	ソーシャルアクション①「概念と意義」	ソーシャルアクションの現状を知り、ソーシャルアクションの意義を理解する。
28限	ソーシャルアクション②「コミュニティ・オーガナイズング」	コミュニティ・オーガナイズングの現状を知り、その展開過程を理解する。
29限	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義、目的、方法を理解する。
30限	後期のまとめと振り返り	期末試験に向けて、これまでの学びを振り返り、ソーシャルワークの面接過程や記録、ケアマネジメントの内容等を復習し、重要事項・キーワードについて説明できる。

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 社会福祉調査の基礎		教員名 菊池 裕生	
科目時間数： 15		限 授業の種類： 講義・演習・実習	
必修・選択 の別：	必修・選択	配当学年： 2年	開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 社会調査の基礎的知識・技術を学び、実践できるようになることを目的とする。			
【心理福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 (※当該科目が最も関連する項目に○)			
1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する			
2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する			
3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 ・社会調査の意義。 ・社会調査の種類と方法。 ・社会調査の実際。			
【授業における達成課題】 ・社会福祉になぜ社会調査の知識や技術が必要とされるかを理解する ・量的調査の流れを理解し、実際に調査できるようになる ・演習を通じて質的調査の流れを理解し、実際に調査できるようになる			
使用教材		出版社	
社会福祉調査の基礎		中央法規出版	
【使用教室】			
1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】			
1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】 評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】有・無			
【内容】大学等での非常勤講師経験			

科目名 社会福祉調査の基礎		科目時間総数 15 限	教員名 菊池 裕生
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1, 2 限	イントロダクション	・この科目を受講することで、何が分かり、何を身につけることができるのかの見通しがもてるようになる。	
	第1回 社会調査・社会福祉調査とはなにか	・社会調査・社会福祉調査の概要（定義）を理解できるようになる。 ・達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。	
3, 4 限	第2回 社会調査の種類と流れ	・社会調査には、大きく分類して「量的調査」と「質的調査」があることを理解できるようになる。 ・社会調査の流れを大まかに理解できるようになる。 ・達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。	
	第3回 量的調査の特徴と種類	・全数調査と標本調査の違いを説明できるようになる。 ・「母集団」、「標本」、「抽出」それぞれの言葉の意味を説明できるようになる。 ・無作為抽出法を実践できるようになる。 ・無作為抽出には5つの方法があることを理解し、どのような場合にいずれの抽出法を選択すればよいのか、答えられるようになる。	
5~7 限		・横断調査と縦断調査の違いを説明できるようになる。 ・縦断調査のうち、動向調査、パネル調査、コーホート調査の違いを説明することができるようになる。 ・「自計式」と「他計式」の違いを説明できるようになる。 ・達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。	
	第4回 量的調査の実際①調査票の作成	・概念の明確化・操作化の意味を理解し、実践できるようになる。 ・仮説の意味を理解し、演習を通し仮説が立てられるようになる。	
8, 9 限		・質問項目を作成する上で注意しなければならない点があることを理解できるようになる。 ・「キャリーオーバー効果」「ダブルバーレル質問」について説明できるようになる。 ・選択肢の設定方法を理解し、どういった場合にどの方法を採用すればよいかおおよそ判断できるようになる。	
		・4つの尺度の違いを説明できるようになる。 ・選択肢を作成する上で注意しなければならない点があることを理解できるようになる。 ・フェイスシートとは何かを理解し、演習を通し作成することができるようになる。 ・調査協力お願い文を作成できるようになる。 ・達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。	
10, 11 限	第5回 量的調査の実際②調査の実施	・調査実施の方法について、それぞれのメリット・デメリットを理解し、仮に自分が実施しようとしている調査の場合に、どの方法が最も適切であるかをおおよそ判断できるようになる。 ・達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。	
12, 13 限	第6回 量的調査の実際③データの集計	・データクリーニングの方法を理解できるようになる。 ・度数分布表、クロス集計表を実際に作成できるようになる。 ・表の種類を学び、それぞれどういった結果を表すのに適しているのかを理解できるようになる。 ・達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。	
14 限	第7回 代表値と調査倫理	・標本平均、中央値、最頻値の意味を理解できるようになると同時に、エクセル上で算出できるようになる。 ・社会調査を行うものの倫理について、特に大切な点を2点挙げることができるようになる。	
15 限		・達成度チェックテストを行い、知識を定着させる。	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 権利擁護を支える法制度		教員名 阿部孝司	
科目時間数： 30時間		15限	授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 2年	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 障がいを持つ人たちの権利侵害と権利擁護について理解を深め、憲法、民法、行政法などの法を理解する。権利擁護を支える成年後見制度や日常生活自立支援事業の制度を学び、事例を通してその実際を理解する。 【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 ソーシャルワークと法との関りについて理解する。権利擁護の意義と支える仕組みについて理解できる。権利擁護に関わる組織団体専門職を理解する。成年後見制度と日常生活自立支援事業を理解しその実際について知る。			
【授業における達成課題】 障がいを持つ人たちの権利侵害と権利擁護について理解を深め、憲法、民法、行政法などの関係法を理解できる。権利擁護を支える成年後見制度や日常生活自立支援事業の制度を学び、事例を通してその実際を理解し、ソーシャルワーク実践に活かすことができる。			
【使用教材・テキスト等】 共通科目 使用教材：最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 一般社団法人 日本ソーシャルワーカー教育学校連盟 編集 権利擁護を支える法制度 出版社：中央法規			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 授業態度（リアクションペーパー等）20% 出席率20% テスト・レポート60%			
【備考】 1. テスト、レポートの点数は60点以上を合格とする 2. テスト、レポートは教科書やノートなど持ち込みを不可とする。 3. 授業態度は本校の成績評価基準で評価する			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内容】 社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
権利擁護を支える法制度		15限 (30時間)	阿部 孝司
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1	1時間	オリエンテーション	自己紹介 この教科で学ぶ意義と全体像を理解できる
	2時間	権利擁護と人権	権利擁護に必要な法制度を理解できる
2	3時間	憲法	憲法の役割と概要を理解できる
	4時間	自由権・社会権・幸福追求権	人権の種類、内容、性質、および人権調整を理解できる
3	5時間	統治機構	統治機構と裁判例を理解できる
	6時間	民法	権利擁護に関わる民法の基本となる原則を理解できる
4	7時間	民法	契約に関する基本を理解できる 不法行為の基本を理解できる
	8時間	民法	親族・相続に関する基本を理解できる
5	9時間	行政法	行政活動の形式とその特徴と救済の対象を理解できる
	10時間	行政法	救済の対象となる行政活動の形式について適切な救済手段を理解できる
6	11時間	意思決定支援	支援付き意思決定支援は基本的人権として保障されていることを理解できる
	12時間	意思決定支援	支援付き意思決定支援と代理代行決定を区別する理由について理解できる
7	13時間	意思決定支援ガイドライン	意思決定支援ガイドライン相互の関係性を理解できる
	14時間	意思決定支援ガイドライン	意思決定全体のプロセスとチームアプローチの重要性を理解できる
8	15時間	意思決定支援ガイドライン	意思決定能力アセスメントと代理代行決定のプロセスについて理解できる
	16時間	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントの概念の成立と進化・変容について理解できる
9	17時間	秘密・プライバシー・個人情報	個人情報の秘密やプライバシーを守ることの重要性と個人情報保護法について理解できる
	18時間	権利擁護活動と社会の安全	ソーシャルワーカーにとって必要な守秘義務と警告義務、専門職のジレンマについて理解できる
10	19時間	権利擁護に関わる組織・団体	権利擁護に関わる組織、団体の概要、役割について理解できる
	20時間	権利擁護に関わる専門職	権利擁護に関わる専門職の概要、役割について理解できる
11	21時間	成年後見制度	成年後見制度の概要、申立ての概況、関係を理解できる
	22時間	後見	後見の概要を理解できる
12	23時間	補佐	補佐の概要を理解できる
	24時間	補助、任意後見	補助、任意後見の概要を理解できる
13	25時間	成年後見制度の最近の動向	成年後見制度の利用動向、利用の促進に関する法律、利用促進基本計画を理解できる
	26時間	成年後見利用支援事業	成年後見利用支援事業について理解できる
14	27時間	日常生活自立支援事業	日常生活自立支援事業の概要を理解できる
	28時間	事例研究	成年後見制度や日常生活支援事業の事例を理解できる
15	29時間	社会福祉士・精神保健福祉士の活動	社会福祉士、精神保健福祉士の権利擁護活動事例を理解できる
	30時間	テスト	まとめのテスト・レポートを実施

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 刑事司法と福祉		教員名 大富 和弘	
科目時間数： 30時間 15限		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： 必修	配当学年： 2 年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 精神保健福祉士の役割において、家族歴や生活歴を含めた一人の人間として理解しなければは犯罪の再犯防止や社会復帰へ導くことは難しい。精神保健福祉士が「被告人」とされた人たちに対し、権利擁護の視点に基づいて私法ソーシャルワークを実践するための知識・技術を習得する。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 地方検察庁、刑務所、更生保護施設など、司法関連施設は多岐にわたる。また、検事や弁護士など多職種との連携が特に重要となることを踏まえて講義を展開する。			
【授業における達成課題】 支援者として司法に携わることの意義をつかむこと。			
【使用教材・テキスト等】 刑事司法と福祉 中央法規出版			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 中部学院大学通信教育部の評価基準に準ずる			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 福祉施設での勤務経験			

科目名 刑事司法と福祉		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 大富 和弘
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	社会と犯罪	社会と犯罪のつながりを理解する	
2限 3時間 4時間	刑罰とは何か	刑法の仕組みを知る	
3限 5時間 6時間	刑事司法	刑事司法が生活にどのように役立っているかを知る	
4限 7時間 8時間	少年司法	少年法とのかかわりから、少年司法を考える	
5限 9時間 10時間	施設内処遇	少年院や矯正施設における処遇を理解する 更生保護の理念と実際を理解する	
6限 11時間 12時間	更生保護		
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	医療観察制度	医療観察制度を理解し、精神科病院との連携を知る	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	高齢者の犯罪	高齢期の心理的・社会的背景から犯罪との関連を考える	
11限 21時間 22時間	障害者の犯罪	障害者の心理的・社会的背景から犯罪との関連を考える	
12限 23時間 24時間	少年の犯罪	少年法の仕組みと少年犯罪、更正のための支援方法を知る	
13限 25時間 26時間	依存症者の犯罪	薬物依存やギャンブル依存が引き起こす犯罪を理解する	
14限 27時間 28時間	犯罪被害者支援	被害者支援制度や救済制度を理解し、被害者に寄り添うケアを考える	
15限 29時間 30時間	コミュニティと刑事司法	地域の警察署や裁判所は地域にとってどのような位置づけなのか知る	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 精神保健福祉の理論と方法 (専門)		教員名 西山 直輝	
科目時間数 :		授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別 :	必修 選択	配当学年 :	年次
		開講時期 :	前期 ・ 後期 ・ 集中
【授業の目的・ねらい】 精神障害および精神保健福祉の課題に対するソーシャルワークの過程を理解する 精神障害および精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解すること 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 制度・サービスの理解にとどまらず、支援技法・倫理・多職種連携・家族支援などの観点から、支援実践に求められる知識と価値観を学ぶ			
【授業における達成課題】 - 精神保健福祉の関する理論を説明できる - 制度や支援技法を実践的視点から理解できる - 精神障害者の対する支援課題を分析・検討できる			
【使用教材・テキスト等】 精神保健福祉の理論と方法 中央法規出版			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 中部学院大学通信教育部の評価基準に準ずる			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 相談支援事業所の相談支援専門員			

科目名 精神保健福祉の理論と方法		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 西山 直輝
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	本講義の意義・目的を理解する	
2限 3時間 4時間	精神保健福祉士の役割と職域	精神保健福祉士の役割・資格化されるまでの流れを理解する	
3限 5時間 6時間	〃	〃	
4限 7時間 8時間	精神保健福祉の基本的視点と価値	精神保健領域で求められる視点・価値を理解する	
5限 9時間 10時間	〃	リカバリー・エンパワメント・レジリエンスの視点を学ぶ	
6限 11時間 12時間	精神障害の理解	精神保健福祉法について医療機関での役割	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	〃	〃	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	地域移行と地域生活	入院から地域生活への移行支援を理解する。その際の社会資源について学ぶ。	
11限 21時間 22時間	〃	〃	
12限 23時間 24時間	〃	〃	
13限 25時間 26時間	精神障害者へのアセスメント方法	社会生活上の課題を検討する。検討した内容を共有し、価値観の違いを学ぶ	
14限 27時間 28時間	〃	〃	
15限 29時間 30時間	〃	〃	
16限 31時間 32時間	利用計画の立案とモニタリング	サービス等利用計画と個別支援計画の違いを理解し、当事者のニーズを踏まえた計画書を作成する	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
17限 33時間 34時間	〃	〃
18限 35時間 36時間	〃	〃
19限 37時間 38時間	〃	モニタリングの目的を理解し、事例を用いて実践する
20限 39時間 40時間	〃	〃
21限 41時間 42時間	多職種連携とチーム支援	精神保健福祉士の役割や価値基準の違いを学ぶ
22限 43時間 44時間	〃	〃
23限 45時間 46時間	精神障害と就労支援	精神障害者の就職の現状を理解する
24限 47時間 48時間	〃	精神障害者の就労支援について学ぶ
25限 49時間 50時間	専門職の倫理と自己覚知	支援における自身と対象者との価値観の違いや、倫理に基づいた支援を学び、自己覚知を促す
26限 51時間 52時間	〃	〃
27限 53時間 54時間	〃	〃
28限 55時間 56時間	まとめ	これまでの振り返りを行う
29限 57時間 58時間	〃	〃
30限 59時間 60時間	〃	〃

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 精神医学		教員名 阿部 真之	
科目時間数： 60時間 (30限)		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 1年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 ・精神疾患の全体像や個別の疾患について学ぶ ・精神疾患の診断や治療法について学ぶ			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 ・精神疾患の診断について ・精神疾患の症状について ・精神疾患の治療について			
【授業における達成課題】 ・精神疾患の症状について説明ができる。 ・精神疾患の診断と治療法について説明ができる。			
【使用教材・テキスト等】 精神保健福祉士養成セミナー1 「精神医学—精神疾患とその治療」第6版 へるす出版			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】 臨床心理士、公認心理師 児童精神科および精神科の医療機関、学校現場における臨床経験。			

科目名 精神医学		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 阿部真之
限・時間数	育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション 精神医学の歴史	西洋と日本における精神医学の歴史を理解し、説明できる。	
2限 3時間 4時間	脳および神経の解剖生理	脳の構造を理解するとともに、神経系の発生や構成についても理解できる。	
3限 5時間 6時間	脳および神経の解剖生理	中枢神経について理解し、説明できる。	
4限 7時間 8時間	脳および神経の解剖生理	末梢神経系を理解し、説明できる。	
5限 9時間 10時間	精神医学の概念	精神医学を学ぶ上で必要な用語の定義を理解し、説明ができる。	
6限 11時間 12時間	精神医学の概念	精神医学の方法と鍵概念について理解し、説明できる。	
7限 13時間 14時間	精神医学の概念	精神医学の領域について知り、説明できる。	
8限 15時間 16時間	精神医学の概念	精神障害の分類を理解し、説明できる。	
9限 17時間 18時間	精神医学の概念	診断の手順と方法を知り、面接での問診について実践できる。	
10限 19時間 20時間	精神医学の概念	面接における問診についての理解を深め、精神症状についての理解を深めることができる。	
11限 21時間 22時間	精神医学の概念	精神症状の状態像を理解するために、身体検査と心理検査の必要性について理解することができる。	
12限 23時間 24時間	精神医学の概念	神経学的診断法および心理検査を理解し、説明できる。	
13限 25時間 26時間	精神医学の概念 代表的な精神疾患	構造化面接と操作的診断基準を理解し、説明できる。 症状性を含む器質性精神障害を理解し、説明できる。	
14限 27時間 28時間	精神医学の概念 代表的な精神疾患	精神作用物質使用による精神および行動の障害について理解し、説明できる	
15限 29時間 30時間	精神医学の概念 代表的な精神疾患	統合失調症を理解し、説明できる。	

科目名		科目時間総数	教員名
精神医学		60時間 (30限)	阿部真之
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
16限 <u>31時間</u> 32時間	<u>精神医学の概念</u> <u>代表的な精神疾患</u>	気分障害を理解し、説明できる。	
17限 <u>33時間</u> 34時間	<u>精神医学の概念</u> <u>代表的な精神疾患</u>	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害を理解し、説明できる。	
18限 <u>35時間</u> 36時間	<u>精神医学の概念</u> <u>代表的な精神疾患</u>	生理的障害、行動症候群を理解する。成人のパーソナリティおよび行動の障害を理解し、説明できる。	
19限 <u>37時間</u> 38時間	<u>精神医学の概念</u> <u>代表的な精神疾患</u>	知的障害と発達障害について理解し、説明できる。	
20限 <u>39時間</u> 40時間	<u>精神医学の概念</u> <u>代表的な精神疾患</u>	小児期および青年期における行動、情緒の障害を理解し、説明できる。 神経系の疾患を理解し、説明できる。	
21限 <u>41時間</u> 42時間	<u>精神疾患の治療</u>	身体療法および精神療法の定義や介入方法を理解し、説明できる。	
22限 <u>43時間</u> 44時間	<u>精神疾患の治療</u>	精神療法の技法や治療関係を理解するとともに、さまざまな精神療法について理解し、説明できる。	
23限 <u>45時間</u> 46時間	<u>精神疾患の治療</u>	さまざまな精神障害リハビリテーションを理解し、説明できる。	
24限 <u>47時間</u> 48時間	<u>病院精神医療と地域精神科医療</u>	病院精神医療の現状と課題を理解し、説明できる。	
25限 <u>49時間</u> 50時間	<u>病院精神医療と地域精神科医療</u>	精神科病院におけるチーム医療と精神保健福祉士の役割を理解し、説明できる。	
26限 <u>51時間</u> 52時間	<u>病院精神医療と地域精神科医療</u>	精神科救急医療について理解し、説明できる。 地域精神医療の展開を理解するとともに、精神医療と福祉の連携について理解し、説明できる。	
27限 <u>53時間</u> 54時間	<u>精神医学における人権</u>	精神科医療機関と患者の人権について理解できる インフォームドコンセントについて理解し、精神医療における人権擁護の理解を深めることができる。	
28限 <u>55時間</u> 56時間	<u>司法精神医学</u>	司法精神医学について理解し、説明できる。	
29限 <u>57時間</u> 58時間	<u>司法精神医学</u>	司法精神医学におけるリスクや危機介入について理解し、説明できる。	
30限 <u>59時間</u> 60時間	まとめ	全体を振り返り、精神疾患の症状、精神疾患の診断と治療法について理解を深めることができる。	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 精神保健学		教員名 阿部 真之	
科目時間数： 60時間 (30限)		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別：	必修・選択	配当学年： 1 年次	開講時期： 前期 ・ 後期 ・ 集中
【授業の目的・ねらい】 ・精神保健の基礎知識を習得するために精神保健の概要を学び、精神保健の意義と課題について学ぶ。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ① 自己の理解及び他者を理解する力を育成する。 ② 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する。 ③ あらゆることに對し興味を持ち、チャレンジする力を育成する。			
【授業全体の内容の概要】 ・ライフサイクルにおける精神保健について ・精神保健活動の実際について ・精神保健福祉士の役割について ・精神保健に関わる専門職種との連携について			
【授業における達成課題】 ・ライフサイクルにおける精神保健に関わる問題と、その対策について説明ができる。 ・精神保健に関わる地域の活動がどのように成り立っているか、その仕組みについて説明ができる。 ・精神保健に関わる専門職種間の連携について説明ができる。			
【使用教材・テキスト等】 精神保健福祉士養成セミナー 2 「精神保健学―精神保健の課題と支援」第6版 へるす出版			
【使用教室】 ①. HR ②. 介護実習室 ③. 家政実習室 ④. 視聴覚室 ⑤. PC実習室 ⑥. 接遇実習室 ⑦. その他 ()			
【評価方法】 中部学院大学の基準に則る			
【備 考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】 臨床心理士、公認心理師 児童精神科および精神科の医療機関、学校現場における臨床経験。			

科目名 精神保健学		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 阿部真之
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション 精神保健の基礎	現代社会と精神保健について理解できる。	
2限 3時間 4時間	精神保健の基礎	精神保健の意義と課題について理解できる。	
3限 5時間 6時間	ライフサイクルにおける 精神保健	乳幼児期における精神保健を理解するとともに、学童期における精神保健を理解し、説明できる。	
4限 7時間 8時間	ライフサイクルにおける 精神保健	思春期における精神保健を理解するとともに、青年期における精神保健を理解し、説明できる。	
5限 9時間 10時間	ライフサイクルにおける 精神保健	青年期における精神保健を理解を深めるとともに、成人期における精神保健を理解し、説明できる。	
6限 11時間 12時間	ライフサイクルにおける 精神保健	成人期における精神保健を理解を深めるとともに、老年期における精神保健を理解し、説明できる。	
7限 13時間 14時間	ライフサイクルにおける 精神保健	老年期における精神保健を理解を深め、説明できる。	
8限 15時間 16時間	精神保健における個別課題への取り組み	精神障害対策について理解できる。 認知症対策について理解し、説明できる。	
9限 17時間 18時間	精神保健における個別課題への取り組み	アルコール関連問題対策を理解し、説明できる。 薬物乱用防止対策を理解し、説明できる。	
10限 19時間 20時間	精神保健における個別課題への取り組み	物質関連問題に関する理解を深めることができる。 思春期・青年期精神保健対策を理解し、説明できる。	
11限 21時間 22時間	精神保健における個別課題への取り組み	思春期・青年期精神保健対策の理解を深めることができる。 地域精神保健対策を理解し、説明できる。	
12限 23時間 24時間	精神保健における個別課題への取り組み	地域における「こころの健康づくり」の動向について理解し、説明できる。 司法精神保健福祉対策を理解し、説明できる。	
13限 25時間 26時間	精神保健における個別課題への取り組み	緩和ケアと精神保健を理解し、説明できる。	
14限 27時間 28時間	精神保健活動の実際	家庭における精神保健を理解し、説明できる。	
15限 29時間 30時間	精神保健活動の実際	学校における精神保健を理解し、説明できる。	

科目名 精神保健学		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 阿部真之
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
16限 <u>31時間</u> 32時間	精神保健活動の実際	職場における精神保健を理解し、説明できる。	
17限 <u>33時間</u> 34時間	精神保健活動の実際	地域における精神保健を理解し、説明できる。	
18限 <u>35時間</u> 36時間	地域精神保健の現状と課題	地域精神保健施策の発展と経緯を理解するとともに、地域精神保健活動の実際について理解し、説明できる。	
19限 <u>37時間</u> 38時間	地域精神保健の現状と課題	地域保健・地域精神保健に係る関係法規・関係施策を理解し、説明できる。	
20限 <u>39時間</u> 40時間	地域精神保健の現状と課題	地域保健・地域精神保健に係る関係法規・関係施策を理解し、説明できる。	
21限 <u>41時間</u> 42時間	地域精神保健の現状と課題	精神保健福祉に関する調査研究を理解し、説明できる。	
22限 <u>43時間</u> 44時間	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	メンタルヘルスにおける精神保健福祉士の役割を理解し、説明できる。 認知症領域における精神保健福祉士の役割を理解し、説明できる。	
23限 <u>45時間</u> 46時間	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	自殺対策における精神保健福祉士の役割を理解し、説明できる。 スクールソーシャルワーカーにおける役割を理解し、説明できる。	
24限 <u>47時間</u> 48時間	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	さまざまな領域における精神保健福祉士の役割を理解し、説明できる。 メンタルヘルスにおける精神保健福祉士の役割を理解し説明できる。	
25限 <u>49時間</u> 50時間	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	国および行政機関の役割を理解するとともに、各種行政機関の役割についても理解し、説明できる。	
26限 <u>51時間</u> 52時間	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	保健専門職の役割について理解し、精神保健における連携のあり方の理解を深めることができる。	
27限 <u>53時間</u> 54時間	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割	精神保健に関わる専門職種との役割と連携について理解し、説明できる。	
28限 <u>55時間</u> 56時間	世界の精神保健	世界の精神疾患の疫学について理解するとともに、WHOなどの国際機関の活動を理解し、説明できる。 諸外国の精神保健医療の実情を理解できる。	
29限 <u>57時間</u> 58時間	世界の精神保健	世界の精神保健について理解を深め、説明できる。	
30限 <u>59時間</u> 60時間	まとめ	振り返りを通して、ライフサイクルにおける精神保健に関わる問題と対策、精神保健に関わる地域の仕組み、専門職種間の連携について理解を深め、それぞれを説明できる。	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 精神障害 リハビリテーション論	教員名 阿部 真之
科目時間数： 30時間 (15限)	授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択の別： 必修・選択	配当学年： 2年次 開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 ・精神保健ソーシャルワークと精神障害リハビリテーションの関係を整理したうえで、精神障害リハビリテーションの内容について詳しく学ぶ。 ・社会の変化に対応するために求められるようになった精神障害リハビリテーションと、拡大する精神保健福祉士の役割について学ぶ。	
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ① 自己の理解及び他者を理解する力を育成する。 ② 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する。 ③ あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する。	
【授業全体の内容の概要】 ・精神保健ソーシャルワークと精神障害リハビリテーションの関係について ・精神障害リハビリテーションの理念と原則 ・精神障害リハビリテーションの構成および展開 ・精神障害リハビリテーションの実際	
【授業における達成課題】 ・精神保健ソーシャルワークと精神障害リハビリテーションの関係を整理したうえで、精神障害リハビリテーションの内容を説明ができる。 ・社会の変化に対応するために求められる精神障害リハビリテーションと、そこでの精神保健福祉士の役割について説明ができる。	
【使用教材・テキスト等】 最新精神保健福祉士養成講座 精神障害リハビリテーション論 中央法規	
【使用教室】 ① HR ② 介護実習室 ③ 家政実習室 ④ 視聴覚室 ⑤ PC実習室 ⑥ 接遇実習室 ⑦ その他 ()	
【評価方法】 中部学院大学の基準に則る	
【備考】	
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】 臨床心理士、公認心理師 児童精神科および精神科の医療機関、学校現場における臨床経験。	

科目名 精神医学リハビリテーション論		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 阿部真之
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション <u>精神障害リハビリテ ーション論とは</u>	精神障害リハビリテーション論で学ぶことが理解できる。	
2限 3時間 4時間	<u>精神障害リハビリテ ーションとソーシャルワ ーク</u>	精神障害リハビリテーションと精神保健ソーシャルワークについて整理できる。	
3限 5時間 6時間	<u>精神障害リハビリテ ーションの理念、定義、基 本原則</u>	精神障害リハビリテーションの理念と定義を理解し、説明できる。	
4限 7時間 8時間	<u>精神障害リハビリテ ーションの理念、定義、基 本原則</u>	精神障害リハビリテーションの基本原則と意義について理解し、説明できる。	
5限 9時間 10時間	<u>精神障害リハビリテ ーションの構成および展開</u>	精神障害リハビリテーションの対象について学び、説明できる。	
6限 11時間 12時間	<u>精神障害リハビリテ ーションの構成および展開</u>	チームアプローチについて学び、精神障害リハビリテーションのプロセスについて説明できる。	
7限 13時間 14時間	<u>精神障害リハビリテ ーションのプログラムの内 容</u>	医学的リハビリテーションプログラムについて知り、説明できる。	
8限 15時間 16時間	<u>精神障害リハビリテ ーションのプログラムの内 容</u>	職業的リハビリテーションプログラムについて知り、説明できる。	
9限 17時間 18時間	<u>精神障害リハビリテ ーションのプログラムの内 容</u>	社会的リハビリテーションプログラムを知り、説明できる。	
10限 19時間 20時間	<u>精神障害リハビリテ ーションのプログラムの内 容</u>	教育的リハビリテーションプログラムを知り、説明できる。	
11限 21時間 22時間	<u>精神障害リハビリテ ーションのプログラムの内 容</u>	家族支援プログラムを知り、説明できる。	
12限 23時間 24時間	<u>精神障害リハビリテ ーションのプログラムの内 容</u>	リハビリテーションに用いられる、その他の手法やプログラムを知り、説明できる。	
13限 25時間 26時間	<u>精神障害リハビリテ ーションの動向と実際</u>	精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーションについて理解を深め、説明できる。	
14限 27時間 28時間	<u>精神障害リハビリテ ーションの動向と実際</u>	依存症をはじめ、現代社会の精神障害リハビリテーションについて理解を深め、説明できる。	
15限 29時間 30時間	<u>まとめ</u>	精神保健ソーシャルワークと精神障害リハビリテーションの関係を整理し、精神障害リハビリテーションの内容の理解を深めるとともに、課題を理解しながら精神保健福祉士の役割について説明できる。	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 精神保健福祉の原理		教員名 會津 真子									
科目時間数： 60時間 (30 限)		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☒ 演習 ・ 実習									
必修・選択 の別： ☒ 必修 ・ 選択	配当学年： 2年次	開講時期： ☒ 前期 ☒ 後期 集中									
【授業の目的・ねらい】 精神保健福祉における理念・視点や関係性等の基礎的な枠組みを習得し、精神障害者の基本的人権の保障と社会正義の実現を担う専門職として精神保健福祉士の存在意義や役割について理解する。 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する 【授業全体の内容の概要】 精神保健福祉の歴史を概観しながら、精神障害のとらえ方、障害者福祉の理念や意義を解説する。また、精神保健福祉支援の価値・視点・倫理および精神保健福祉士の役割について解説する。 【授業における達成課題】 精神保健福祉士の支援対象である精神障害者について理解し、併せてソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士の職業的アイデンティティの基本を習得する。											
【使用教材・テキスト等】 中央法規出版 最新・精神保健福祉士養成講座 第5巻 精神保健福祉の原理											
【使用教室】 <table border="0"> <tr> <td>☒ 1. HR</td> <td>2. 介護実習室</td> <td>3. 家政実習室</td> <td>4. 視聴覚室</td> </tr> <tr> <td>5. PC実習室</td> <td>6. 接遇実習室</td> <td colspan="2">7. その他 ()</td> </tr> </table>				☒ 1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室	5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
☒ 1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室								
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()									
【評価方法】 レポート・科目修了試験・出席率・授業態度等にて評価											
【備考】											
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無 【内 容】 スクールカウンセラーとしての実務経験											

科目名 精神保健福祉の原理			科目時間総数 60 時間 (30 限)	教員名 會津 真子
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1	限	1 時間 2 時間	オリエンテーション 精神保健福祉の原理	本科目の学びのポイントを抑える
2	限	3 時間 4 時間	精神障害（者）の概念	精神保健福祉法における精神障害者の定義の理解
3	限	5 時間 6 時間	〃	障害者基本法及び障害者総合支援法における定義の理解
4	限	7 時間 8 時間	〃	国際生活機能分類（ICF）と精神障害の関連の理解
5	限	9 時間 10 時間	〃	精神障害の「障害特性」の理解
6	限	11 時間 12 時間	〃	精神障害の理解と支援にかかわる新たな潮流の理解
7	限	13 時間 14 時間	精神障害者の排除の歴史	諸外国における排除の歴史とその後の展開の理解
8	限	15 時間 16 時間	〃	精神障害者の人権保障に関する国際的な取り組みの理解
9	限	17 時間 18 時間	〃	日本における排除の歴史の理解、精神保健福祉法成立まで
10	限	19 時間 20 時間	〃	日本における排除の歴史の理解、医療観察法関連
11	限	21 時間 22 時間	〃	日本における排除の構造・背景の理解
12	限	23 時間 24 時間	〃	日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組みの理解
13	限	25 時間 26 時間	精神障害者の生活特性	精神科医療による生活への影響の理解
14	限	27 時間 28 時間	〃	精神障害者の家族が置かれている状況の理解
15	限	29 時間 30 時間	〃	精神障害者の社会生活の実際の理解

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16 限	31時間	〃	メンタルヘルスをめぐる新たな課題の理解
	32時間		
17 限	33時間	精神保健福祉の原理と理念	精神保健福祉の原理が培われた足跡・過程の理解
	34時間		
18 限	35時間	〃	精神保健福祉の原理を培ってきた歴史の理解
	36時間		
19 限	37時間	〃	精神保健福祉士法の成立とその価値の理解
	38時間		
20 限	39時間	〃	精神保健福祉士による実践の価値・原理の理解
	40時間		
21 限	41時間	〃	精神保健福祉士の実践の視点の理解
	42時間		
22 限	43時間	〃	エンパワメント・リカバリー等の主要概念の理解
	44時間		
23 限	45時間	〃	援助における関係性の理解
	46時間		
24 限	47時間	精神保健福祉士の役割と機能	精神保健福祉法の理解
	48時間		
25 限	49時間	〃	精神保健福祉士の職業倫理の理解
	50時間		
26 限	51時間	〃	精神保健福祉士の業務特性の理解
	52時間		
27 限	53時間	〃	精神保健福祉士の業務指針の理解
	54時間		
28 限	55時間	〃	精神保健福祉士の職場・職域の理解
	56時間		
29 限	57時間	〃	精神保健福祉士の業務内容とその特性
	58時間		
30 限	59時間	テスト実施 解説・まとめ	テストを行う テストの解説をし、この科目のまとめを行う
	60時間		

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 精神保健福祉制度論		教員名 西山 直輝	
科目時間数：30時間（15限）		授業の種類：講義・演習・実習	
必修・選択 の別：	必修・選択	配当学年：2年次	開講時期：前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 ・現在の障がい者関連法律が施行されるまでの経緯を学び、法律がどのように展開されているか学ぶ。 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する 【授業全体の内容の概要】 ・医療分野における障がい者支援について学ぶ ・福祉、地域分野における障がい者支援について学ぶ 【授業における達成課題】 ・障害者総合支援法を理解する ・医療機関での入院形態を理解する ・障害者関連法について理解する			
	使用教材	出版社	
学生用	最新・精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉制度論	中央法規出版株式会社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ） 【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ） 【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】		有・無	
【内 容】		障がい者福祉施設での勤務経験	

科目名		科目時間総数	教員名
精神保健福祉制度論		30時間 (15限)	西山 直輝
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 限 2時間	障がい者の歴史	国内の障がい者の歴史や偏見について理解する	
2 限 4時間	精神保健福祉士の価値	障がい者支援において求められる姿や価値観、考え方を理解する	
3 限 6時間	障がいに係る法律の歴史①	明治～昭和初期までの障がい者に係る法律について学ぶ	
4 限 8時間	障がいに係る法律の歴史②	昭和中期～平成までの障がいに係る法律について学ぶ	
5 限 10時間	障害者総合支援法①	法律の全体像を学ぶ	
6 限 12時間	障害者総合支援法②	介護給付のサービスについて学ぶ	
7 限 14時間	障害者総合支援法③	訓練等給付のサービスについてまなぶ	
8 限 16時間	障害者総合支援法④	地域生活支援について学ぶ	
9 限 18時間	障害者総合支援法⑤	相談支援について学ぶ	
10 限 20時間	障害関連法	障害者雇用促進法や虐待防止法など関連法律について学ぶ	
11 限 22時間	障がい者の医療制度①	措置入院について学ぶ	
12 限 24時間	障がい者の医療制度②	医療保護入院について学ぶ	
13 限 26時間	障がい者の医療制度③	任意入院と専門職の役割について学ぶ	
14 限 28時間	医療観察法	医療観察法の仕組みについて学ぶ	
15 限 30時間	まとめ・振り返り	自分が気になる分野を取り上げ、現状についてまとめる	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 高齢者の心理		教員名 鎌田 文総	
科目時間数：30時間（15限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年：1 年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 生涯発達における高齢期の意味、心理学的諸機能の高齢化（エイジング）による変化、社会的背景、記憶や知能、感情、性格等の変化と適応の問題、また、高齢期の心理学的問題の中でもとりわけ、重要な重要な認知症の理解と心理学的対応技術などの理解と習得を目的とする。			
（当該科目が最も関連するDPに○） 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する ☒ 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 主に以下の三つの内容からなる。一つは、高齢者心理学の基礎としての総論である。高齢者と加齢をめぐる心理学的考察の歴史と展望、生物学的加齢と心理学的加齢、および高齢者を取り巻く社会的環境、二つには、高齢期の注意、記憶、知能・知恵、創造性、情動・感情、幸福感、性格等、三つには、高齢者の認知症についてである。これらの研究や諸説を概観し、概説する。			
【授業における達成課題】 さまざまな視点からの高齢者の心理に関し、理解を深めるとともに、高齢者の医療・福祉・行政など多角的に捉えることができる			
【使用教材・テキスト等】 高齢者心理学 朝倉書店			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 中部学院大学通信教育部の評価基準に準ずる			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 元特別支援学校校長			

科目名 高齢者の心理		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 鎌田 文総
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	授業の位置づけについて理解する。	
2限 3時間 4時間	第1部・総論	高齢者の心理学的基礎 1 高齢者と加齢をめぐる心理学的考察の歴史と展望 1	
3限 5時間 6時間	第2部・各論	高齢者の心理学的基礎 1 高齢者と加齢をめぐる心理学的考察の歴史と展望 2	
4限 7時間 8時間	〃	生物学的加齢と心理学的加齢 1	
5限 9時間 10時間	〃	生物学的加齢と心理学的加齢 2	
6限 11時間 12時間	〃	高齢者を取り巻く社会的環境 1	
7限 13時間 14時間	〃	高齢者を取り巻く社会的環境 2	
8限 15時間 16時間	〃	高齢者の知能、知恵、創造性	
9限 17時間 18時間	〃	高齢者の情動・感情と幸福感	
10限 19時間 20時間	〃	高齢期への適応と人格発達	
11限 21時間 22時間	〃	認知症の理解（「知的障がい」、「認知障がい」との相違） 1	
12限 23時間 24時間	〃	認知症の理解（三大認知症：アルツハイマー、レビー小体、脳血管性） 2	
13限 25時間 26時間	〃	認知症患者への支援 1	
14限 27時間 28時間	〃	認知症患者への支援 2	
15限 29時間 30時間	まとめ	授業のまとめ	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 障害者の心理		教員名 西山 直輝	
科目時間数：30時間（15限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年：年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 障害特性で当事者を決めつけてしまい、生きにくさを助長させてしまうことに繋がっている現状がある。その方の障害の程度や性格、周囲の環境等、当事者の声に触れてこれまでの自身のあり方を見つめ直す。			
【ディプロマポリシーとの関連】 （当該科目が最も関連するDPに○） ☒ 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する ☐ 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する ☐ 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 あらゆる障害の特性を理解し、事例を用いてその方の置かれている現状から考えられる事象を検討する。			
【授業における達成課題】 ・ 障害者のおかれている状況や心情を当事者の立場になって考えることができる			
【使用教材・テキスト等】 これからの障害心理学〈わたし〉と〈社会〉を問う 有斐閣			
【使用教室】 ☒ 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 ☐ 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 中部学院大学通信教育部の評価基準に準ずる			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 障害支援施設での勤務経験			

科目名 障害者の心理		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 西山直輝
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	障害とは何か	障害をめぐる偏見や差別	
2限 3時間 4時間	〃	障害の社会モデルと個人モデル	
3限 5時間 6時間	障害の「外」からの理解	機能障害とは	
4限 7時間 8時間	〃	機能障害の症状を特性	
5限 9時間 10時間	障害の「内」からの理解	心の変化・動きについて	
6限 11時間 12時間	〃	自己覚知と他者理解	
7限 13時間 14時間	支援は誰が誰に行うのか	対等な対話とエンパワメントについて事例検討	
8限 15時間 16時間	〃	フォーマル支援とインフォーマル支援	
9限 17時間 18時間	身体障害とは何か	身体障害者が抱える生きにくさについて検討する	
10限 19時間 20時間	精神障害とは何か	統合失調症やうつ病者が抱える生きにくさ	
11限 21時間 22時間	〃	安心できるつながりとは	
12限 23時間 24時間	〃	統合失調症がある人への生活支援・地域支援	
13限 25時間 26時間	発達障害とは何か	自閉症スペクトラム障害の方が抱える生きにくさ	
14限 27時間 28時間	〃	ADHDの方への支援方法について	
15限 29時間 30時間	まとめ	授業の振り返り	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 教育心理学		教員名 菅原 正和	
科目時間数：60時間（30限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年：3 年次	開講時期： ☒ 前期・後期 ☐ 集中	
【授業の目的・ねらい】 幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的知識を身に付け、各発達段階における教育心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を習得し、実践できるようにする。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ☒ 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 教育心理学は心理学の各専門領域の研究成果を再結集した心理学における学際的領域から成り立っている。そこには発達・学習・記憶・知能・性格・発達障害とその理解、虐待といじめ、不登校問題、教育評価と心理測定等が内容に含まれる。			
【授業における達成課題】 課題を達成するために教育心理学における各行も気宇の理解にとどまらず、なぜそれをか菜ぶのか問題の解決はいかにして可能かを理論的に考え実践する能力を構築する。			
【使用教材・テキスト等】 よくわかる教育心理学 ミネルヴァ書房			
【使用教室】 ☒ 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 中部学院大学通信教育部の評価基準に準ずる			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 特別支援学校校長			

科目名 教育心理学		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 菅原正和
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	教育心理学の歴史的背景と内容	
2限 3時間 4時間	教育心理学の方法	調査法、観察法、事例研究	
3限 5時間 6時間	発達の要因	発達の段階と課題	
4限 7時間 8時間	発達の初期経験	エピジェネティクスと遺伝的要因	
5限 9時間 10時間	親子関係の心理学	心理学的方法と家族社会学的方法	
6限 11時間 12時間	学習理論	モチベーション、プログラム学習、発見学習	
7限 13時間 14時間	学習意欲	脳内メカニズムと無気力、意欲の問題	
8限 15時間 16時間	学習と記憶	STL、LTM、ワーキングメモリー、エピソード記憶	
9限 17時間 18時間	知能検査	知能の種類と検査法	
10限 19時間 20時間	これからの知能	AIの現在と未来	
11限 21時間 22時間	パーソナリティ	恒常性と遺伝、環境要因	
12限 23時間 24時間	〃	古典的理論と最新の理論	
13限 25時間 26時間	〃	質問紙法、投影法、生化学的検査	
14限 27時間 28時間	社会性の発達	対人関係	
15限 29時間 30時間	友人・異性関係	仲間関係の発達と孤立、ヘンドリック理論	
16限 31時間 32時間	学校といじめ	海外での取り組み	
17限 33時間 34時間	いじめのタイプと学級集団	日本でのいじめの特徴	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
18限 35時間 36時間	教育臨床	スクールカウンセラーの必要性
19限 37時間 38時間	教育相談	教師・保護者への援助
20限 39時間 40時間	学校不適応	ストレスとフラストレーションの測定
21限 41時間 42時間	心身障害	統合教育と分離教育
22限 43時間 44時間	各障害	視覚障害・聴覚障害、ジストロフィー、てんかん
23限 45時間 46時間	生徒指導	教科の指導性・教師の指導性
24限 47時間 48時間	情報教育	メディア利用学習と留意点
25限 49時間 50時間	心理療法	心理劇・コラージュ療法
26限 51時間 52時間	道徳性の発達	コールバーグ理論、ギリガン理論、社会的学習理論
27限 53時間 54時間	スクールカウンセリング	プレイセラピー
28限 55時間 56時間	教育評価	新しいポートフォリオ評価
29限 57時間 58時間	総括	全体のまとめ
30限 59時間 60時間	〃	〃

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 心理学研究法		教員名 鈴木 護	
科目時間数： 30 限		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 1 年	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 心理学は心を科学的に研究する学問である。だが、その研究対象である心は脳や心臓のように身体のどこかに存在しているものではなく、観察する事も出来ない。そもそも心とはどのようなものか、科学的に研究していく。 【授業全体の内容の概要】 心理学がどのように研究されているのかを学ぶ中で、心理学とはどのような学問であるのか正しい認識を持つことを第一の目的とする。 【授業における達成課題】 心理を分析するための基本的な研究手法を獲得する。			
	使用教材	出版社	
	心理学研究法	サイエンス社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）			
【備 考】 評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】 司法機関における研究員			

科目名		科目時限総数	教員名
心理学研究法		30 限	鈴木 護
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	心理学研究法の特色	ブントの実験心理学、意識と行動	
2 限	〃	行動主義心理学の方法	
3 限	観察法と面接法	自然観察と実験観察	
4 限	〃	面接法	
5 限	実験法	心理学実験とは	
6 限	〃	実験の変数	
7 限	心理物理学的測定法	ミュラーリヤー錯視について	
8 限	〃	ミュラーリヤー錯視を調べる	
9 限	〃	ミュラーリヤー錯視を調べる②	
10 限	〃	実験結果のまとめ	
11 限	〃	実験結果のまとめ②	
12 限	〃	代表的な質問紙	
13 限	〃	質問紙法の概略	
14 限	〃	質問紙法の実施	
15 限	〃	SD法とは	
16 限	〃	SD法を実施する	
17 限	反応時間測定法	反応時間とは	
18 限	〃	代表的な研究	
19 限	〃	代表的な研究②	
20 限	研究文献を読む	サイエンティフィックアメリカンに掲載された論文を読む	
21 限	〃	〃	
22 限	〃	〃	
23 限	〃	〃	
24 限	統計法	代表値と分布	
25 限	〃	母集団とサンプル	
26 限	〃	記述統計と統計的検定	
27 限	調査法	相関と回帰	
28 限	〃	〃	
29 限	〃	因子分析	
30 限	〃	〃	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 学習心理学

教員名 會津 真子

科目時間数： 30時間 (15 限)

授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習

必修・選択の別： 必修 ・ 選択

配当学年： 2年次

開講時期： 前期 ・ 後期 集中

【授業の目的・ねらい】

「学習」「行動」「心理」の関係を理解し、人間についての学びを深める

【ディプロマポリシーとの関連】

1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する
2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する
3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する

【授業全体の内容の概要】

「学習」が人間の行動や心理にどう影響するかを理解する

【授業における達成課題】

- ・「学習」とは何か理解する
- ・「学習」が人間の「行動」「心理」にどう影響するか理解する

【使用教材・テキスト等】

サイエンス社 学習の心理第2版

【使用教室】

- | | | | |
|----------|----------|------------|---------|
| 1. HR | 2. 介護実習室 | 3. 家政実習室 | 4. 視聴覚室 |
| 5. PC実習室 | 6. 接遇実習室 | 7. その他 () | |

【評価方法】

レポート・科目修了試験・出席率・授業態度等にて評価

【備考】

【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無

スクールカウンセラーとしての
実務経験

【内 容】

科目名		科目時間総数 30時間 (15 限)		教員名
学習心理学				會津 真子
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1	限	1時間 2時間	オリエンテーション	授業の位置づけについて理解する
2	限	3時間 4時間	「学習」について学ぶ	自分たちの生活と絡めながら、無条件反射や生得的行動について理解する
3	限	5時間 6時間	「馴化」と「鋭敏化」について学ぶ	「学習」の結果、行動はどう変わるのかについて理解する
4	限	7時間 8時間	古典的条件づけについて学ぶ	古典的条件づけの基本的特徴について学ぶ
5	限	9時間 10時間	〃	複雑な古典的条件づけについて学ぶ
6	限	11時間 12時間	〃	古典的条件づけにより何が学習されるかについて学ぶ
7	限	13時間 14時間	オペラント条件づけについて学ぶ	オペラント条件づけの基本的特徴について学ぶ
8	限	15時間 16時間	〃	オペラント行動の獲得までの流れを理解する
9	限	17時間 18時間	〃	強化・消去と罰・強化スケジュールについて理解する
10	限	19時間 20時間	〃	「弁別」・「般化」について理解する
11	限	21時間 22時間	概念学習・観察学習・問題解決 〃	「学習」による問題解決までの流れを理解する
12	限	23時間 24時間	記憶と学習の関係について理解する 〃	「記憶」はどのように行われているか、「学習」とはどのように関わっているのかについて理解する
13	限	25時間 26時間	エピソード記憶とメタ記憶について学ぶ	記憶の仕組み、人間と動物との違いについて理解する
14	限	27時間 28時間	まとめ、予備日	班ごとに教科書の内容を分担し、まとめる
15	限	29時間 30時間	発表会、テスト実施	前回まとめた内容を班ごとに発表。その後テストを行う

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生理心理学		教員名 阿部 真之	
科目時間数： 60時間 (30限)		授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修・選択	担当学年： 3年次	開講時期： 前期・後期・ ☒ 集中	
【授業の目的・ねらい】 脳の構造や機能についての知識を習熟し、脳と心の関係やそれにかかわる諸問題について学ぶ。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ① 自己の理解及び他者を理解する力を育成する。 ② 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する。 ③ あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する。			
【授業全体の内容の概要】 ・脳の構造について ・脳内の情報処理について ・脳のはたらきと身体機能や精神機能との関わりについて ・様々な精神障害と脳疾患との関連について			
【授業における達成課題】 ・脳の各部位の名前や機能局在について理解することができる ・脳と心の関係について理解することができる			
【使用教材・テキスト等】 生理心理学： 脳の働きから見た心の世界 第二版 サイエンス社			
【使用教室】 ①. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 中部学院大学の基準に則る			
【備 考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無 【内 容】 臨床心理士、公認心理師 児童精神科および精神科の医療機関、学校現場における臨床経験。			

科目名		科目時間総数	教員名
生理心理学		60時間（30限）	阿部真之
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション <u>生理心理学とは</u>	生理心理学について理解できる	
2限 3時間 4時間	<u>生理心理学とは</u>	全体論と局在論を理解でき、生理心理学の研究方法についても理解できる。	
3限 5時間 6時間	<u>脳の構造</u>	脳が何からできているかを理解するとともに、中枢神経系と末梢神経系について説明できる。	
4限 7時間 8時間	<u>脳の構造</u>	大脳皮質と脳地図、脳の分類について理解できる。	
5限 9時間 10時間	<u>脳の構造</u>	神経細胞の信号伝達部位を理解し、神経細胞の構造を説明できる。	
6限 11時間 12時間	<u>脳の信号</u>	平衡電位を理解し、静止膜電位を説明できる。	
7限 13時間 14時間	<u>脳の信号</u>	シナプス後電位を理解し、神経伝達物質の放出と除去について説明できる。	
8限 15時間 16時間	<u>脳の信号</u> <u>脳と知覚</u>	神経伝達物質の同定の基準を理解できる。 視覚経路を理解できる。	
9限 17時間 18時間	<u>脳と知覚</u>	高次視覚皮質における細胞応答について理解し、第1次視覚野以降の経路について説明できる。	
10限 19時間 20時間	<u>脳と知覚</u>	聴覚系について理解し、化学的感覚について説明できる。	
11限 21時間 22時間	<u>脳と記憶</u>	記憶と、その障害を理解し、事例を通して記憶障害について説明できる。	
12限 23時間 24時間	<u>脳と記憶</u>	動物実験における知見から記憶についての理解を深め、脳の可塑性を理解できる。	
13限 25時間 26時間	<u>脳と記憶</u> <u>学習</u>	長期増強と記憶について理解でき、脳と学習について説明できる。	
14限 27時間 28時間	<u>学習</u>	慣れと鋭敏化を理解できる。条件付けについて説明できる。	
15限 29時間 30時間	<u>学習</u>	条件付けについて理解を深め、学習の神経科学の進展について説明できる。	

科目名		科目時間総数	教員名
生理心理学		60時間 (30限)	阿部真之
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
16限 <u>31時間</u> 32時間	情動	情動について理解し、情動の機構について説明できる。	
17限 <u>33時間</u> 34時間	情動 動機づけ	情動と健康について理解を深めることができる。 動機づけについて理解し、説明できる。	
18限 <u>35時間</u> 36時間	動機づけ	摂食と飲水行動について理解し、説明できる。 攻撃行動について理解し、説明できる。	
19限 <u>37時間</u> 38時間	動機づけ 心の病気と脳	社会的動機について理解し、説明できる。 生物学的に見た心の病気について理解を深めることができる。	
20限 <u>39時間</u> 40時間	心の病気と脳	生物学的に見た統合失調症がわかり、統合失調症の理解を深めることができる。 生物学的に見た気分障害がわかり、気分障害を深く理解できる。	
21限 <u>41時間</u> 42時間	心の病気と脳 脳の側性化	生物学的に見た不安障害がわかり、不安障害の理解を深めることができる。 大脳半球について理解を深め、説明できる。	
22限 <u>43時間</u> 44時間	脳の側性化	失語症研究より、言語と脳の関係を理解できる。 右半球の機能を理解することができる。	
23限 <u>45時間</u> 46時間	脳の側性化 睡眠	左半側無視を理解することができる。 睡眠についてを知り、説明できる。	
24限 <u>47時間</u> 48時間	睡眠	睡眠の機能を理解し、睡眠のメカニズムを説明できる。	
25限 <u>49時間</u> 50時間	睡眠 意識	睡眠の臨床について理解し、説明できる。 意識と自我の神経基盤を理解し、説明できる。	
26限 <u>51時間</u> 52時間	意識	前頭連合野について理解を深めることができる。 潜在的認知を理解できる。	
27限 <u>53時間</u> 54時間	意識 臨床心理学と脳科学	非侵襲的脳機能測定法について理解し、説明できる。 脳の発達と臨界期の理解を深めることができる。	
28限 <u>55時間</u> 56時間	臨床心理学と脳科学	ADHDと脳の関係を知り、説明できる。 自閉症と脳の関係について理解し、説明できる。	
29限 <u>57時間</u> 58時間	臨床心理学と脳科学	パーキンソン病とアルツハイマー病の脳の関係について知り、神経心理学的リハビリテーションを理解できる。	
30限 <u>59時間</u> 60時間	まとめ	全体を振り返り、脳の各部位の名前や機能局在について理解を深めるとともに、脳と心の関係について説明することができる。	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 臨床心理学		教員名 菅原 正和	
科目時間数：60時間（30限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年：4年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 本授業は臨床心理学の地租知識として、理療理論や介入技法に加え、心や年限についての捉え方、症状や障害についての知識、査定の方法について学ぶ。			
（当該科目が最も関連するDPに○） 【ディプロマポリシーとの関連】 ☒ 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 ①心理アセスメント方法②地域援助方法③以上心理学④発達障害⑤臨床心理学の研究法⑥心理療法の技法を展開する。			
【授業における達成課題】 ・ 地域社会と人々の接点への介入方法を知る ・ 問題解決型ソーシャルアクションの技法を理解する ・ 地域の状況を知るためのツールを理解する			
【使用教材・テキスト等】 よくわかる臨床心理学 ミネルヴァ書房			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 レポート・出席率・授業態度にて評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 元特別支援学校校長			

科目名 臨床心理学		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 菅原正和
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	ガイダンス	臨床心理学とは何か	
2限 3時間 4時間	臨床心理学の基本理論	臨床心理学の基本となる理論を理解する	
3限 5時間 6時間	〃	〃	
4限 7時間 8時間	〃	〃	
5限 9時間 10時間	臨床心理査定	臨床心理査定の目的と方法を理解する	
6限 11時間 12時間	〃	〃	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	〃	臨床心理査定のデータ収集、分析方法を理解する	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	〃	〃	
11限 21時間 22時間	〃	〃	
12限 23時間 24時間	異常心理学	異常心理学の概要を理解する	
13限 25時間 26時間	〃	夢分析の概要を理解する	
14限 27時間 28時間	〃	超心理学の概要を理解する	
15限 29時間 30時間	〃	〃	
16限 31時間 32時間	ライフサイクルと心理的	エリクソンのライフサイクル理論を理解する	
17限 33時間 34時間	〃	幼児期のライフステージにおける発達課題を理解する	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
18限 35時間 36時間	〃	青年期におけるライフステージと発達課題を理解する
19限 37時間 38時間	〃	老年期におけるライフステージと発達課題を理解する
20限 39時間 40時間	発達過程で生じる障害や	スチューデントアパシー等の現象を理解する
21限 41時間 42時間	〃	〃
22限 43時間 44時間	心理療法の介入技法	箱庭療法・投影法・コラージュ療法の効果を理解する
23限 45時間 46時間	〃	〃
24限 47時間 48時間	〃	〃
25限 49時間 50時間	〃	〃
26限 51時間 52時間	心理療法の集団への適用	心理劇ロールプレイ及び心理療法模擬実践
27限 53時間 54時間	〃	
28限 55時間 56時間	〃	
29限 57時間 58時間	〃	
30限 59時間 60時間	〃	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 福祉への心理学的アプローチ		教員名 中部学院大学講師	
科目時間数： 30時間 15限		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修	配当学年： 3年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 中部学院大学スクーリング科目のため、中部学院大学学習要綱に準拠 本科目は、中部学院大学講師が撮影した講義ビデオを閲覧する			
【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 中部学院大学スクーリング科目のため、中部学院大学学習要綱に準拠			
【授業における達成課題】 中部学院大学スクーリング科目のため、中部学院大学学習要綱に準拠			
【使用教材・テキスト等】 自分を変えたい人のためのABCモデル改訂版 ふくろう出版			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 中部学院大学通信教育部の評価基準に準ずる			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 大学教授			

科目名		科目時間総数		教員名	
福祉への心理学的アプローチ		30時間（15限）		中部学院大学講師	
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標			
1限 1時間 2時間	中部学院大学学習要綱に準拠	中部学院大学学習要綱に準拠			
2限 3時間 4時間					
3限 5時間 6時間					
4限 7時間 8時間					
5限 9時間 10時間					
6限 11時間 12時間					
7限 13時間 14時間					
8限 15時間 16時間					
9限 17時間 18時間					
10限 19時間 20時間					
11限 21時間 22時間					
12限 23時間 24時間					
13限 25時間 26時間					
14限 27時間 28時間					
15限 29時間 30時間					

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ソーシャルワーク演習		教員名 菊池 伸哉									
科目時間数： 15時間 (7.5 限)		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習									
必修・選択 の 別： ☒ 必修 ・ 選択	配当学年： 2年次	開講時期： 前期・ ☒ 後期 ・ 集中									
【授業の目的・ねらい】 精神保健福祉士の資格上の特性として、権利擁護並びにプライバシーの保持が義務付けられている。ボランティア等で知識や技術を涵養することは重要であるが、技術を支援に反映させるためには「ソーシャルワーク活動の場面を想定した取り組み」が必要である。そこで、様々な事例をソーシャルワークの技術を用いて検討し、支援技術の大切さを学んでほしい。 【心理福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する ☒ 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する 【授業全体の内容の概要】 事例検討はロールプレイを中心に行うが、ロールプレイは物まねではなく、真剣に対象者を演じることで、リアリティある支援を検討できるものである。人前で発表するのが恥ずかしいという価値観を乗り越える機会としてほしい。 【授業における達成課題】 事例に応じてふさわしいロールプレイを実践できているか、またそのロールプレイ内容に適切な支援方法を考えることができているかを達成課題とする。											
	使用教材	出版社									
	ソーシャルワーク演習	中央法規									
【使用教室】 <table border="0"> <tr> <td>☒ 1. HR</td> <td>2. 介護実習室</td> <td>3. 家政実習室</td> <td>4. 視聴覚室</td> </tr> <tr> <td>5. PC実習室</td> <td>6. 接遇実習室</td> <td colspan="2">7. その他 ()</td> </tr> </table>				☒ 1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室	5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
☒ 1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室								
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()									
【評価方法】 <table border="0"> <tr> <td>1. 筆記試験</td> <td>☒ 2. レポート</td> <td>☒ 3. 出席</td> <td>☒ 4. 授業態度</td> </tr> <tr> <td>5. 実技試験</td> <td colspan="3">6. その他 ()</td> </tr> </table>				1. 筆記試験	☒ 2. レポート	☒ 3. 出席	☒ 4. 授業態度	5. 実技試験	6. その他 ()		
1. 筆記試験	☒ 2. レポート	☒ 3. 出席	☒ 4. 授業態度								
5. 実技試験	6. その他 ()										
【備 考】 評価について：試験、レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。											
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無											
【内 容】 社会福祉協議会での相談支援業務、研修講師等											

科目名 ソーシャルワーク演習		科目時間総数 15時間 (7.5限)	教員名 菊池 伸哉
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
1	限 1時間 2時間	イントロダクション	自己覚知の重要性を知る
2	限 3時間 4時間	ロールプレイ	ロールプレイのルール、マナーを確認し、真剣に演じる土台を作ることができる
3	限 5時間 6時間	事例検討	児童虐待を受けている子どもへのソーシャルワーク
4	限 7時間 8時間	〃	障害基礎年金を横領されている障害者へのソーシャルワーク
5	限 9時間 10時間	〃	パーソナリティ障害と診断された人から執拗に交際を求められている人へのソーシャルワーク
6	限 11時間 12時間	〃	青年期に障害を負った中途障害者の障害受容過程とソーシャルワーク
7	限 13時間 14時間	〃	盲ろう者等、重複障害者へのソーシャルワーク
7.5	限 15時間	〃	就業意欲が起こらず、何度も転職を繰り返す未診断の方へのソーシャルワーク

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 精神保健福祉演習 I		教員名 西山 直輝	
科目時間数：5時間（22，5限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択 の 別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年：2 年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 精神保健福祉士としての臨床場面で専門的援助ができるようになるために、相談援助の基本的な知識と技術を学ぶ。また、それらを通して精神保健福祉士の価値や視点を学ぶ。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ☒ 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 講義の中で相談援助技術の理論を学び、具体的な事例をもとにロールプレイを用いながら実践的な学習を行う。			
【授業における達成課題】 精神保健福祉士としての考え方や援助の視点を理解する。また、面接技法などの基本的な援助技術を理解する。			
【使用教材・テキスト等】 なし			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業態度・実技にて評価をする			
【備 考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 福祉施設での現場経験			

科目名 精神保健福祉演習Ⅰ		科目時間総数 45時間（22.5限）	教員名 西山 直輝
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	演習の目的と意義について理解する	
2限 3時間 4時間	自己理解	自身の長所短所について客観的に把握する	
3限 5時間 6時間	〃	〃	
4限 7時間 8時間	〃	〃	
5限 9時間 10時間	他者理解	他者との価値観や考え方の違いについて理解する	
6限 11時間 12時間	〃	〃	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	〃	〃	
9限 17時間 18時間	ジェノグラム	ジェノグラムの目的と書き方を理解する	
10限 19時間 20時間	〃	〃	
11限 21時間 22時間	エコマップ	エコマップの目的と書き方について理解する	
12限 23時間 24時間	〃	〃	
13限 25時間 26時間	事例検討	事例を用いて尊厳の保持について理解する	
14限 27時間 28時間	〃	〃	
15限 29時間 30時間	〃	〃	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16限 ^{31時間} 32時間	〃	事例を用いてプライバシー保護について理解する
17限 ^{33時間} 34時間	〃	〃
18限 ^{35時間} 36時間	〃	〃
19限 ^{37時間} 38時間	〃	事例を用いて、専門職の倫理・価値について理解する
20限 ^{39時間} 40時間	〃	〃
21限 ^{41時間} 42時間	〃	〃
22限 ^{43時間} 44時間	〃	〃
22.5限 ^{45時間}	振り返り	授業全体のまとめを行う

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 精神保健福祉演習Ⅱ		教員名 西山 直輝	
科目時間数：15時間（7.5限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年：3年次	開講時期： ☒ 前期・後期 ☐ 集中	
【授業の目的・ねらい】 ソーシャルワーク実習を通して得られた課題等についてグループで話し合うことによって実習経験の共有化を行う。また、それらの課題の解決に向けて取り組むことを通して精神保健福祉士の援助方法を学ぶ。			
（当該科目が最も関連するDPに○） 【ディプロマポリシーとの関連】 ☒ 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 まず各自から実習報告をしてもらい、その後グループディスカッションにより実習の振り返りを行う。また、実習で感じた課題についてグループワークを行う。最後に実習報告書を作成する。			
【授業における達成課題】 実習を振り返り、実習報告書を作成すること。また、精神保健福祉士の価値・視点および援助技術について理解し、説明できるようになる。			
【使用教材・テキスト等】 なし			
【使用教室】 ☒ 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業態度・実技にて評価をする			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 福祉施設での現場経験			

[illegible]

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 精神保健福祉実習指導		教員名 西山 直輝・會津 真子	
科目時間数：60時間（30限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年：年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 ソーシャルワーク実習に臨むにあたり、専門職に必要な知識・倫理・技術を確認しつつ、利用者のストレングスに焦点を充てた支援を行うための視点を強化していく。また、精神保健福祉法改正や障害者差別解消法の制定、発達障害者の増加に併せ、その人を支援するための根拠となるニーズを的確に捉える視点を養う。			
（当該科目が最も関連するDPに○） 【ディプロマポリシーとの関連】 ☒ 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 入念な事前学習を通し、精神保健福祉士の業務の基礎的理解をはじめ、利用者のエンパワメントを促進できるような多角的な支援方法を理解する。各実習施設が展開している相談援助をはじめ、地域保健福祉活動に必要な社会資源を理解するために、精神保健福祉士として何ができるかを各自で検討し、効果的な精神保健福祉援助実習につなげていく。			
【授業における達成課題】 ・実習計画書の作成を通し、実習の意義や学ぶべきポイントを整理することができる。 ・実習前後のスーパービジョンを通し、実習に対する目標と振り返りを主体的に行い、専門職として必要な知識・倫理・技術を習得できる。			
【使用教材・テキスト等】 ソーシャルワーク実習・ソーシャルワーク実習指導 中央法規出版			
【使用教室】 ☒ 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業態度・提出物にて評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内容】 福祉施設での現場経験			

科目名 精神保健福祉実習指導		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 西山直輝・會津真子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	ガイダンス	精神保健福祉援助実習の位置づけや実習内容を理解する	
2限 3時間 4時間	実習の法的根拠	精神保健福祉士実習に必要な条件や配属先への理解を深める	
3限 5時間 6時間	実習事前学習	実習に必要な書類を確認し、各々の様式について根拠を持って説明できる	
4限 7時間 8時間	〃	実習配属先への理解を深め、目的意識や達成課題を明確にすることができる	
5限 9時間 10時間	〃	〃	
6限 11時間 12時間	〃	〃	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	実習記録の理解	叙述体・要約体・説明体の記入方法を理解し、客観的な記録の書き方を取得する	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	〃	〃	
11限 21時間 22時間	実習事前準備	実習先が求める精神保健福祉士の役割を理解する	
12限 23時間 24時間	〃	〃	
13限 25時間 26時間	〃	〃	
14限 27時間 28時間	実習を想定した演習	個別ケースに対し、支援が必要な視点や社会資源、支援の方向性を主体的に考案することができる	
15限 29時間 30時間	〃	〃	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16限 31時間 32時間	〃	〃
17限 33時間 34時間	〃	〃
18限 35時間 36時間	実習事前スーパービジョン	実習体験を担当教員・学生と共有し、実習に必要な知識や技術、倫理を再確認する
19限 37時間 38時間	〃	〃
20限 39時間 40時間	〃	〃
21限 41時間 42時間	実習事後スーパービジョン	実習の振り返りを通して、本実習への課題を意識する
22限 43時間 44時間	〃	〃
23限 45時間 46時間	〃	〃
24限 47時間 48時間	実習記録の振り返り	実習記録をもとに体験内容の再整理を図る
25限 49時間 50時間	〃	〃
26限 51時間 52時間	実習報告会準備	実習報告会準備
27限 53時間 54時間	〃	〃
28限 55時間 56時間	実習報告会	実習報告会
29限 57時間 58時間	〃	〃
30限 59時間 60時間	〃	〃

授業計画表

心理福祉学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 精神保健福祉実習		教員名 西山 直輝・會津 真子	
科目時間数 210 時間		授業の種類 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 必修・選択		配当学年 3 年次	開講時期 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 実習を通して、精神保健福祉援助並びに障がい者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解する。また、精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について習得する。さらに精神保健福祉士に求められる資質、技能、倫理について習得するとともに、関係機関や多職種との連携について実践的に理解する。 (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ① 自己の理解及び他者を理解する力を育成する ② 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する ③ あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 ①精神科医療機関での実習では、患者への個別支援を経験するとともに、様々な体験を通して相談援助や連携等について学ぶ。 ②障害福祉サービス事業所での実習では、実習先事業所の利用者・家族や関係者の生活実態や生活課題について学ぶとともに関係機関同士の連携等について学ぶ。 ③担当教員は、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況の把握に努めるとともに個別指導を十分に行う。 【授業における達成課題】 ①実習機関のサービス内容や地域における役割を学ぶとともに、利用者(患者)の抱える生活課題について説明できる。 ②実習機関の精神保健福祉士の業務と役割および精神保健福祉士援助における価値・視点・倫理等について説明できる。			
	使用教材		出版社
教員参考用	最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習〔精神専門〕		中央法規出版
【実習場所】 『厚生労働大臣が別に定めるもの』の要件に該当する施設			
【評価方法】 実習終了後、各施設の実習指導者の評価を参考にし、学校として総合的に評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 障害者施設での勤務経験			

科目名 精神保健福祉実習		科目時間総数 210時間	教員名 西山 直輝 會津 真子
時間数	テーマ	主な学習内容と到達目標	
90時間	A. 医療機関実習	1. 精神科病院または精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。 ア (入院時または)急性期の患者及び家族への相談援助 イ 退院または地域移行に向けた患者及び家族への相談援助 ウ 通院治療中の患者及び家族への相談援助 エ 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助	
120時間	B. 施設等実習	2. 地域の障害福祉サービス事業所等において実習を行う学生は、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。 ア 利用者やその関係者、施設・事業者・住民・ボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 イ 利用者理解やそのニーズ把握及び支援計画の作成 ウ 利用者やその関係者(家族等)との支援関係の形成 エ 利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価 オ 保健医療福祉に係る多職種連携などチームアプローチの実際 カ 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 キ 施設等組織の一員としての役割と責任への理解 ク 施設等の経営やサービスの管理運営の実際 ケ 当該実習先が地域社会の中で理解を得るための具体的な働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 介護福祉総合演習（初任者研修）		教員名 高橋勝・大崎幸司他	
科目時間数： 231時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： 必修 ・ 選択	配当学年： 年次	開講時期： 前期 ・ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 介護職員初任者研修修了を目的とする			
【ディプロマポリシーとの関連】 （当該科目が最も関連するDPに○） 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 「理念と基本」・「制度の理解」・「老化・認知症・障害の理解」・「技術と実践」の4分類を学ぶ			
【授業における達成課題】 ・介護職員初任者研修修了を目指し、支援時に実践できるようになる			
【使用教材・テキスト等】 改訂版介護職員初任者研修テキスト全4分冊 介護労働安定センター			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業態度・筆記試験にて評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 社会福祉士・介護福祉士・看護師として福祉現場で勤務			

科目名 介護福祉総合演習（初任者研修）		科目時間総数 231時間	教員名 高橋勝・大崎幸司他
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	職務の理解	介護職の役割・他職種との連携	
2限 3時間 4時間	〃	〃	
3限 5時間 6時間	〃	〃	
4限 7時間 8時間	〃	〃	
5限 9時間 10時間	〃	〃	
6限 11時間 12時間	〃	〃	
7限 13時間 14時間	介護における尊厳の保	倫理的配慮・利用者主体の支援	
8限 15時間 16時間	〃	〃	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	〃	〃	
11限 21時間 22時間	〃	〃	
12限 23時間 24時間	〃	〃	
13限 25時間 26時間	〃	〃	
14限 27時間 28時間	〃	〃	
15限 29時間 30時間	〃	〃	

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16限	31時間 32時間	介護の基本	介護の考え方・リスク管理・感染症対策
17限	33時間 34時間	〃	〃
18限	35時間 36時間	〃	〃
19限	37時間 38時間	〃	〃
20限	39時間 40時間	〃	〃
21限	41時間 42時間	〃	〃
22限	43時間 44時間	介護・福祉サービスの	保健医療・福祉サービス制度と関連機関
23限	45時間 46時間	〃	〃
24限	47時間 48時間	〃	〃
25限	49時間 50時間	〃	〃
26限	51時間 52時間	〃	〃
27限	53時間 54時間	介護におけるコミュニ	傾聴・言語・非言語コミュニケーション
28限	55時間 56時間	〃	〃
29限	57時間 58時間	〃	〃
30限	59時間 60時間	〃	〃

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
31限 61時間 62時間	〃	〃
32限 63時間 64時間	〃	〃
33限 65時間 66時間	老化の理解	身体的・心理的変化・老年期の生活
34限 67時間 68時間	〃	〃
35限 69時間 70時間	〃	〃
36限 71時間 72時間	〃	〃
37限 73時間 74時間	〃	〃
38限 75時間 76時間	〃	〃
39限 77時間 78時間	認知症の理解	認知症の症状・対応・家族支援
40限 79時間 80時間	〃	〃
41限 81時間 82時間	〃	〃
42限 83時間 84時間	〃	〃
43限 85時間 86時間	〃	〃
44限 87時間 88時間	〃	〃
45限 89時間 90時間	障害の理解	身体・知的・精神障害の特性と対応

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
46限	91時間	〃	〃
	92時間		
47限	93時間	〃	〃
	94時間		
48限	95時間	〃	〃
	96時間		
49限	97時間	こころとからだのしく	各種介護技術の理解と実践（移譲・移動支援・着脱支援など）
	98時間		
50限	99時間	〃	〃
	100時間		
51限	101時間	〃	〃
	102時間		
52限	103時間	〃	〃
	104時間		
53限	105時間	〃	〃
	106時間		
54限	107時間	〃	〃
	108時間		
55限	109時間	〃	〃
	110時間		
56限	111時間	〃	〃
	112時間		
57限	113時間	〃	〃
	114時間		
58限	115時間	〃	〃
	116時間		
59限	117時間	〃	〃
	118時間		
60限	119時間	〃	〃
	120時間		

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
61限	121時間	〃	〃
	122時間		
62限	123時間	〃	〃
	124時間		
63限	125時間	〃	〃
	126時間		
64限	127時間	〃	〃
	128時間		
65限	129時間	〃	〃
	130時間		
66限	131時間	〃	〃
	132時間		
67限	133時間	〃	〃
	134時間		
68限	135時間	〃	〃
	136時間		
69限	137時間	〃	〃
	138時間		
70限	139時間	〃	〃
	140時間		
71限	141時間	〃	〃
	142時間		
72限	143時間	〃	〃
	144時間		
73限	145時間	〃	〃
	146時間		
74限	147時間	〃	〃
	148時間		
75限	149時間	〃	〃
	150時間		

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
76限	151時間	〃	〃
	152時間		
77限	153時間	〃	〃
	154時間		
78限	155時間	〃	〃
	156時間		
79限	157時間	〃	〃
	158時間		
80限	159時間	〃	〃
	160時間		
81限	161時間	〃	〃
	162時間		
82限	163時間	〃	〃
	164時間		
83限	165時間	〃	〃
	166時間		
84限	167時間	〃	〃
	168時間		
85限	169時間	〃	〃
	170時間		
86限	171時間	〃	〃
	172時間		
87限	173時間	〃	〃
	174時間		
88限	175時間	〃	〃
	176時間		
89限	177時間	〃	〃
	178時間		
90限	179時間	〃	〃
	180時間		

限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
91限	181時間	〃	〃
	182時間		
92限	183時間	〃	〃
	184時間		
93限	185時間	〃	〃
	186時間		
94限	187時間	〃	〃
	188時間		
95限	189時間	〃	〃
	190時間		
96限	191時間	〃	〃
	192時間		
97限	193時間	〃	〃
	194時間		
98限	195時間	〃	〃
	196時間		
99限	197時間	〃	〃
	198時間		
100限	199時間	〃	〃
	200時間		
101限	201時間	〃	〃
	202時間		
102限	203時間	〃	〃
	204時間		
103限	205時間	〃	〃
	206時間		
104限	207時間	〃	〃
	208時間		
105限	209時間	〃	〃
	210時間		

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
106限 211時間 212時間	//	//
107限 213時間 214時間	//	//
108限 215時間 216時間	//	//
109限 217時間 218時間	//	//
110限 219時間 220時間	//	//
111限 221時間 222時間	//	//
112限 223時間 224時間	//	//
113限 225時間 226時間	//	//
114限 227時間 228時間	まとめ	これまでのまとめに取り組む
115限 229時間 230時間	//	//
115, 5限 231時間	//	//

授業計画表

心理福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 レポート実践研究（国語表現）		教員名 山田 健太郎	
科目時間数： 30時間 (15限)		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別：	☒ 必修 ・ 選択	配当学年： 1 年次	開講時期： ☒ 前期 ・ 後期 ・ 集中
【授業の目的・ねらい】 記録・レポート等、論理的文章を書くための基礎的な事項を学び、事柄をわかりやすく、正確かつ的確に伝える記述する記述力の習得を目標とする。記録文における文章全体の構成、また細部における客観的、具体的記述力を身に付ける。			
【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する ☒ 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 本授業では、論理的文章の記述力を高めることを目標とする。自己の表現力を確認し、基礎的事項を学び、文全体の構成、事実と意見を書き分ける等、わかりやすく論理的文章の表現ができる。			
【授業における達成課題】 当該科目について、支援に関わる者として必要な記述のしかたが実践できる。			
【使用教材・テキスト等】 書き込み式日本語表現ノート（三弥井出版）・日本語表現法ワークブック（三省堂） 日本語表現練習帳（すばる舎リンケージ）			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 1. ☒ 筆記試験 2. レポート ☒ 3. 出席 ☒ 4. 授業態度			
【備考】 評価について：筆記試験、授業態度等を勘案し、A(80点以上)、B(70～79点)、C(60～69点)、D(59点以下：不合格)で評価します			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ ☒ 無			
【内 容】			

科目名 レポート実践研究		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 山田 健太郎
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1	1 授業の概要	記述の基礎、表記、書き言葉の基本が理解できる	
	2 「理解」する力	図形を文章で説明し、その説明文を理解、復元できる	
2	3 「説明」する力	地図を文章で説明し、その説明文を理解、復元できる	
	4 文の組み立て	主語・述語、修飾関係を理解し、表現できる	
3	5 話し言葉と書き言葉	話し言葉と書き言葉、表記の基本を把握する	
	6 文のつなぎ方	論理的文章の展開は、適切な接続によることが理解できる	
4	7 要約力トレーニング①	前回までの学習を要約により実践できる	
	8 視点	客観的文章記述のため、事柄に視点を置いた表現ができる	
5	10 要約力トレーニング②	正確な読解と分かりやすい表現ができる	
	11 意味の限定	修飾の仕方による曖昧な表現を正せる	
6	12 要約力トレーニング③	過不足なく適切な説明をし、要約できる	
	13 言葉の順序	修飾語、語順による意味の違いが理解できる	
7	14 要約力トレーニング④	要約により、論理的な説明ができる	
	15 定義・分類の表現	定義・分類の表現が理解でき、実践できる	
8	16 意見文への道①	事実と意見を書き分けることができる	
	17 比較・対比の表現	比較、対比による共通点と相違点の表現ができる	
9	18 意見文への道②	要約と意見を書き分ける	
	19 列挙・順序・因果関係	出来事の経過・因果関係が説明できる	
10	20 意見文への道③	意見を論理的に表現できる	
	21 引用	レポート・論文に用いられる引用の形式を知り、実践できる	
11	22 意見文を書く①	課題に対する自分の意見を説明できる	
	23 敬語	職場での人間関係を円滑にする敬語表現ができる	
12	24 意見文を書く②	事実・意見・理由説明が適切にできる	
	25 注意すべき敬語表現	前回の学習に加え、より実践的な敬語表現ができる	
13	26 論理トレーニング①	課題に対する意見を述べるにあたり、論理的に構成ができる	
	27 記録文を書く	実習記録など、事実の記述が適正に表現できる	
14	28 論理トレーニング②	課題について意見・考察に加え、引用による論証ができる	
	29 レポートの書き方①	全体の構成を意識して、記述に必要な事柄を箇条書きに出来る	
15	30 レポートの書き方②	前回の学習を踏まえ、課題について記述できる	
	31 小論文の書き方	課題を自ら設定し、記述できる	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 聴覚障害福祉論（手話）		教員名 我妻信子									
科目時間数：30時間（15限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習									
必修・選択 の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年：1年次	開講時期： ☒ 前期・後期 ☐ 集中									
【授業の目的・ねらい】 聴覚障害についての基本的な理解及び基本的な手話の知識・技術を習得することにより、聴覚障がい者を取り巻く社会的な環境を学ぶ。											
（当該科目が最も関連するDPに○） 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する ☒ 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する											
【授業全体の内容の概要】 聴覚障害者の理解、手話の基礎知識について理解する。											
【授業における達成課題】 当該科目について必要な知識と技術を習得する。											
【使用教材・テキスト等】 手話を学ぼう 手話で話そう 全国手話研修センター											
【使用教室】 <table border="0"> <tr> <td>☒ 1. HR</td> <td>2. 介護実習室</td> <td>3. 家政実習室</td> <td>4. 視聴覚室</td> </tr> <tr> <td>5. PC実習室</td> <td>6. 接遇実習室</td> <td colspan="2">7. その他（ ）</td> </tr> </table>				☒ 1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室	5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他（ ）	
☒ 1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室								
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他（ ）									
【評価方法】 出席率・授業態度・実技・筆記試験にて評価する											
【備考】											
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ ☐ 無											
【内 容】 労働行政機関における相談員											

科目名 聴覚障害福祉論（手話）		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 我妻 信子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	授業の位置づけの理解	
2限 3時間 4時間	聴覚障害者のコミュニケーション	手話の基礎知識、7つのコミュニケーション方法（グループ討議）	
3限 5時間 6時間	〃	あいさつ単語	
4限 7時間 8時間	〃	名前の紹介・指文字	
5限 9時間 10時間	〃	聴覚障害者の生活	
6限 11時間 12時間	〃	家族紹介	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	〃	家族紹介（グループ発表）	
9限 17時間 18時間	〃	当事者から話を聞く	
10限 19時間 20時間	〃	数字（誕生日・時間・お金）	
11限 21時間 22時間	〃	趣味・季節	
12限 23時間 24時間	〃	趣味・自己紹介の練習	
13限 25時間 26時間	〃	仕事	
14限 27時間 28時間	〃	あなたの家を紹介しましょう	
15限 29時間 30時間	〃	作文作成	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 聴覚障害福祉論（手話）		教員名 我妻 信子	
科目時間数：30時間（15限）		授業の種類：講義・演習・実習	
必修・選択 の別：必修・選択	配当学年：2 年次	開講時期：前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 1 年次に学習した基本的な手話を用い、相談援助場面における聴覚障害者への対応を想定したロールプレイを行うことで日本語とは異なる言語を有する障害者への対応方法を学ぶ。また、手話を社会・文化的視点から捉えることで、ろう文化の特徴や健聴者社会で生きる難聴者の特徴など、聴覚障害教育・福祉の歴史を概観しながら理解を深めていく。			
（当該科目が最も関連するDPに○） 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 1 6 世紀に手話が社会的に出現したといわれているが、当時も現在も「当事者から学ぶ」ことに相違はない。積極的に聴覚障害者と関わり、価値観や生活観に触れ、聴覚障害者の文化に積極的に交流できるようにしたい。			
【授業における達成課題】 ・ 相談支援に必要な手話コミュニケーションの技術を習得する ・ 聴覚障害者の言語・文化を理解できる			
【使用教材・テキスト等】 手話を学ぼう 手話で話そう 全国手話研修センター			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業態度・実技・筆記試験にて評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 労働行政機関における相談員			

科目名 聴覚障害福祉論（手話）		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 我妻 信子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	応用手話実践	相談援助場面を想定したロールプレイ	
2限 3時間 4時間	〃	〃	
3限 5時間 6時間	〃	〃	
4限 7時間 8時間	〃	〃	
5限 9時間 10時間	〃	〃	
6限 11時間 12時間	〃	〃	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	手話の歴史	16世紀のフランス法誕生から手話口話論争を概観する	
9限 17時間 18時間	手話の排除	ベルの論文を通し、口話が優位になった時代において先人たちはどの	
10限 19時間 20時間	聴覚障害者と差別	蛇の目寿司事件、京都ろう学校授業拒否事件を通し、聴覚障害者の人	
11限 21時間 22時間	ろう文化	ろう文化宣言を読み、言語的マイノリティとしてのろう者の位置づけ	
12限 23時間 24時間	難聴者の世界	聞こえづらさの中で生きる難聴者の心理的社会的課題を理解し、聞こ	
13限 25時間 26時間	CODAの世界	聞こえない親を持つ聞こえる子が抱く葛藤や心理的課題を理解する	
14限 27時間 28時間	まとめ	これまでの振り返りを行う	
15限 29時間 30時間	〃	〃	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 視覚障害福祉論（点字）		教員名 横 澤 忠	
科目時間数： 30時間（15限）		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別：	必修 選択	配当学年： 1 年次	開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 視覚障害者の情報収集やコミュニケーション方法の文字である「点字」の組立て等を理解し、その読解力等を身につけるとともに、視覚障害者への支援手段等に触れる学習とする。			
（当該科目が最も関連するDPに○） 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 点字の組立て／点字の歴史／点字の表記と分かち書き 点字を書く器具&点字関係資料／点字を読む／点字を書く 点字で遊ぶ／（視覚障害者用サイン探索と施設見学）／当事者の話			
【授業における達成課題】 視覚障害者の使用文字である点字に興味を持つ 点字の組立てや書き方の基本ルールを習得し、点字を書く 身の周りにある点字を見つけ、内容を知る（＝点字を読む） （視聴覚障がい者情報センターの見学等を体験する）			
【使用教材・テキスト等】 初めての点訳 全国視覚障害者情報提供施設協会			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業態度・提出物・期末試験にて評価する			
【備 考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 点訳奉仕活動（継続中）&点字指導員としての奉仕員養成実務経験			

科目名 視覚障害福祉論（点字）		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 横 澤 忠
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
	点字の読み書き 関係機関と当事者	視覚障害者の使用文字である点字の読み書き等の習得 視覚障害者用サイン探索、関係機関と当事者を知る	
1 限 (4月15日)	点字の組み立て	自分の周りにある点字の存在を認識する 点字の五十音等を学び、簡単な点字を読むことができる 到達目標：点字の組立てを理解し、点字を読む（初級①）	
2 限 (4月22日)	点字の歴史 点字の表記①	世界の点字と日本の点字の歴史について学ぶ 点字のかなづかいについて学ぶ 到達目標：点字のかなづかいを理解し、点字を読む（初級②）	
3 限 (5月13日)	点字の表記②	点字の数字・アルファベットについて学ぶ 点字の印刷物を読んで、問いに答えることができる 到達目標：点字の表記を理解し、点字を読む（中級）	
4 限 (5月20日)	点字の分かち書き 点字を書く器具	点字の分かち書き（複合語・固有名詞）について学ぶ 点字の器具を知り、簡単な点字を書くことができる ⇒提出物① 到達目標：分かち書きを理解し、点字を書く	
5 限 (5月27日)	（視覚障害者用サイン） ⇒実施不可時は個別探索方式	街なかにある視覚障害者のためのサインを確認する（校外学習） 視覚障害者のためのサインの種別等を認識する 到達目標：どのようなサインがどこにあるか記録する	
6 限 (6月 3日)	発見サインまとめ	街なかのサイン探索のまとめを作成することができる どのようなサインがどこにあったかを発表することができる 到達目標：調査結果をまとめ、発表する ⇒提出物②	
7 限 (6月10日)	点字の記号類 点字を書く（短文）	点字の記号類と書き方の実際について学ぶ 器具を使用して、点字の短文を書くことができる ⇒提出物③ 到達目標：点字のルールを理解し、短文を書く（初級）	
8 限 (6月17日)	点字印刷物 日本語はむずかしい	点字印刷物に触れ、印刷方法の違いを学ぶ 漢字のいろいろな読み方について学ぶ 到達目標：漢字のいろいろな読み方について理解する	
9 限 (6月24日)	手でみる博物館 長文点訳に挑戦	視覚障害者のための手でみる博物館について学ぶ 器具を使用して、点字の長文を書くことができる ⇒提出物④ 到達目標：正確な点字を書きながら、分かち書きを習熟する	
10 限 (7月 1日)	点字関係資料 点字で考える	点字習得用の各種関係資料について学ぶ 点字を扱った教材で、点字の遊びなどを体験する 到達目標：点字を使った教材を使用し、点字への興味を増す	
11 限 (7月 8日)	視覚障害者の状況 視覚障害者の福祉制度	視覚障害者の状況や日常生活について学ぶ 視覚障害者の福祉制度の概論と視覚障害者への接し方について学ぶ 到達目標：視覚障害者への接し方等を理解する	

12 限 (7月15日)	(関連施設の見学) ⇒実施不可時は別内容	視聴覚障がい者情報センターについて学ぶ（校外学習） 点字関係資料の宝庫（各種辞書・点訳百科事典）を見聞する 到達目標：視覚障害者への情報提供について理解する
13 限 (7月22日)	視覚障害者の話	視覚障害当事者から読書・生活等の話を聞き、知識を深める 視覚障害者の歩行介助について、実体験として学ぶ 到達目標：視覚障害者の読書環境や日常生活等を理解する
14 限 (7月29日)	パソコン点訳体験	視覚障害者がパソコンを使用する方法について学ぶ パソコン点訳の初歩（6点入力等）について学ぶ 到達目標：パソコン点訳の初歩を体験する
15 限 (8月 5日)	点字を書く（長文） 確認テスト	器具を使用して、点字の長文（自由課題）を書くことができる 点字の読みと点字に関する小レポートを作成することができる ⇒ 提出物⑤ 到達目標：点字のルールを理解し、長文を書く（中級）

※ 5限の校外学習を実施できない場合は、個別探索方式とする。

※ 12限の校外学習を実施できない場合は、別内容を学習する。

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 スクールソーシャルワーク論		教員名 會津 真子									
科目時間数： 30時間 (15 限)		授業の種類： 講義・演習・実習									
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 2年次	開講時期： 前期・後期・集中									
【授業の目的・ねらい】 スクールソーシャルワークの意義、スクールソーシャルワーカーの役割を学ぶことを目的とする。 また、学校を取り巻く地域を含めたソーシャルワークの展開を学ぶことも目的とする。 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自分自身の価値観を広げ、他者と協働する力を身につける 2. 人と人とをつなぎながら良いコミュニティを生み出していく力を身につける 3. 多職種連携、地域連携を図りながら、様々な地域ニーズに気づくことのできる幅広い視野を育む 【授業全体の内容の概要】 事例の検討なども行いながら、教育機関とスクールソーシャルワーカーとの連携のもとに児童生徒が健やかな心身の発達を目指す関わりを概観していく。 【授業における達成課題】 教育機関の組織を理解し、困りごとを抱える児童生徒のニーズを解決するためのソーシャルワーク課程を理解する。											
【使用教材・テキスト等】 参考資料：岩手県教育委員会「スクールソーシャルワーカー活用の手引き」											
【使用教室】 <table border="0"> <tr> <td>1. HR</td> <td>2. 介護実習室</td> <td>3. 家政実習室</td> <td>4. 視聴覚室</td> </tr> <tr> <td>5. PC実習室</td> <td>6. 接遇実習室</td> <td colspan="2">7. その他 ()</td> </tr> </table>				1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室	5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()	
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室								
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他 ()									
【評価方法】 レポート・出席率・授業態度等にて評価											
【備考】											
【担当教員の実務経験の有無】 有・無 スクールカウンセラーとしての 実務経験											

科目名 スクールソーシャルワーク論		科目時間総数 30 時間 (15 限)	教員名 會津 真子
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
1 限	1 時間 2 時間	オリエンテーション	授業の位置づけについて理解する
2 限	3 時間 4 時間	学校組織の理解	校務分掌を理解し、教育現場における教職員の役割を知る
3 限	5 時間 6 時間	教育機関の問題	教育機関が抱える問題を整理し、教職員が学校現場において感じるプレッシャーを理解する
4 限	7 時間 8 時間	教育基本法	教育基本法の内容を理解する
5 限	9 時間 10 時間	学習指導要領、生徒指導要領	学習指導要領の内容を理解し、教職員が身に付ける教科指導の知識や生徒対応の基準を理解する
6 限	11 時間 12 時間	不登校	不登校の現状とメカニズムを理解し、不登校状態の児童に対するアセスメントの視点を理解する
7 限	13 時間 14 時間	発達障害	発達障害の特性から生じる学習上の困りごとを整理し、児童に適した教育を提供するためのアセスメント方法を理解する
8 限	15 時間 16 時間	機能不全家族	DV・児童虐待・貧困家庭等、正常に機能しない家族に対し、包括的なアセスメントのもとに支援方法を考えることができる
9 限	17 時間 18 時間	モンスターペアレント	理不尽な要求をする親に対し、教育機関だけでなく司法機関や児童相談所との連携のもとに解決する方法を理解する
10 限	19 時間 20 時間	SSWer活用する方法	社会福祉士会や精神保健福祉士会の組織を理解し、SSWを適切に活用するための方法を理解する
11 限	21 時間 22 時間	事例検討（発達障害）	発達障害を有する児童の事例をもとに、ケースワーク的対応及びアセスメント技法を理解する
12 限	23 時間 24 時間	事例検討（いじめ）	いじめの事例に対し、その構造を理解するとともにいじめを予防するための取り組みを理解する
13 限	25 時間 26 時間	SSWerの啓発活動	支援実践だけではなく、SSWの理解普及啓発活動の重要性を理解する
14 限	27 時間 28 時間	SSWer実践事例（DVD視聴）	SSWの教育現場における支援の実際を視聴覚教材を通して理解する
15 限	29 時間 30 時間	まとめ レポート作成	授業内容の到達度合いをレポートにまとめる

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 リハビリテーション論		教員名 西山直輝	
科目時間数：30時間（15限）		授業の種類：講義・演習・実習	
必修・選択の別： 必修	配当学年：2年次	開講時期：前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 強度行動障害や目に見えない障害の理解と対象者への支援方法を学び、個人と取り巻く環境へ視点を向けることの意味を理解する。 幼少期から児童期で成長する運動神経の発達方法について学び実践する。			
（当該科目が最も関連するDPに○） 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. 〇あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 障害支援と発達段階での運動支援の2部構成となっている。障害支援においては環境に目を向けることの重要性を学び、運動支援では神経の発達で成長を高められる仕組みについて学ぶ。			
【授業における達成課題】 二次障害が生じる背景を理解し、支援方法を学んで実践できるようになる。 児童期までの運動神経の発達と方法について学び実践できるようになる。			
【使用教材・テキスト等】 なし			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業態度・レポートにて評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 障害支援施設での勤務経験			

科目名 リハビリテーション論		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 西山直輝
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	強度行動障害の支援	強度行動障害の特性について理解する	
2限 3時間 4時間	〃	〃	
3限 5時間 6時間	〃	強度行動障害が起こる背景について理解する	
4限 7時間 8時間	〃	強度行動障害の支援方法について理解する	
5限 9時間 10時間	〃	〃	
6限 11時間 12時間	障害当事者の理解	ASDの理解と特性について事例を用いて検討する	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	〃	認知症者の見えている世界について理解する	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	〃	グレーゾーンと言われている方の生きにくさについて理解する	
11限 21時間 22時間	幼少期の運動機能	身体の成長について理解する	
12限 23時間 24時間	〃	運動機能について理解する	
13限 25時間 26時間	〃	運動神経の発達運動を実践する	
14限 27時間 28時間	〃	〃	
15限 29時間 30時間	まとめ	全体の振り返りを行う	

授業計画表

心理福祉 学科

盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 障害学概論		教員名 竹内 愛美	
科目時間数： 60 時間（ 30 限）		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別：	必修・選択	配当学年： 2 年次	開講時期： 前期 後期 集中
【授業の目的・ねらい】 障害分野の歴史・法整備に至る背景等を通じ、障害を抱えている方の生活の現状を理解できるようになる。今日の日本国内外の障害に関わる事象から、障壁となっている問題について考え考察する。 心理福祉学科ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を身につける。 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を身につける。 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を持つ。 【授業全体の内容の概要】 多様化・複雑化している今日の社会状況下において、福祉専門職としての倫理や概念、基盤となる考え方の習得を目指す。 【授業における達成課題】 - 福祉専門職の役割や意義を学び、説明ができる。 - ソーシャルワークの理念について理解し、実践できる。			
	使用教材	出版社	
	障害者福祉	中央法規出版	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）			
【備 考】 レポート・試験・出席率・授業態度等にて評価			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 福祉施設での実務経験			

科目名		科目時間総数	教員名
障害学概論		60時間 (30 限)	竹内 愛美
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 限 2時間	障害の理解	障害の特性や症状について理解する	
2 限 4時間			
3 限 6時間	障害の理解	障害の特性や症状について理解する	
4 限 8時間			
5 限 10時間	障害の理解	障害の特性や症状について理解する	
6 限 12時間			
7 限 14時間	障害者総合支援法について	障害者総合支援法が制定されるまでの背景を学ぶ	
8 限 16時間			
9 限 18時間	障害者総合支援法について	障害者総合支援法について理解する	
10 限 20時間			
11 限 22時間	障害者総合支援法について	障害者総合支援法について理解する	
12 限 24時間			
13 限 26時間	障害認定について	障害認定の流れや実際に調査する内容について学ぶ	
14 限 28時間			
15 限 30時間	障害認定について	障害認定の流れや実際に調査する内容について学ぶ	
16 限 32時間			
17 限 34時間	就労支援について	就労施設での作業や一般企業へ採用されるまでの支援過程を学ぶ	
18 限 36時間			
19 限 38時間	LGBTQ	性的マイノリティの方の生活や苦悩、法案内容について考察する	
20 限 40時間			
21 限 42時間	LGBTQ	性的マイノリティの方の生活や苦悩、法案内容について考察する	
22 限 44時間			
23 限 46時間	障がい者の権利擁護	障がい者の性について考える	
24 限 48時間			
25 限 50時間	障がい者の権利擁護	障がい者の結婚・出産等について考える	
26 限 52時間			
27 限 54時間	まとめ	授業の振り返りとまとめを行う	
28 限 56時間			
29 限 58時間	まとめ	授業の振り返りとまとめを行う	
30 限 60時間			

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 レクリエーションⅠ（コミュニケーション実技）		教員名 佐々木 純子									
科目時間数：30時間（15限）		授業の種類：講義・演習・実習									
必修・選択 の別：必修・選択	担当学年：1年	開講時期：前期・後期・集中									
【授業の目的・ねらい】 援助的コミュニケーションについて理解するとともに、多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。 （当該科目が最も関連するDPに○） 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する											
【授業全体の内容の概要】 コミュニケーションの基本を理解したうえで、具体的なコミュニケーション技法の習得を目指す。 【授業における達成課題】 コミュニケーションの意義・目的について理解し、対人関係づくりに生かす。様々なコミュニケーション技法を理解し、チームにおけるコミュニケーションの重要性を理解する。											
	使用教材	出版社									
	その都度指示										
【使用教室】 <table border="0"> <tr> <td>1. HR</td> <td>2. 介護実習室</td> <td>3. 家政実習室</td> <td>4. 視聴覚室</td> </tr> <tr> <td>5. PC実習室</td> <td>6. 接遇実習室</td> <td colspan="2">7. その他（ ）</td> </tr> </table>				1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室	5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他（ ）	
1. HR	2. 介護実習室	3. 家政実習室	4. 視聴覚室								
5. PC実習室	6. 接遇実習室	7. その他（ ）									
【評価方法】 <table border="0"> <tr> <td>1. 筆記試験</td> <td>2. レポート</td> <td>3. 出席</td> <td>4. 授業態度</td> </tr> <tr> <td>5. 実技試験</td> <td colspan="3">6. その他（ ）</td> </tr> </table>				1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度	5. 実技試験	6. その他（ ）		
1. 筆記試験	2. レポート	3. 出席	4. 授業態度								
5. 実技試験	6. その他（ ）										
【備考】 評価について：レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。											
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無											
【内容】											

科目名 レクリエーションⅠ		科目時限総数 30時間（15限）	教員名 佐々木 純子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	オリエンテーション	自己紹介	
2 限	ラポールづくり	信頼関係を学ぶためのコミュニケーションについて理解する	
3 限	対象化ゲーム	対象化ゲームを通し、自身の気持ちを相手に適切に伝えることができる	
4 限	自己理解・他者理解	ジョハリの窓を通し、盲点部分に気づくことができる	
5 限	対象者の理解	障害を持つ人が参加しやすいレクリエーション内容を考えることができる	
6 限	〃	高齢者が参加しやすいレクリエーション内容を考えることができる	
7 限	〃	子供が参加しやすいレクリエーションを考えることができる	
8 限	昔の遊び	レクリエーションは時代とともに変化し続けていることを理解する	
9 限	コーチング技法	相手のモチベーションを向上させる声掛けや関わり技法を理解する	
10 限	クラスレクリエーション	交流会におけるレクリエーションの企画を考案する	
11 限	〃	〃	
12 限	レクリエーション実施	交流会を実施し、レクリエーションを効果的に展開できる	
13 限	〃	〃	
14 限	〃	〃	
15 限	効果測定	交流会の効果を測定し、次回への課題を検討することができる	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 レクリエーションⅡ（レクリエーション実技）		教員名 西山直輝・會津真子	
科目時間数： 30時間（15限）		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： 必修	配当学年： 2 年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 対象者に応じて楽しんで活動できる内容について学習する。実際に企画立案・準備・実施・振り返りを行う。			
【ディプロマポリシーとの関連】 （当該科目が最も関連するDPに○） 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 能力や活動内容に応じて、協働しながら企画の立案・実践していく。			
【授業における達成課題】 活動企画の目的・重要性について理解し、対人関係づくりに生かす。様々な活動を理解し、対象者に応じた活動内容と連携の方法について理解できるようになる。			
【使用教材・テキスト等】 なし			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業態度・参加意欲にて評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】			

科目名 レクリエーションⅡ（レクリエーション実技）		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 西山直輝・會津真子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	新入生レクリエーション	新入生と学年間の親睦を深めるため、企画立案を行う	
2限 3時間 4時間	〃	〃	
3限 5時間 6時間	〃	企画を新入生に説明・準備	
4限 7時間 8時間	〃	〃	
5限 9時間 10時間	〃	〃	
6限 11時間 12時間	〃	レクリエーションの実施	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	〃	〃	
9限 17時間 18時間	障害者のレクリエーション	障害者のレクリエーションとは	
10限 19時間 20時間	〃	レクリエーションの企画	
11限 21時間 22時間	〃	〃	
12限 23時間 24時間	〃	〃	
13限 25時間 26時間	〃	〃	
14限 27時間 28時間	〃	〃	
15限 29時間 30時間	〃	〃	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 精神保健福祉演習Ⅲ		教員名 西山直輝	
科目時間数：		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年： 年次	開講時期： ☒ 前期 ☐ 後期 ☐ 集中	
【授業の目的・ねらい】 ソーシャルワーク演習・精神保健福祉演習Ⅰで学んだことを活用し、様々な事例を用いて支援方法や多職種連携、ソーシャルワーカーの役割について理解する			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ☒ 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 事例を用いて、ソーシャルワーカーとしての役割、価値を理解する。当事者支援において必要となる視点を意識しながら検討する。			
【授業における達成課題】 ・ ソーシャルワーカーの役割、価値について理解できるようになる ・ 多職種の中でソーシャルワーカーの役割を説明できるようになる			
【使用教材・テキスト等】 ソーシャルワーク演習（精神専門） 中央法規出版			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業意欲・態度にて評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 障害者支援施設での勤務経験			

科目名 精神保健福祉演習Ⅲ		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 西山直輝
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	本講義の目的・意義を理解する	
2限 3時間 4時間	事例検討	医療機関を想定した事例について検討する	
3限 5時間 6時間	〃	〃	
4限 7時間 8時間	〃	〃	
5限 9時間 10時間	〃	〃	
6限 11時間 12時間	〃	〃	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	〃	〃	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	〃	〃	
11限 21時間 22時間	〃	障害者施設を想定した事例について検討する	
12限 23時間 24時間	〃	〃	
13限 25時間 26時間	〃	〃	
14限 27時間 28時間	〃	〃	
15限 29時間 30時間	〃	〃	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16限 31時間 32時間	〃	〃
17限 33時間 34時間	〃	〃
18限 35時間 36時間	〃	〃
19限 37時間 38時間	〃	〃
20限 39時間 40時間	〃	〃
21限 41時間 42時間	〃	多職種連携について事例を用いて理解する
22限 43時間 44時間	〃	〃
23限 45時間 46時間	〃	〃
24限 47時間 48時間	〃	行政機関におけるソーシャルワーカーの役割を検討する
25限 49時間 50時間	〃	〃
26限 51時間 52時間	〃	〃
27限 53時間 54時間	〃	災害時のソーシャルワーカーの役割について検討する
28限 55時間 56時間	〃	〃
29限 57時間 58時間	〃	〃
30限 59時間 60時間	まとめ	授業全体の振り返りを行う

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 卒業論文		教員名 山田健太郎	
科目時間数： 50限 (100時間)		授業の種類 ： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年 4年次	開講時期 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 精神に関する研究テーマを設定し、論文を作成することを目的とする 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する 【授業全体の内容の概要】 研究テーマの設定、既往文献の調査、仮説の設定、研究方法の設定を行った上で調査研究を開始する。調査研究を踏まえ論文の構成を決め、執筆を行い、完成を目指す。 【授業における達成課題】 精神に関する課題を自分なりの視点で捉え、仮説を検証することを通じて論理的な思考を養う			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 (プレゼンテーション)			
【備考】 評価について：出席率、授業態度を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内 容】			

科目名 卒業論文		科目時間総数 50限 100時間	教員名 山田健太郎
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限 1時間 2時間	イントロダクション	卒業論文の進め方	
		〃	
2限 3時間 4時間	テーマ設定	テーマ設定するために概要の作成 ※担当教員と相談しながら決 (目的・背景・方法論・参考文献・想定する結論)	
3限 5時間 6時間		〃	
		〃	
4限 7時間 8時間		〃	
		〃	
5限 9時間 10時間		〃	
		〃	
6限 11時間 12時間		〃	
		〃	
7限 13時間 14時間		〃	
		〃	
8限 15時間 16時間		〃	
		〃	
9限 17時間 18時間		〃	
		〃	
10限 19時間 20時間		〃	
		〃	
11限 21時間 22時間		〃	
		〃	
12限 23時間 24時間		〃	
		〃	
13限 25時間 26時間		〃	
		〃	
14限 27時間 28時間		〃	
		〃	
15限 29時間 30時間		〃	
		〃	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
16限 ^{31時間} 32時間		// //
17限 ^{33時間} 34時間		// //
18限 ^{35時間} 36時間		// //
19限 ^{37時間} 38時間		// //
20限 ^{39時間} 40時間		// //
21限 ^{41時間} 42時間	卒業論文作成	概要に基づき論文を作成 //
22限 ^{43時間} 44時間		// //
23限 ^{45時間} 46時間		// //
24限 ^{47時間} 48時間		// //
25限 ^{49時間} 50時間		// //
26限 ^{51時間} 52時間		// //
27限 ^{53時間} 54時間		// //
28限 ^{55時間} 56時間		// //
29限 ^{57時間} 58時間		// //
30限 ^{59時間} 60時間		// //

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
31限 ^{61時間} 62時間	中間発表	進捗度合の確認および方向性のずれを修正する 〃
32限 ^{63時間} 64時間	卒業論文作成	概要および中間発表に基づき、論文を作成・修正する 〃
33限 ^{65時間} 66時間		〃 〃
34限 ^{67時間} 68時間		〃 〃
35限 ^{69時間} 70時間		〃 〃
36限 ^{71時間} 72時間		〃 〃
37限 ^{73時間} 74時間		〃 〃
38限 ^{75時間} 76時間		〃 〃
39限 ^{77時間} 78時間		〃 〃
40限 ^{79時間} 80時間		〃 〃
41限 ^{81時間} 82時間		〃 〃
42限 ^{83時間} 84時間		〃 〃
43限 ^{85時間} 86時間		〃 〃
44限 ^{87時間} 88時間		〃 〃
45限 ^{89時間} 90時間		〃 〃

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標
46限 ^{91時間} 92時間		// //
47限 ^{93時間} 94時間		// //
48限 ^{95時間} 96時間		// //
49限 ^{97時間} 98時間	卒業論文発表会	作成した論文の概要をスライドまとめ、成果を発表する //
50限 ^{99時間} 100時間		// //

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 精神保健福祉士受験指導		教員名 西山 直輝	
科目時間数：60時間（30限）		授業の種類：講義・演習・実習	
必修・選択の別： 必修	配当学年：年次	開講時期：前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 精神保健福祉士国家試験合格に向けて、各科目の復習と出題傾向について学ぶ			
【ディプロマポリシーとの関連】 （当該科目が最も関連するDPに○） 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 2月の国家試験に向けて試験科目の復習と、近年の出題傾向を把握しする。個人の得意科目不得意科目を理解し、合格に向けて試験勉強に取り組む。			
【授業における達成課題】 ・ 出題傾向が理解できるようになる ・ 各科目で頻出されている制度、用語を把握できるようになる			
【使用教材・テキスト等】 過去問解説集 中央法規出版 国試ナビ 中央法規出版			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業態度にて評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 社会福祉士・精神保健福祉士取得者			

科目名 精神保健福祉士受験指導		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 西山直輝
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	試験科目の復習 出題傾向の把握	医学概論	
2限 3時間 4時間	〃	〃	
3限 5時間 6時間	〃	心理学と心理的支援	
4限 7時間 8時間	〃	〃	
5限 9時間 10時間	〃	社会学と社会システム	
6限 11時間 12時間	〃	〃	
7限 13時間 14時間	〃	社会福祉の原理と政策	
8限 15時間 16時間	〃	〃	
9限 17時間 18時間	〃	社会保障	
10限 19時間 20時間	〃	〃	
11限 21時間 22時間	〃	権利擁護を支える法制度	
12限 23時間 24時間	〃	〃	
13限 25時間 26時間	〃	地域福祉と包括支援体制	
14限 27時間 28時間	〃	〃	
15限 29時間 30時間	〃	刑事司法と福祉	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16限 31時間 32時間	〃	ソーシャルワークの基盤と専門職
17限 33時間 34時間	〃	〃
18限 35時間 36時間	〃	ソーシャルワークの理論と方法
19限 37時間 38時間	〃	〃
20限 39時間 40時間	〃	社会福祉調査の基礎
21限 41時間 42時間	〃	精神医学と精神医療
22限 43時間 44時間	〃	現代の精神保健の課題と支援
23限 45時間 46時間	〃	精神保健福祉の原理
24限 47時間 48時間	〃	精神障害リハビリテーション論
25限 49時間 50時間	〃	精神保健福祉制度論
26限 51時間 52時間	全体のまとめ	全科目の復習をし、最終確認を行う
27限 53時間 54時間	〃	〃
28限 55時間 56時間	〃	〃
29限 57時間 58時間	〃	〃
30限 59時間 60時間	〃	〃

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ビジネス実務 I		教員名 厨川 久美子	
科目時間数：30時間（15限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択 の 別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年：1 年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 組織の一員として社会性のある行動とは何か、求められる資質とは何かについて考えながら学び、信頼と安心につながる知識並びにソーシャルスキルの基本を身に付けていくことを目標とする。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する ☒ 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 コミュニケーションとビジネスマナーの基本である、信頼につながる基本行動、話し方と聞き方のポイント、特に敬語表現についての知識と理解を深める。また、学生生活において発生する様々な機会実践することにより、「使える力」につなげていく。			
【授業における達成課題】 自らの職業観や勤労観といった概念の形成を前提に、ビジネス常識および、基礎的なコミュニケーションなど将来職業人として身に付けておくべき知識を身に付ける			
【使用教材・テキスト等】 社会で生きる実践ビジネスマナー ウイネット			
【使用教室】 ☒ 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 出席率・授業態度・期末試験にて評価する			
【備 考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 公的機関の事務職			

科目名 ビジネス実務 I		科目時間総数 30時間（15限）	教員名 厨川 久美子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション	コミュニケーション・エクササイズ	
2限 3時間 4時間	〃	授業の位置づけと受講における必要事項を理解する	
3限 5時間 6時間	ビジネスマナーを学習する意義	なぜビジネスマナーが必要なのか	
4限 7時間 8時間	〃	ビジネスマナーの基本 3 原則を学ぶ	
5限 9時間 10時間	コミュニケーションとビジネスマナー	接遇の 5 つの要素の重要性	
6限 11時間 12時間	〃	感じの良い挨拶	
7限 13時間 14時間	〃	立ち振る舞いの基本姿勢	
8限 15時間 16時間	〃	お辞儀の基本	
9限 17時間 18時間	〃	椅子の離着席	
10限 19時間 20時間	〃	ビジネスにふさわしい話し方	
11限 21時間 22時間	話し方と聞き方の基本	ビジネスの場にふさわしい言葉遣い	
12限 23時間 24時間	〃	敬語の種類と必要性	
13限 25時間 26時間	〃	尊敬語、謙譲語の使い方	
14限 27時間 28時間	〃	美化語についての理解	
15限 29時間 30時間	〃	尊敬語、謙譲語の使い方	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ビジネス実務Ⅱ（3年）		教員名 厨川久美子	
科目時間数： 30時間 （15限）		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別：	必修・選択	配当学年： 3年次	開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 1年時の「ビジネス実務Ⅰ」で学習したビジネスマナーの基本や敬語と言葉遣いをベースに、電話応対と来客応対について実践的なビジネス実務力を高めるとともに、それらを支える状況判断力を身に付けることを目標とする			
【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する ② 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 「コミュニケーションとビジネスマナーの基本」の復習とレベルアップ、「敬語と言葉遣い」の復習とレベルアップ、「電話応対の基本と演習」、「来客応対の基本」の学習			
【授業における達成課題】 ・ 電話応対の基本を学び、効果的で好印象の電話応対ができる ・ 来客応対の流れを理解し、それぞれの場面における知識と対応について理解できる ・ 相手との関係性や状況の即した言葉遣いを判断できる			
【使用教材・テキスト等】 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト 日本能率協会マネジメントセンター（1年時購入テキスト）			
【使用教室】 ① HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率10% 期末試験90%			
【備考】 筆記試験は60点以上を合格とする			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 日本産業訓練協会接遇訓練指導者・日本秘書教育学会秘書教育担当者として、教育機関や企業、各種団体を対象とした接遇セミナーでの講師活動			

科目名 ビジネス実務Ⅱ		科目時間総数 30時間 (15限)	教員名 厨川久美子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	オリエンテーション 電話応対	学習内容について理解する 電話応対の意義について理解する	
2限 3時間 4時間	〃 〃	電話の特性を理解する 特性を補うために求められる心構えと工夫について学ぶ	
3限 5時間 6時間	〃 〃	受け方・掛け方の基本について学ぶ	
4限 7時間 8時間	〃 〃	受け方・掛け方の基本が実践できる	
5限 9時間 10時間	〃 〃	名指し人が不在等の場合の応対の基本を学ぶ	
6限 11時間 12時間	〃 〃	不在時の対応について事例研究を行い、状況判断についても考慮に入れながら応用力につなげる	
7限 13時間 14時間	〃 〃	聞き返し方の表現を学ぶ 一方的にならない会話のポイントについて理解する	
8限 15時間 16時間	〃 〃	伝言メモの書き方について学ぶ	
9限 17時間 18時間	〃 〃	受けてから切るまでの一連の流れで応対を完成させることができる	
10限 19時間 20時間	〃 〃	「聴く」ことへの意識を深める	
11限 21時間 22時間	来客応対 〃	来客の受付から最後の片付けまでの一連の流れを理解する	
12限 23時間 24時間	〃 〃	来客受付を実践できる	
13限 25時間 26時間	〃 〃	名刺の取り扱い方について理解する	
14限 27時間 28時間	〃 〃	各場面における誘導の仕方と案内のマナーについて学ぶ 席次のマナーについて学ぶ	
15限 29時間 30時間	〃 〃	茶菓の接待の基本を実践できる	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 就職指導		教員名 西山直輝	
科目時間数： 60時間（30限）		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修	配当学年： 3・4年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 就職活動に向けたマナーの指導や、面接練習を通して企業側が求めている人物像を理解しながら、内定に向けて就職活動を実施していく。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 求人票の見方や履歴書の書き方を学び、自身が希望する就職先を見つける。試験に向け、練習に取り組み内定できるようにする。			
【授業における達成課題】 自らが希望する就職先の採用試験に合格する事を到達点とする。			
【使用教材・テキスト等】 なし			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業態度で評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】			

科目名 就職指導		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 西山直輝
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	業界研究	求職票作成	
2限 3時間 4時間	〃	〃	
3限 5時間 6時間	〃	就職活動の流れについて理解する	
4限 7時間 8時間	〃	〃	
5限 9時間 10時間	〃	〃	
6限 11時間 12時間	〃	〃	
7限 13時間 14時間	〃	求人票の見方と現状の理解	
8限 15時間 16時間	〃	〃	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	〃	〃	
11限 21時間 22時間	〃	履歴書の作成	
12限 23時間 24時間	〃	〃	
13限 25時間 26時間	〃	〃	
14限 27時間 28時間	〃	〃	
15限 29時間 30時間	〃	〃	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16限 31時間 32時間	〃	面接練習（入退室のマナーと模擬面接）
17限 33時間 34時間	〃	〃
18限 35時間 36時間	〃	〃
19限 37時間 38時間	〃	〃
20限 39時間 40時間	〃	〃
21限 41時間 42時間	〃	お礼状の書き方
22限 43時間 44時間	〃	〃
23限 45時間 46時間	〃	〃
24限 47時間 48時間	〃	〃
25限 49時間 50時間	〃	就職前準備として社会人マナーの復習
26限 51時間 52時間	〃	〃
27限 53時間 54時間	〃	〃
28限 55時間 56時間	〃	〃
29限 57時間 58時間	〃	〃
30限 59時間 60時間	〃	〃

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 教養実践科目 I (国語表現)		教員名 山火 禮子	
科目時間数 : 60時間 (30限)		授業の種類 : ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別 : ☒ 必修 ・ 選択	配当学年 : 1 年	開講時期 : ☒ 前期 ・ ☒ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 将来履歴書などにきれいな文字が書けるようになることを目的とする。 (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する ☒ 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 筆順の通りに書くことによって字形整い、線の長短によってバランスの良い文字が書けることを学ぶ。 【授業における達成課題】 学期末テスト及び課題提出により、草書体・楷書体の書き方を取得する。			
	使用教材	出版社	
	上達ペン字・ペン字精習 (上)	日本習字普及協会	
【使用教室】 ☒ 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. ☒ 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 ☒ 1. 筆記試験 2. レポート ☒ 3. 出席 ☒ 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】 評価について：試験の点数、及び出席率を勘案しA (80点以上)、B (79～70点)、C (69～60点)、D (59点以下) の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内容】 教育機関における教師			

科目名 教養実践科目Ⅰ（国語表現）		科目時限総数 60時間 30限	教員名 山火 禮子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	ペン字の学び方	姿勢と執筆法が大切なことを学ぶ	
2限	用具の使い方	ペン字に必要な用具用材を知り、使用方法を学ぶ	
3限	楷書について	楷書の成立を知り、楷書の書き方を学ぶ	
4限	楷書の基本点画	横画、縦画、はらい、はねなどの基本点画を学ぶ	
5限		筆順の通りに書くことによって字形が整うことを知る	
6限	書展鑑賞	日本で生まれた「かな」の作品を鑑賞することによって美意識を養う	
7限	ひらがなの書き方	ひらがなの成り立ちを知り、字形に注意して書く	
8限	ひらがなとカタカナ	カタカナの成立とひらがなの違いを知る	
9限	漢字とかなの調和	幹事は楷書で、かなと調和よく書くことができる	
10限	行書の書き方	行書の成り立ち、楷書との違いが分かる	
11限	行書の基本点画	部首や部分で行書の書き方を会得する	
12限	漢字とかなの調和	漢字を行書で書き、かなと調和よく書く	
13限	楷書と行書	楷書と行書の違いが分かる	
14限	〃	行書の特徴が分かり、書くことができる	
15限	掲示の書き方	フェルトペンを使用しB4サイズの紙に書くことができる	
16限	部分の書き方と名称	プリントに示した楷書の部分の名称を書くことができる	
17限	漢字かな交じり文	漢字を行書でひらがなと調和よく書くことができる	
18限	はがきのあて名	はがきのあて名を文字の大きさや位置に注意して書くことができる	
19限	はがきの本文	〃	
20限	封筒の宛名	〃	
21限	手紙文の書き方	漢字は行書でひらがなと調和よく書くことができる	
22限	年賀状の書き方	筆ペンを利用して手書き文字の良さを知る	
23限	のし袋の書き方	筆ペンを利用して慶弔の書き方ができる	
24限	のし袋横書き	〃	
25限	原稿用紙の書き方	原稿用紙の正しい使い方を知る	
26限	原稿用紙の書き方 （縦）	〃	
27限	実用書式の書き方	一般的な届出書などの書き方を学ぶ	
28限	履歴書の書き方	〃	
29限	〃	〃	
30限	試験	試験	

授業計画表

心理福祉

学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 教養実践科目Ⅱ（文書管理）		教員名 滝沢 淳子	
科目時間数： 30時間（15限）		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択の別： 必修・選択	配当学年： 2年	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 ビジネス文書の基本を理解し、社会で対応できる正確・迅速な文書が書けるよう学習する。 （当該科目が最も関連するDPに○） 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 ビジネス文書の役割である「伝達の機能」を理解し、「正確に」「わかりやすく」「簡潔で」「ムダのない」文書をできるだけ迅速に作成し、職場で役立てることのできる知識を習得する。 【授業における達成課題】 職場で欠かせないビジネス的な文章・文書用語・様式・関連知識などの知識技能の基礎能力を身に付け、実践することができる。			
	使用教材	出版社	
学生用	ビジネス文書実務	早稲田教育出版	
教員用	ビジネス文書実務	早稲田教育出版	
	ビジネス文書実務講義用指導書	〃	
	ビジネス文書検定問題集	〃	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）			
【備考】 実技試験は60点以上を合格とする。 評価について：実技試験の点数及び出席率を勘案し、A（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点医科）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】 公益施設での一般事務職員としての勤務経験			

科目名 教養実践科目Ⅱ（文書管理）		科目時間総数 30時間（15限）限	教員名 滝沢 淳子
時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	オリエンテーション	ビジネス文書能力の必要性について。 授業の進め方、検定受験についての説明。	
2限	ビジネス文書を正しく理解する	ビジネス文書が果たす重要な役割について理解する 伝言メモの作成。箇条書き、要約とメモの演習	
3限		文書作成技能が求められている理由について理解する	
4限	文書の基礎知識	文書化の手順について	
5限		文の成り立ち	
6限		文章の構成について	
7限	ビジネス文書	社外文書・社交文書、社内文書の書き方・演習	
8限		常用漢字、固有名詞、ビジネス用語について	
9限		仮名書きにすべき語句について	
10限	文書関連知識	現代仮名遣いの用い方について	
11限	(分かりやすい文章について)	送り仮名のつけ方、片仮名の書き方、数字の書き表し方	
12限	(礼儀正しい文章)	一般の用語について	
13限		同音異義語と異字同訓語について	
14限		慣用の手紙用語	
15限		二十四節季、時候の挨拶について、頭語と結語、忌みことばについて よじれない文が書ける、類義語を使い分ける 正しく使い分けるための基本 人を指すことば・敬称、脇付けについて理解する 「お・ご（御）」を正しく付けられるよう理解する 動作のことばにつける尊敬語と謙譲語を正しく使うことができるよう理解する 確認試験を行い理解度をチェックする	

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 地域福祉実践		教員名 西山直輝・會津真子	
科目時間数：5時間（22,5限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年：年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 地域に貢献する活動を自ら計画し、実行及び振り返ることで地域福祉を実践的に学ぶ。			
【ディプロマポリシーとの関連】 （当該科目が最も関連するDPに○） 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する ☒ 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 事例の研究、地域貢献活動の企画・実施を行う。また、企画実施後振り返りを行い、報告会にて互いの成果を共有、批評する。			
【授業における達成課題】 地域住民や施設利用者等との交流を通じ、自己理解・他者理解を促し、価値観を尊重できるようになる			
【使用教材・テキスト等】 なし			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業態度にて評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 福祉施設での現場経験			

科目名 地域福祉実践		科目時間総数 45時間（22, 5限）	教員名 西山直輝・會津真子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	課外活動の企画・準備・実行・振り返り	地域住民や施設利用者との交流に向けて企画準備を行う 実施後に振り返りを行い、次回の交流で質を向上させる	
2限 3時間 4時間	〃	〃	
3限 5時間 6時間	〃	〃	
4限 7時間 8時間	〃	〃	
5限 9時間 10時間	〃	〃	
6限 11時間 12時間	〃	〃	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	〃	〃	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	〃	〃	
11限 21時間 22時間	〃	〃	
12限 23時間 24時間	〃	〃	
13限 25時間 26時間	〃	〃	
14限 27時間 28時間	〃	〃	
15限 29時間 30時間	〃	〃	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16限 ^{31時間} 32時間	〃	〃
17限 ^{33時間} 34時間	〃	〃
18限 ^{35時間} 36時間	〃	〃
19限 ^{37時間} 38時間	〃	〃
20限 ^{39時間} 40時間	〃	〃
21限 ^{41時間} 42時間	〃	〃
22限 ^{43時間} 44時間	〃	〃
22.5限 ^{45時間}	〃	〃

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 LHR		教員名 西山直輝・會津真子	
科目時間数：50時間（25限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年：1～4年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 学校生活に必要な連絡事項等や学校行事等の準備を行う			
【ディプロマポリシーとの関連】 （当該科目が最も関連するDPに○） ☒ 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
【授業全体の内容の概要】 学内イベントや特別講義に取り組み、他者と協働して取り組む力を養う			
【授業における達成課題】 クラスメイトの多様な価値観に気づき、尊重できるようになる			
【使用教材・テキスト等】 なし			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業態度にて評価を付ける			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ ☒ 無			
【内 容】			

科目名 LHR		科目時間総数 50時間（25限）	教員名 西山直輝・會津真子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	連絡事項・行事準備等	他者と共に課題に向けて作業を行う	
2限 3時間 4時間	〃	〃	
3限 5時間 6時間	〃	〃	
4限 7時間 8時間	〃	〃	
5限 9時間 10時間	〃	〃	
6限 11時間 12時間	〃	〃	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	〃	〃	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	〃	〃	
11限 21時間 22時間	〃	〃	
12限 23時間 24時間	〃	〃	
13限 25時間 26時間	〃	〃	
14限 27時間 28時間	〃	〃	
15限 29時間 30時間	〃	〃	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16限 31時間 32時間	〃	〃
17限 33時間 34時間	〃	〃
18限 35時間 36時間	〃	〃
19限 37時間 38時間	〃	〃
20限 39時間 40時間	〃	〃
21限 41時間 42時間	〃	〃
22限 43時間 44時間	〃	〃
23限 45時間 46時間	〃	〃
24限 47時間 48時間	〃	〃
25限 49時間 50時間	〃	〃

授業計画表

心理福祉 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 フィールドワーク実践		教員名 西山直輝・會津真子	
科目時間数：60時間（30限）		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☐ 演習 ・ ☐ 実習	
必修・選択の別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年：3～4年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
〔授業の目的・ねらい〕 これまでの課外活動や実習経験を踏まえ、地域貢献や利用者主体の支援について自ら企画し実行する			
〔ディプロマポリシーとの関連〕 （当該科目が最も関連するDPに○） 1. 自己の理解及び他者を理解する力を育成する 2. 創造力・発信力・交渉力・実践力を育成する ☒ 3. あらゆることに対し興味を持ち、チャレンジする力を育成する			
〔授業全体の内容の概要〕 複数回課外活動の機会を提供し、障害の有無に限らずあらゆる年代との交流を通じて、これまでの知識経験を活用してさらなる視点・価値観を広げる			
〔授業における達成課題〕 クラスメイトと協働しながら、対象者に合った企画を考えて提供できるようになる。 その場の状況を考え、臨機応変に対応できるようになる。			
〔使用教材・テキスト等〕 なし			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席率・授業態度にて評価する			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 福祉施設での現場経験			

科目名 フィールドワーク実践		科目時間総数 60時間（30限）	教員名 西山直輝・會津真子
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限 1時間 2時間	課外活動の企画立案・実施・振り返り	地域住民や施設利用者を対象に交流内容の立案・実施・振り返りを行う	
2限 3時間 4時間	〃	〃	
3限 5時間 6時間	〃	〃	
4限 7時間 8時間	〃	〃	
5限 9時間 10時間	〃	〃	
6限 11時間 12時間	〃	〃	
7限 13時間 14時間	〃	〃	
8限 15時間 16時間	〃	〃	
9限 17時間 18時間	〃	〃	
10限 19時間 20時間	〃	〃	
11限 21時間 22時間	〃	〃	
12限 23時間 24時間	〃	〃	
13限 25時間 26時間	〃	〃	
14限 27時間 28時間	〃	〃	
15限 29時間 30時間	〃	〃	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16限 31時間 32時間	〃	〃
17限 33時間 34時間	〃	〃
18限 35時間 36時間	〃	〃
19限 37時間 38時間	〃	〃
20限 39時間 40時間	〃	〃
21限 41時間 42時間	〃	〃
22限 43時間 44時間	〃	〃
23限 45時間 46時間	〃	〃
24限 47時間 48時間	〃	〃
25限 49時間 50時間	〃	〃
26限 51時間 52時間	〃	〃
27限 53時間 54時間	〃	〃
28限 55時間 56時間	〃	〃
29限 57時間 58時間	〃	〃
30限 59時間 60時間	〃	〃